

「法医学活動一覧2020」の表示方法

この活動一覧は、2020年1月1日から12月31日までの期間に、各大学法医学（歯）学教室が発表した論文等を収録した。その内容は原著論文、総説、著書、学会発表、報告、鑑定内訳件数等である。
なお、分類や記載事項は次のとおりとした。

- A. 原著論文等（短報、症例報告等を含む）
- B. 解説、評論、総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費、財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書）
- E. 学会発表（国際、全国、地方の順）
- F. 教育活動（機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外する）
- G. 法医学実務件数（司法解剖、承諾解剖、行政解剖、新法による解剖、モデル事業の解剖、死体検案、その他の鑑定等）

旭川医科大学医学部医学科法医学講座

- A. 1. Horioka K, Tanaka H, Isozaki S, Konishi H, Fujiya M, Okuda K, Asari M, Shiono H, Ogawa K, Shimizu K. Acute Colchicine Poisoning Causes Endotoxemia via the Destruction of Intestinal Barrier Function: The Curative Effect of Endotoxin Prevention in a Murine Model. *Dig Dis Sci*. 2020; 65(1): 132-140.
2. 清水恵子, 奥田勝博, 浅利 優, 塩野 寛, 松原和夫. デートレイプドラッグに関する法医学的公判対応. *犯罪学雑誌*. 2020; 86(1): 22-26.
3. 浅利 優, 奥田勝博, 田中宏樹, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 配列特異的な増幅阻害に基づいた混合試料からのミトコンドリア DNA 型解析. *DNA 多型*. 2020; 28(1): 120-122.
4. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 山田ひろみ, 清水恵子. 急性コルヒチン中毒事例における体液から組織までの徹底コルヒチン分析. *法医学の実際と研究*. 2020; 63: 111-119.
- B. 1. 清水恵子. 【第6回学術集会 特別講演】レイプドラッグと性暴力被害 犯罪と睡眠薬 (GABAA 受容体作動薬) による薬剤性一過性前向健忘. *日本フォレンジック看護学会誌*. 2020; 6(2): 63-80.
- C. 1. 清水恵子: 7 異常環境温度に基づく変化. *死体検案ハンドブック第4版*. 株式会社金芳堂. 2020; p150-173.
2. 清水恵子: III. 医療機関における急性期対応 5. 薬物の証明. *性暴力救援マニュアル 医療にできること*. 株式会社新興医学出版社. 2020; p117-127.
- D. 1. 浅利 優: ミトコンドリア DNA の多型・メチル化に基づいた混合試料の評価と年齢推定. 平成 29 年度~平成 31 年度文部科学省研究費補助金[基盤研究 (C)]. 研究成果報告書. 2020.
- E. 1. 清水恵子, 奥田勝博, 浅利 優, 山田ひろみ, 保科千里, 森 香苗, 難波 亮, 栗屋敏雄, 松原和夫, 塩野 寛. 法医中毒鑑定におけるデータベースの重要性ー野草誤食による急性コルヒチン中毒事例からー. 第 104 次日本法医学会学術全国集会. *日本法医学雑誌*. 2020; 74: p68, 京都.
2. 浅利 優, 奥田勝博, 保科千里, 北村麻奈, 森 香苗, 難波 亮, 塩野 寛, 清水恵子. 配列特異的な増幅阻害に基づいた微量な混合試料からのミトコンドリア DNA 型解析. 第 104 次日本法医学会学術全国集会. *日本法医学雑誌*. 2020; 74: p76, 京都.
3. 奥田勝博, 浅利 優, 難波 亮, 森 香苗, 山田ひろみ, 吉田あやか, 島津雅子, 清水恵子. 洗浄用シンナー吸引事故事例における揮発性有機化合物分析. 第 104 次日本法医学会学術全国集会. *日本法医学雑誌*. 2020; 74: p57, 京都.
4. 堀岡希衣, 田中宏樹, 奥田勝博, 浅利 優, 清水恵子. Acute Colchicine Poisoning Causes Endotoxemia via the Destruction of Intestinal Barrier

- Function. 第 104 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2020; 74: p101, 京都.
5. 浅利 優, 奥田勝博, 清水恵子. 24 座位 DNA 型の確率計算による犯罪捜査への協力. 第 57 回日本犯罪学会総会. 抄録集. 2020; p10, オンライン開催.
 6. 浅利 優, 高橋悠太, 奥田勝博, 塩野 寛, 清水恵子. DNA 鑑定を用いた身元特定における広範囲な血縁者の利用と所属集団の推定. 第 21 回日本法医学会学術北日本地方集会. プログラム・抄録集. 2020; p14, 弘前.
 7. 奥田勝博, 浅利 優, 高橋 悠太, 山田ひろみ, 清水恵子. ジフェンヒドラミン過量服薬事例における薬物分析と考察. 第 21 回日本法医学会学術北日本地方集会. プログラム・抄録集. 2020; p23, 弘前.
 8. 保科千里, 奥田勝博, 浅利 優, 高橋悠太, 森 香苗, 難波 亮, 山田ひろみ, 土井大輝, 清水恵子. SH-SY5Y 細胞と A549 細胞のパラコート毒性に対する感受性の比較. 第 21 回日本法医学会学術北日本地方集会. プログラム・抄録集. 2020; p24, 弘前.
 9. 奥田勝博. ジフェンヒドラミンの分析報告. 第 9 回法医中毒研究会セミナー. 2020; 誌上開催.
- F. 1. 清水恵子: 中毒死・犯罪と薬物. 警部補任用科第 75 期 (刑事課程) 講義. 2020 年 2 月. 札幌.
2. 浅利 優: DNA 鑑定と確率計算. 第 73 期司法修習生選択型実務修習講義. 2020 年 9 月. 旭川.
 3. 清水恵子: 法医学とは. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科 1 年生講義. 2020 年 9 月. 恵庭.
 4. 清水恵子: 法医学教室の事件ファイル～身近な薬毒物ファイル～. 旭川市中央公民館百寿大学講演. 2020 年 10 月. 旭川.
 5. 清水恵子: 犯罪と睡眠薬による一過性前向健忘. 警察大学校専科第 2356 期 (性犯罪捜査) 講義. 2020 年 10 月. 東京.
 6. 清水恵子: 中毒死・犯罪と薬物. 警部補任用科第 76 期 (刑事課程) 講義. 2020 年 11 月. 札幌.
 7. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 北海道東川高等学校「薬物乱用防止教室」講演. 2020 年 11 月. 東川.
 8. 清水恵子: 法医学教室の事件ファイル～身近な薬毒物ファイル～. 東鷹栖百寿大学講演. 2020 年 11 月. 旭川.
 9. 清水恵子: 法医学教室の事件ファイル～身近な薬毒物ファイル～. 愛宕公民館百寿大学講演. 2020 年 12 月. 旭川.
- G. 司法解剖: 241 件, 死因・身元調査法解剖: 3 件, 死体検案: 204 件, その他の鑑定: 116 件 (生体検査: 4 件, 物体検査: 16 件, 書類鑑定: 96 件), 戦没者遺骨 DNA 鑑定.

「法医学活動一覧2019」の表示方法

- A. 原著論文等（短報、症例報告等を含む）
- B. 解説、評論、総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費、財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書）
- E. 学会発表（国際、全国、地方の順）
- F. 教育活動（貴機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外）
- G. 法医実務件数（司法解剖、承諾解剖、行政解剖、死因身元調査法による解剖、モデル事業の解剖、死体検案、その他の鑑定等）

- A. 1. Asari M, Isozaki S, Hoshina C, Okuda K, Tanaka H, Horioka K, Shiono H, Shimizu K. Discrimination of haplotype in mitochondrial DNA mixtures using LNA-mediated PCR clamping. *Forensic Sci Int Genet.* 2019; 41: 58-63.
2. Horioka K, Tanaka H, Isozaki S, Okuda K, Asari M, Shiono H, Ogawa K, Shimizu K. Hypothermia-induced activation of the splenic platelet pool as a risk factor for thrombotic disease in a mouse model. *J Thromb Haemost.* 2019; 17(10): 1762-1771.
3. Tanaka H, Horioka K, Yamamoto M, Asari M, Okuda K, Yamazaki K, Shimizu K, Ogawa K. Overproduction of thrombopoietin by BRAFV600E-mutated mouse hepatocytes and contribution of thrombopoietin to hepatocarcinogenesis. *Cancer Sci.* 2019; 110(9): 2748-2759.
4. Kojima H, Takeuchi S, Sanoh S, Okuda K, Kitamura S, Uramaru N, Sugihara K, Yoshinari K. Profiling of bisphenol A and eight of its analogues on transcriptional activity via human nuclear receptors. *Toxicology.* 2019; 413: 48-55.
5. Hirao-Suzuki M, Takeda S, Okuda K, Takiguchi M, Yoshihara S. Repeated exposure to 4-methyl-2,4-bis(4-hydroxyphenyl)pent-1-ene (MBP), an active metabolite of bisphenol A, aggressively stimulates breast cancer cell growth in an estrogen receptor β (ER β)-dependent manner. *Mol Pharmacol.* 2019; 95: 260-268.
6. 奥田勝博, 浅利 優, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. 睡眠薬を用いた準強制性交等罪立証における一つの問題点—客観証拠保全におけるタイムリミットと一般社会への警告・啓発の重要性—. *犯罪学雑誌.* 2019; 85(3): 78-84.
7. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 山田ひろみ, 浅利 優, 田中宏樹, 堀岡希衣, 松原和夫, 塩野 寛, 清水恵子. 過去 10 年間の中毒統計解析から見えた中毒見逃し防止策. *法医学の実際と研究.* 2019; 62: 179-184.
- B. 1. 三上八郎: 「応招義務」の歴史的考察. *大阪保険医雑誌.* 2019 ; 47(629) : 21-29.
- D. 1. 清水恵子: 危険ドラッグの脳内取込み様式と脳内報酬系における毒性形成機構の神経科学的解明. 平成 28 年度～平成 30 年度文部科学省研究費補助金[基盤研究(C)]. 研究成果報告書. 2019.
- E. 1. Tanaka H. Acute colchicine poisoning causes endotoxemia via the destruction of intestinal barrier function; The curative effect of endotoxin prevention. *The 2nd Wakayama Medical University International Symposium of Forensic Molecular Pathology. Abstract book.* 2019; p22-23, Wakayama, Japan.

2. Okuda K. Asari M. Tanaka H. Hoshina C. Horioka K. Matsubara K. Shiono H. Shimizu K. Psychostimulant actions on neural circuits. Neuroscience 2019. Program. 2019, Chicago, USA.
3. Kojima H. Takeuchi S. Okuda K. Muromoto R. Kishi R. Araki A. Effects of perfluorocarboxylic acids on transcriptional activity via human nuclear receptors and gene expression in human macrophage-like THP-1 cells. 39th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants. Program. 2019, Kyoto, Japan.
4. 磯崎翔太郎, 田中宏樹, 堀越佑一, 中嶋駿介, 堀岡希衣, 奥田勝博, 浅利 優, 藤田 智, 清水恵子. 急性コルヒチン中毒に対する抗エンドトキシン療法の有効性. 第 46 回日本集中治療医学会学術集会. 日本集中治療医学会雑誌. 2019; 京都.
5. 堀岡希衣, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 奥田勝博, 浅利 優, 塩野 寛, 小川勝洋, 清水恵子. Aberrant blood coagulation cascade in the experimental mouse hypothermia model. 第 103 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2019; 73: p62, 仙台.
6. 磯崎翔太郎, 浅利 優, 保科千里, 堀岡希衣, 田中宏樹, 奥田勝博, 塩野 寛, 清水恵子. DNA methylation-based forensic age prediction in Japanese populations using single base extension. 第 103 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2019; 73: p63, 仙台.
7. 輿石佳那, 沖本大河, 金澤風菜, 近藤咲季, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 堀岡希衣, 奥田勝博, 浅利 優, 清水恵子. Association between chronic thyroiditis and depressive symptoms forensic autopsy. 第 103 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2019; 73: p63, 仙台.
8. 浅利 優, 磯崎翔太郎, 保科千里, 奥田勝博, 田中宏樹, 堀岡希衣, 北村麻奈, 島津雅子, 塩野 寛, 清水恵子. PCR クランピング法を用いた混合試料からのミトコンドリア DNA 型解析. 第 103 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2019; 73: p76, 仙台.
9. 田中宏樹, 堀岡希衣, 浅利 優, 奥田勝博, 小川勝洋, 塩野 寛, 清水恵子. エンドトキシン抑制によるコルヒチン中毒の改善. 第 103 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2019; 73: p80, 仙台.
10. 清水恵子, 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 三上八郎, 堀岡希衣, 栗屋敏雄, 塩野 寛, 松原和夫. デートレイプドラッグに関する法医学的公判対応. 第 103 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2019; 73: p85, 仙台.
11. 松原和夫, 奥田勝博, 浅利 優, 磯崎翔太郎, 田中宏樹, 堀岡希衣, 山田ひ

- ろみ, 吉田あやか, 塩野 寛, 清水恵子. ジフェニジンの脳移行および脳内報酬系への作用に対するメカニズム解析. 第 103 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2019; 73: p86, 仙台.
12. 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 本邦未承認薬ブスピロン及びザレプロンを毛髪から検出した一例. 第 38 年会日本法中毒学会. 講演要旨集. 2019; p78, 福岡.
 13. 清水恵子. シンポジウム「デートレイプドラッグの現状と課題」デートレイプドラッグとは. 第 38 年会日本法中毒学会. 講演要旨集. 2019; p32, 福岡.
 14. 田中宏樹, 堀岡希衣, 浅利 優, 奥田勝博, 小川勝洋, 塩野 寛, 清水恵子. エンドトキシン抑制によるコルヒチン中毒の改善. 第 41 回日本中毒学会総会・学術集会. 中毒研究. 2019; p235, 川越.
 15. 奥田勝博, 榎野陽介, 田中宏樹, 堀岡希衣, 浅利 優, 塩野 寛, 清水恵子. 多方面から解析した頭部銃器損傷の一例 -解剖、画像解析、化学分析、組織検査-. 第 56 回日本犯罪学会総会. 抄録集. 2019; p16, 東京.
 16. 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 司法解剖となったジフェンヒドรามイン過量服薬 7 事例におけるジフェンヒドรามインおよびその代謝物の組織分布. 日本薬学会第 139 年会. 要旨集. 2019; p143, 千葉.
 17. 平尾雅代, 竹田修三, 奥田勝博, 滝口益史, 吉原新一. ビスフェノール A の活性代謝物 (MBP) の曝露影響: ER β の活性化を介した乳がん細胞の増殖促進. 日本薬学会第 139 年会. 要旨集. 2019; p187, 千葉.
 18. 今子千鶴, 佐能正剛, 藤野智恵理, 大月佑也, 采 洋太郎, 高木優志, 山頭征岳, 宮良政嗣, 江尻洋子, 奥田勝博, 藤本成明, 河合秀彦, 太田 茂, 古武弥一郎. 神経・肝・心筋細胞の 3 次元培養系の構築とジフェンヒドรามインの毒性評価. 日本薬学会第 139 年会. 要旨集. 2019; p218, 千葉.
 19. 田中宏樹, 堀岡希衣, 長谷部拓夢, 中嶋駿介, 澤田康司, 奥田勝博, 浅利 優, 清水恵子, 小川勝洋. 肝・骨格筋軸にみた脂肪性肝疾患憎悪の機構. 第 108 回日本病理学会総会. 日本病理学会会誌. 2019; p380, 東京.
 20. 堀岡希衣, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 奥田勝博, 浅利 優, 塩野 寛, 小川勝洋, 清水恵子. 低体温症は脾臓血管内皮の vWF 発現を亢進させる. 第 108 回日本病理学会総会. 日本病理学会会誌. 2019; p426, 東京.
 21. 堀岡希衣, 田中宏樹, 奥田勝博, 浅利 優, 塩野 寛, 小川勝洋, 清水恵子. 重度低体温症における血小板動態と血液凝固能異常. 第 2 回日本法医病理学会学術全国集会. プログラム・講演要旨集. 2019; p39, 鹿児島.
 22. 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 危険ドラッグ、ジフェニジンの死亡事例と生体影響評価. 第 46 回日本毒性学会学術年

- 会. J Toxicol Sci. 2019; p79, 徳島.
23. 安部寛子, 奥田勝博, 田中直子, 佐々木千寿子, 小林寛也, 船越丈司, 則竹香菜子, 前橋恭子, 那須亜矢子, 山岸由和, 矢島大介, 小椋康光, 岩瀬博太郎. 法医薬物多施設連携プロジェクト:Drug Screening Method Sharing (DSMS)プロジェクトの紹介. 第46回日本毒性学会学術年会. J Toxicol Sci. 2019; p81, 徳島.
 24. 平尾雅代, 竹田修三, 奥田勝博, 瀧口益史, 吉原新一. ビスフェノール A の活性代謝物 (MBP) による ER β の活性化を介した ER 陽性乳がん細胞の増殖促進. 第46回日本毒性学会学術年会. J Toxicol Sci. 2019; p237, 徳島.
 25. 清水恵子. 特別講演 レイプドラッグと性暴力被害. 日本フォレンジック看護学会第6回学術集会. プログラム. 東京.
 26. 浅利 優, 奥田勝博, 田中宏樹, 堀岡希衣, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. 兄弟姉妹からの試料提供による身元確認のためのDNA鑑定. 第20回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第106回例会). プログラム・抄録集. 2019; p11, 福島.
 27. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 塩野 寛, 北村麻奈, 島津雅子, 清水恵子. 旭川医科大学の法医解剖における中毒事例の統計解析. 第20回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第106回例会). プログラム・抄録集. 2019; p14, 福島.
 28. 樋熊佑香, 大武志帆, 豊田このみ, 奥田勝博, 田中宏樹, 堀岡希衣, 浅利 優, 塩野 寛, 清水恵子. 複数の鑑定方法を用いた銃器損傷における射入口と射出口の鑑別. 第20回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第106回例会). プログラム・抄録集. 2019; p21, 福島.
 29. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 磯崎翔太郎, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 過去10年間に旭川医科大学で法医解剖がなされた中毒事例の統計解析. 第33回日本中毒学会・東日本地方会. プログラム. 2019, 東京.
 30. 奥田勝博, 槇野陽介, 田中宏樹, 堀岡希衣, 浅利 優, 塩野 寛, 清水恵子. 特徴的な胃所見が認められた洗濯用漂白剤の経口摂取事例. 第17回法医画像勉強会. 抄録集. 2019; p8-9 千葉.
 31. 奥田勝博. 「コルヒチン中毒」に関する事例紹介. 第7回法医中毒研究会総会・勉強会. プログラム・抄録集. 2019; 仙台.
- F. 1. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 美瑛町立美馬牛中学校「薬物乱用防止教室」講演. 2019年2月. 美瑛.
2. 田中宏樹: 体を構成する細胞はどんな形?. 市民向け体験型実験実習イベント「わくわくサイエンス」in サイパル〜いのちとからだを見てみよう〜. 2019

年 2 月. 旭川.

3. 清水恵子: 医薬品の犯罪への不法使用 ～デートレイプドラッグ～. 第 72 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2019 年 2 月. 旭川.
4. 浅利 優: DNA 鑑定と確率計算. 第 72 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2019 年 2 月. 旭川.
5. 清水恵子: 中毒死・犯罪と薬物. 警部補任用科第 73 期(刑事過程)講義. 2019 年 3 月. 札幌.
6. 清水恵子: 法医学とは. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科 1 年生講義. 2019 年 6 月. 恵庭.
7. 清水恵子: 犯罪と睡眠薬による一過性前向健忘. 新潟県警察本部性犯罪捜査専科講義. 2019 年 6 月. 新潟.
8. 浅利 優: DNA 鑑定を用いた犯罪捜査への協力. 北海道警察医会旭川方面支部総会講演. 2019 年 6 月. 旭川.
9. 清水恵子: 犯罪と睡眠薬による一過性前向健忘. 北海道警察旭川方面本部性犯罪指定捜査員教養講義. 2019 年 8 月. 旭川.
10. 清水恵子: 窒息他. 北海道警察学校検視専科(第 16 期)講義. 2019 年 9 月. 札幌.
11. 塩野 寛: 死体の視かた他. 北海道警察学校検視専科(第 16 期)講義. 2019 年 9 月. 札幌.
12. 清水恵子: 異常環境死. 令和元年度 日本医師会死体検案研修会(上級)講義. 2019 年 9 月. 東京.
13. 清水恵子: 中毒死・犯罪と薬物. 警部補任用科第 74 期(刑事過程)講義. 2019 年 10 月. 札幌.
14. 清水恵子: 異常環境死. 令和元年度 日本医師会死体検案研修会(上級)講義. 2019 年 10 月. 福岡.
15. 清水恵子: 犯罪と睡眠薬による一過性前向健忘. 性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖(通称 SATOCO)第 2 回研修会講演. 2019 年 10 月. 彦根.
16. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 北海道旭川西高等学校「薬物乱用防止講話」講演. 2019 年 11 月. 旭川.
17. 清水恵子: 法医学教室の事件ファイル ～身近な薬毒物ファイル～. 旭川市東鷹栖公民館しのめ百寿大学講演. 2019 年 11 月. 旭川.
18. 清水恵子: ー中毒死・犯罪と薬物ー. 全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演. 2019 年 11 月. 札幌.
19. 浅利 優: 確率計算を用いた DNA 鑑定の解釈. 全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演. 2019 年 11 月. 札幌.
20. 塩野 寛: おわりに ～検視の心得～. 全道検視官会議及び札幌方面法医研

修会講演. 2019年11月. 札幌.

21. 清水恵子: レイプドラッグとして医薬品を不正使用する性的人権侵害 ～犯罪と睡眠薬 (GABA_A受容体作動薬) による薬剤性一過性前向健忘～. 性暴力被害者診療支援看護職養成講座講演. 2019年12月. 札幌.
 22. 清水恵子: 犯罪と睡眠薬による一過性前向健忘. 警察大学校専科第2307期(性犯罪捜査) 講義. 2019年12月. 東京.
- G. 司法解剖: 252件, 死因・身元調査法解剖: 9件, 死体検案: 176件, その他の鑑定: 58件 (生体検査: 3件, 物体検査: 4件, 書類鑑定: 74件), 戦没者遺骨DNA鑑定.

「法医学活動一覧2018」の表示方法

- A. 原著論文等（短報、症例報告等を含む）
- B. 解説、評論、総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費、財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書）
- E. 学会発表（国際、全国、地方の順）
- F. 教育活動（機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外する）
- G. 法医実務件数（司法解剖、承諾解剖、行政解剖、新法による解剖、モデル事業の解剖、死体検案、その他の鑑定等）

- A. 1. Tanaka H, Okuda K, Ohtani S, Asari M, Horioka K, Isozaki S, Hayakawa A, Ogawa K, Shiono H, Shimizu K. Chained nuclei and python pattern in skeletal muscle cells as histological markers for electrical injury. *Leg Med (Tokyo)*. 2018; 32: 75-78.
2. Hoshina C, Omura T, Okuda K, Tanaka H, Asari M, Isozaki S, Horioka K, Yamada H, Doi H, Shiono H, Matsubara K, Shimizu K. Paraquat toxicity is attenuated by 4-phenylbutyrate-induced phosphorylation of ERK2 via PI3K in A549 cells. *BBRC*. 2018; 503: 809-814.
3. Asari M, Matsuura H, Isozaki S, Hoshina C, Okuda K, Tanaka H, Horioka K, Shiono H, Shimizu K. Assessment of DNA degradation of buccal cells under humid conditions and DNA repair by DOP-PCR using locked nucleic acids. *Leg Med (Tokyo)*. 2018; 35: 29-33.
4. Ohtani S, Tanaka H, Asari M, Okuda K, Yamada H, Horioka K, Shiono H, Shimizu K. Identification of skin dander keratinocytes in lung tissue in bathtub drowning cases using anti-keratin monoclonal antibodies. *法医病理*. 2018; 24(2): 155-160.
5. Takaoka N, Sanoh S, Okuda K, Kotake Y, Sugahara G, Yanagi A, Ishida Y, Tateno C, Tayama Y, Sugihara K, Kitamura S, Kurosaki M, Terao M, Garattini E, Ohta S. Inhibitory effects of drugs on the metabolic activity of mouse and human aldehyde oxidases and influence on drug-drug interactions. *Biochem Pharmacol*. 2018; 154, 28-38.
6. Hanaoka S, Ishida K, Tanaka S, Sakamoto S, Okuda K, Sanoh S, Ohta S, Kotake Y. Tributyltin induces epigenetic changes and decreases the expression of nuclear respiratory factor-1. *Metallomics*. 2018; 10, 337-347.
7. 浅利 優, 奥田勝博, 田中宏樹, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 胃内容物からの有毒植物イヌサフランの識別と酸性条件下での DNA 分解. *DNA 多型*. 2018; 26(1): 74-76.
8. 磯崎翔太郎, 浅利 優, 松浦宏晃, 栗山宗弘, 保科千里, 堀岡希衣, 田中宏樹, 奥田勝博, 塩野 寛, 清水恵子. 落水事故により行方不明となっていたインドネシア人の個人識別 1 例. *法医学の実際と研究*. 2018; 61: 155-157.
9. 新田麻子, 荒川穰二, 山蔭道明, 清水恵子. 縦隔気腫および急性食道粘膜病変を呈した急性カフェイン中毒の 1 例. *日救急医学会誌*. 2018; 29: 196-201.
- C. 1. 清水恵子, 奥田勝博: 頸椎骨折. *Autopsy imaging 症例集 第 2 卷*. 東京: ベクトル・コア; 2018; p34-37.
- D. 1. 奥田勝博: フォールディング異常症治療薬を目指した化学シャペロンの構造活性相

- 関研究. 平成 27 年度～平成 29 年度文部科学省研究費補助金[基盤研究 (C)]. 研究成果報告書. 2018.
2. 田中宏樹: 肝・骨格筋軸に着目した脂肪性肝炎の新規治療薬開発. 平成 29 年度 AMED 橋渡し研究戦略的推進プログラムシーズ A. 研究成果報告書. 2018.
 3. 田中宏樹: コルヒチンは腸管バリア機能を破壊しエンドトキシンショックを引き起こす. 公益財団法人伊藤医薬学術交流財団海外学会等出席研究交流助成. 研究成果報告書. 2018.
 4. 堀岡希衣: コルヒチン中毒死における血中エンドトキシン測定の法医学的意義. 平成 29 年度文部科学省科学研究費助成事業 (奨励研究). 研究成果報告書. 2018.
 5. 一杉正仁, 清水恵子, 古宮淳一: 剖検例を用いた高齢者と若年者の胸部損傷形態の比較. 平成 29 年度救急医療および交通科学的視点からみた高齢者交通事故に関する研究. (一般社団法人) 日本自動車工業会委託研究報告書. 2018; 1-8.
- E. 1. Asari M, Okuda K, Tanaka H, Omura T, Isozaki S, Yamada H, Matsubara K, Shiono H, Shimizu K. The usefulness of 21 autosomal short tandem repeat loci in paternity and sibling analysis. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM). Jpn J Legal Med. 2018; 72(1): p111, Fukuoka, Japan.
2. Tanaka H, Horioka K, Isozaki S, Okuda K, Asari M, Kitamura A, Ogawa K, Shiono H, Shimizu K. Colchicine destroys the intestinal barrier function and induces endotoxin shock. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM). Jpn J Legal Med. 2018; 72(1): p126, Fukuoka, Japan.
 3. Horioka K, Tanaka H, Okuda K, Asari M, Isozaki S, Ogawa K, Shiono H, Shimizu K. Activation of platelets in the splenic red pulp induced by hypothermia. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM). Jpn J Legal Med. 2018; 72(1): p126, Fukuoka, Japan.
 4. Hoshina C, Okuda K, Tanaka H, Omura T, Horioka K, Asari M, Shiono H, Matsubara K, Shimizu K. Paraquat cytotoxicity is prevented by 4-phenylbutyrate-induced phosphorylation of ERK2 in A549 cells. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM). Jpn J Legal Med. 2018; 72(1): p172, Fukuoka, Japan.
 5. Okuda K, Asari M, Tanaka H, Isozaki S, Yamada H, Horioka K, Yoshida A, Matsubara K, Shiono H, Shimizu K. Mechanistic study of diphenidine, a new psychoactive substance, for the neurochemical effect by using rat brain microdialysis. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM). Jpn J Legal Med. 2018; 72(1): p178, Fukuoka, Japan.
 6. Okuda K, Shimizu K. Introduction of the Drug Screening Method Sharing (DSMS) project for investigating the cause of death in Japanese forensic autopsy.

- 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM). Jpn J Legal Med. 2018; 72(1): p178, Fukuoka, Japan.
7. Tanaka H, Horioka K, Isozaki S, Okuda K, Asari M, Ogawa K, Shiono H, Shimizu K. Destruction of the intestinal barrier function and endotoxin shock induced by Colchicine poisoning. 20th Nordic Conference on Forensic Medicine. Abstract_book. 2018, Helsinki, Finland.
 8. Horioka K, Tanaka H, Okuda K, Asari M, Ogawa K, Shiono H, Shimizu K. Activation of intra-splenic platelets as a pathologic feature during deep hypothermia. 20th Nordic Conference on Forensic Medicine. Abstract_book. 2018, Helsinki, Finland.
 9. Tanaka H, Horioka K, Yamamoto M, Asari M, Okuda K, Ohtani S, Yamazaki K, Shimizu K, Ogawa K. Podoplanin expression in Kupffer cells and platelet deposition on the hepatic sinusoidal cells in the liver of transgenic mice with a hepatocyte-specific human. American Association for Cancer Research (AACR) Annual meeting 2018. Abstracts. Chicago, USA.
 10. Kojima H, Okuda K, Uramaru N, Kitamura S, Takeuchi S, Muromoto R, Sugihara K, Kishi R, Araki A. In vitro and in silico studies on PPAR α/γ and PXR activation by di-(2-ethylhexyl) phthalate and its metabolites. Conference of the International Society for Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science-Asia Chapter 2018 (ISEE/ES AC 2018). Abstracts book. Taipei, Taiwan.
 11. Takeuchi S, Okuda K, Sugihara K, Kojima H. Effects of essential oil constituents on in vitro transcriptional activity via estrogen and androgen receptors, and in an in silico molecular docking study. Conference of the International Society for Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science-Asia Chapter 2018 (ISEE/ES AC 2018). Abstracts book. Taipei, Taiwan.
 12. 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 火災関連事例における燃焼生成ガス中毒の判定について. 日本法中毒学会第 37 年会. 講演要旨集. 2018; p80, 東京.
 13. 須山翔太, 佐能正剛, 梅原祥太, 奥田勝博, 太田 茂, 古武弥一郎. 合成したフェネチルアミン誘導体の薬理評価および構造毒性相関に関する研究. 日本法中毒学会第 37 年会. 講演要旨集. 2018; p87, 東京.
 14. 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 洗濯用液体洗剤の多飲により界面活性剤中毒を疑った医薬品中毒死事例. 第 40 回日本中毒学会総会・学術集会. 中毒研究. 2018; 31 (2) : p253, 大阪.

15. 奥田勝博, 高倉彩華, 田中直子, 佐々木千寿子, 矢島大介, 林 徳多郎, 小林寛也, 安部寛子, 船越丈司, 則竹香菜子, 前橋恭子, 那須亜矢子, 清水恵子. DSMS プロジェクトにおける薬物分析の品質管理に向けたブラインドテスト実施報告 (2018) . 日本法科学技術学会第 24 回学術集会. 日本法科学技術学会誌. 2018; 23: p51, 東京.
16. 堀越佑一, 清水恵子, 中嶋駿介, 丹保亜希仁, 藤田 智. 旭川医科大学での法医解剖における外因死の頸椎骨折事例の検討. 第 21 回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 日本臨床救急医学会雑誌. 2018; 21: p364, 名古屋.
17. 浅利 優, 松浦宏晃, 保科千里, 磯崎翔太郎, 奥田勝博, 田中宏樹, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 高湿度条件における口腔内細胞の DNA 分解と DOP-PCR による DNA 修復. 日本 DNA 多型学会第 27 回学術集会. 抄録集. 2018; p96, 松江.
18. 田中宏樹. 肝腫瘍内の類洞内に見られる血小板沈着. 第 64 回日本病理学会秋期特別総会. プログラム・抄録集. 2018; p39, 広島.
19. 堀岡希衣. 重度低体温症では脾臓において血小板活性化が誘導される. 第 64 回日本病理学会秋期特別総会. プログラム・抄録集. 2018; p37, 広島.
20. 磯崎翔太郎, 奥田勝博, 堀岡希衣, 山田ひろみ, 田中宏樹, 浅利 優, 槇野陽介, 矢島大介, 松原和夫, 小川勝洋, 塩野 寛, 清水恵子. 検案時に病死と診断された急性中毒死二例. 第 19 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 105 回例会) . プログラム・抄録集. 2018; p31, 旭川.
21. 山田ひろみ, 保科千里, 北村麻奈, 吉田あやか, 島津雅子, 土井大輝, 堀岡希衣, 浅利 優, 奥田勝博, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 塩野 寛, 清水恵子. 法医学講座を支える人々 — 役割分担とチームワーク —. 第 19 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 105 回例会) . プログラム・抄録集. 2018; p34, 旭川.
22. 浅利 優, 磯崎翔太郎, 奥田勝博, 田中宏樹, 堀岡希衣, 大村友博, 松原和夫, 塩野 寛, 清水恵子. DNA 型データベース照合により候補となった身元不明死体の個人識別. 第 19 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 105 回例会) . プログラム・抄録集. 2018; p35, 旭川.
23. 堀岡希衣, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 奥田勝博, 浅利 優, 小川勝洋, 塩野 寛, 清水恵子. エンドトキシン抑制によるコルヒチン中毒の改善. 第 19 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 105 回例会) . プログラム・抄録集. 2018; p37, 旭川.
24. 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 乱用薬物スクリーニングキット 3 種と LC-MS/MS 分析の結果に矛盾が生じた 4 事例. 第 19 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 105 回例会) . プログラム・抄録集. 2018; p43, 旭川.
25. 奥田勝博, 船越丈司, 則竹香菜子, 田中直子, 高倉彩華, 佐々木千寿子, 前橋恭

- 子, 林 徳多郎, 安部寛子, 那須亜矢子, 上村公一, 木下博之, 佐藤文子, 岩楯公晴, 浅村英樹, 岩瀬博太郎, 井濱容子, 清水恵子. 法医解剖における中毒統計調査に向けた薬物分析連携プロジェクト (DSMS : Drug Screening Method Sharing Project) の紹介. 第 32 回日本中毒学会東日本地方会. プログラム・抄録集. 2018; p29, 山形.
26. 田中宏樹, 堀岡希衣, 浅利 優, 奥田勝博, 小川勝洋, 塩野 寛, 清水恵子. コルヒチンによる腸管バリア機能の破壊. 第 32 回日本中毒学会東日本地方会. プログラム・抄録集. 2018; p35, 山形.
27. 奥田勝博, 槇野陽介, 横大路智治, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. 死後 CT における消化管内高吸収の起因物質についての検討. 第 14 回法医画像勉強会. プログラム・抄録集. 2018; 長崎.
28. 清水恵子. 犯罪と睡眠薬 (GABA_A 受容体作動薬) による一過性前向健忘 — 日本のレイプドラッグについて — . 日本法医病理学会ランチョンセミナー. 抄録集. 2018; 福岡.
- F. 1. 清水恵子: レイプドラッグとして医薬品を不正使用する人権侵害 ～ 犯罪と睡眠薬 (GABA_A 受容体作動薬) による一過性前向健忘 ～. 第 71 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2018 年 2 月. 旭川.
2. 浅利 優: DNA 鑑定と確率計算. 第 71 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2018 年 2 月. 旭川.
3. 清水恵子: 中毒死・犯罪と薬物. 警部補任用科第 71 期 (刑事課程) 講義. 2018 年 3 月. 札幌.
4. 田中宏樹: 分子生物学, 病理検査学演習, 医学英語, 臨床化学実習, 臨床検査学基礎実習 II. 学校法人緑蔭会北海道医学技術専門学校講義. 2018 年 4～12 月. 旭川.
5. 清水恵子: レイプドラッグとして医薬品を不正使用する性的人権侵害 ～ 犯罪と睡眠薬 (GABA_A 受容体作動薬) による一過性前向健忘 ～. 群馬県警察本部性犯罪女性捜査員研修会講演. 2018 年 5 月. 前橋.
6. 清水恵子: 法医学教室の事件ファイル～身近な薬毒物事件～・在宅多死社会の未来. 北海道警察医会旭川方面支部総会講演. 2018 年 6 月. 旭川.
7. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 北海道旭川東高等学校「薬物乱用防止教室」講演. 2018 年 6 月. 旭川.
8. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 茨城県立大洗高等学校「薬物乱用防止講話」講演. 2018 年 6 月. 大洗.
9. 清水恵子: レイプドラッグとして医薬品を不正使用する性的人権侵害～ 犯罪と睡眠薬 (GABA_A 受容体作動薬) による薬剤性一過性前向健忘 ～. 性暴力被害者診療支援看護職養成講座講演. 2018 年 7 月. 札幌.

10. 清水恵子：法医学ってな～に？. 旭川市神楽公民館 緑が丘百寿大学講座講演. 2018年7月. 旭川.
 11. 清水恵子：法医学とは. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科1年生講義. 2018年6・7月. 恵庭.
 12. 清水恵子：レイプドラッグとして医薬品を不正使用する性的人権侵害 ～犯罪と睡眠薬 (GABA_A受容体作動薬) による薬剤性一過性前向健忘～. 大分県警察本部強行犯捜査専科講義. 2018年9月. 大分.
 13. 奥田勝博：依存性薬物の怖さを知ろう. 北海道富良野緑峰高等学校「薬物乱用防止教室」講演. 2018年9月. 富良野.
 14. 清水恵子：性暴力被害者の声はなぜ社会に届かないか. 札幌弁護士会「#metooを考える緊急フォーラム」パネルディスカッション. 2018年10月. 札幌.
 15. 磯崎翔太郎：法医解剖医という仕事. 茨城県立日立第一高等学校ホームルームセミナー講演. 2018年10月. 日立.
 16. 清水恵子：睡眠薬の不法使用 ～レイプドラッグと薬剤性一過性前向健忘～. 北海道警察医会総会特別講演. 2018年10月. 札幌.
 17. 清水恵子：睡眠薬の不法使用 –レイプドラッグと薬剤性一過性前向健忘–. 和歌山県警察検案医師会研修会講演. 2018年11月. 和歌山.
 18. 清水恵子：法医学教室の事件ファイル 2018. 全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演. 2018年11月. 札幌.
 19. 清水恵子：死体現象と死後経過時間推定. 平成30年度 日本医師会死体検案研修会（上級）講義. 2018年11月. 大阪.
 20. 清水恵子：－中毒死・犯罪と薬物－. 警部補任用科第72期講義（刑事課程）. 2018年12月. 札幌.
 21. 清水恵子：犯罪と睡眠薬による一過性前向健忘. 警察大学校専科第2262期（性犯罪捜査）講義. 2018年12月. 東京.
- G. 司法解剖：200件，死因・身元調査法解剖：10件，死体検案：157件，その他の鑑定：62件（生体検査：13件，物体検査：9件，書類鑑定：40件），戦没者遺骨DNA鑑定.

「法医学活動一覧2017」の表示方法

- A. 原著論文等（短報、症例報告等を含む）
- B. 解説、評論、総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費、財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書）
- E. 学会発表（国際、全国、地方の順）
- F. 教育活動（機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外する）
- G. 法医実務件数（司法解剖、承諾解剖、行政解剖、新法による解剖、モデル事業の解剖、死体検案、その他の鑑定等）

- A. 1. Maseda C, Hayakawa A, Okuda K, Asari M, Tanaka H, Yamada H, Jin S, Horioka K, Matoba K, Shiono H, Matsubara K, Shimizu K. Liquid chromatography-tandem mass spectrometry method for the determination of thiosulfate in human blood and urine as an indicator of hydrogen sulfide poisoning. *Leg Med (Tokyo)*. 2017; 24: 67-74.
2. Yamamoto M, Tanaka H, Xin B, Nishikawa Y, Yamazaki K, Shimizu K, Ogawa K. Role of the BrafV637E mutation in hepatocarcinogenesis induced by treatment with diethylnitrosamine in neonatal B6C3F1 mice. *Mol Carcinog*. 2017; 56: 478-488.
3. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 田中宏樹, 矢島大介, 槇野陽介, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 松原和夫, 塩野 寛, 清水恵子. 旭川医科大学法医学講座の薬毒物スクリーニングの実際と死因究明に薬毒物検査が決め手となったジフェンヒドラミン中毒3事例. *法医学の実際と研究*. 2017; 60: 9-15.
4. 山田ひろみ, 浅利 優, 奥田勝博, 田中宏樹, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. プラנקトン検査における壊機法の改良. *法医学の実際と研究*. 2017; 60: 17-20.
- B. 1. 清水恵子, 浅利 優, 奥田勝博, 田中宏樹, 塩野 寛, 松原和夫. 犯罪と睡眠薬 (GABA_A 受容体作動薬) による一過性前向健忘. *法医病理*. 2017; 23(1): 11-19.
- C. 1. 清水恵子: 第1章 医療倫理と法—医師のあるべき姿, 守るべきこと—. Case4 治験審査委員会・倫理審査委員会<IRB>. Case15 GCP<医薬品の臨床試験実施の基準>. 第2章 社会問題と法医学—事故や傷害を予防するために—. Case20 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律<配偶者暴力防止法>. 第4章 外因死の診断と発生機序の解明—外傷学を学ぶ—. Case39 低温・高温環境による疾患. 第5章 中毒. 臨床事例で学ぶ 医療倫理・法医学. 東京:テコム; 2017; p8-10, 30-34, 47-48, 92-93, 98-108.
2. 清水恵子: 中毒. 臨床法医学入門—コメディカルにも役立つ虐待・性犯罪・薬物対応の基礎知識. 東京: 明石書店; 2017; p131-174.
- D. 1. 一杉正仁, 清水恵子, 古宮淳一: 剖検例を用いた高齢者と若年者の胸部損傷形態の比較. 平成28年度交通科学的見地からみた事故防止に関する研究. (一般社団法人) 日本自動車工業会委託研究報告書. 2017; 57-66.
- E. 1. Tanaka H, Horioka K, Hayakawa A, Isozaki S, Ohtani S, Okuda K, Asari M, Ogawa K, Shiono H, Shimizu K. Colchicine destroys the intestinal barrier function and induces endotoxin shock. 21st Meeting of the International Association of Forensic Sciences 2017. Abstracts. 2017; Toronto, Canada.

2. Tanaka H, Ohtani S, Okuda K, Asari M, Horioka K, Isozaki S, Hayakawa A, Ogawa K, Shiono H, Shimizu K. Chained nuclei caused by electric current and a python pattern caused by joule heat in skeletal muscle cells as histological markers for electrical injury. 10th International Symposium Advances in Legal Medicine. Abstracts. 2017; Dusseldorf, Germany.
3. Okuda K, Tanaka H, Asari M, Horioka K, Matsubara K, Shiono H, Shimizu K. Evaluation of the neurochemical effects of diphenidine, a new psychoactive substance, on the dopaminergic reward system by using rat brain microdialysis. Neuroscience 2017. Abstracts. 2017; Washington, D. C., USA.
4. 田中宏樹, 堀岡希衣, 早川 輝, 磯崎翔太郎, 山田ひろみ, 大谷静治, 北村麻奈, 小川勝洋, 塩野 寛, 清水恵子. コルヒチンは腸管バリア機能を破綻させエンドトキシンショックを引き起こす. 第 101 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2017; 71: p58, 岐阜.
5. 奥田勝博, 田中宏樹, 浅利 優, 堀岡希衣, 早川 輝, 磯崎翔太郎, 吉田あやか, 松原和夫, 塩野 寛, 清水恵子. ラット脳マイクロダイアリスによるジフェニジンの脳内報酬系への影響評価. 第 101 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2017; 71: p65, 岐阜.
6. 松原和夫, 清水恵子, 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 堀岡希衣, 栗屋敏雄, 磯崎翔太郎, 早川 輝, 塩野 寛. 国内未承認睡眠薬のデートレイプドラッグとしての使用. 第 101 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2017; 71: p101, 岐阜.
7. 大村友博, 保科千里, 奥田勝博, 田中宏樹, 磯崎翔太郎, 早川 輝, 浅利 優, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. 4-フェニル酪酸と抗酸化剤のパラコート毒性に対する細胞保護メカニズムの比較. 第 101 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2017; 71: p98, 岐阜.
8. 松浦宏晃, 浅利 優, 保科千里, 奥田勝博, 田中宏樹, 北村麻奈, 大村友博, 松原和夫, 塩野 寛, 清水恵子. 高湿度条件における口腔内細胞の DNA 分解. 第 101 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2017; 71: p80, 岐阜.
9. 奥田勝博, 槇野陽介, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 服薬から窒息死に至る事件経過を代謝物分析と組織分布から推定した 2 事例. 日本法中毒学会第 36 年会. 講演要旨集. 2017; p59, 東京.
10. 奥田勝博, 槇野陽介, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 塩野 寛, 清水恵子. 火災事例における青酸定量の重要性—工場火災の 2 事例から— . 第 39 回日本中毒学会総会・学術集会. 中毒研究. 2017;30(2): p170, つくば.

11. 林 徳多郎, 奥田勝博, 高倉彩華, 田中直子, 佐々木千寿子, 安部寛子, 船越丈司, 則竹香菜子, 前橋恭子, 那須亜矢子, 浅村英樹. 法医解剖における中毒統計調査に向けた薬物スクリーニングメソッド構築の取り組み. 日本法科学技術学会第 23 回学術集会. 日本法科学技術学会誌. 2017; 22: p29, 東京.
12. 新田麻子, 荒川穰二, 星 友絵, 汲田 翔, 赤塚正幸, 室内健志, 岡崎加代子, 山蔭道明, 清水恵子. 重症食道炎を呈したが、救命しえた急性カフェイン中毒の 1 例. 第 20 回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 日本臨床救急医学会雑誌. 2017; 20: p438, 東京.
13. 田中宏樹, 堀岡希衣, 浅利 優, 奥田勝博, 小川勝洋, 塩野 寛, 清水恵子. 腸管バリア機能に着目したコルヒチン中毒の病態解析. 第 24 回法医病理セミナー兼第 1 回和歌山県立医科大学国際シンポジウム-法医分子病理学-. 抄録集. 2017; p16, 和歌山.
14. 清水恵子, 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 保科千里, 土井大輝, 磯崎翔太郎, 塩野 寛, 松原和夫. レイプドラッグに関する警告・啓蒙活動への取り組み-睡眠薬を用いた準強制性交等罪事案-. 第 18 回日本法医学会学術北日本地方集会(法医学談話会第 104 回例会). プログラム・抄録集. 2017; p35, 盛岡.
15. 奥田勝博, 槇野陽介, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 磯崎翔太郎, 塩野 寛, 清水恵子. ビニール袋による窒息 2 事例における詳細な薬物分析と薬物動態学的考察. 第 18 回日本法医学会学術北日本地方集会(法医学談話会第 104 回例会). プログラム・抄録集. 2017; p34, 盛岡.
16. 堀岡希衣, 田中宏樹, 奥田勝博, 浅利 優, 小川勝洋, 塩野 寛, 清水恵子. マウス低体温モデルにおける血小板動態の変化. 第 18 回日本法医学会学術北日本地方集会(法医学談話会第 104 回例会). プログラム・抄録集. 2017; p18, 盛岡.
17. 前橋恭子, 安部寛子, 奥田勝博, 船越丈司, 則竹香菜子, 田中直子, 高倉彩華, 佐々木千寿子, 林 徳多郎, 那須亜矢子, 岩瀬博太郎, 清水恵子, 上村公一, 木下博之, 佐藤文子, 浅村英樹, 井濱容子, 岩楯公晴. 法医解剖における中毒統計調査に向けた薬物分析連携プロジェクト(DSMS: Drug Screening Method Sharing Project) の紹介. 第 64 回日本法医学会学術近畿地方集会. 講演要旨集. 2017, 和歌山.
18. 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 堀岡希衣, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 保科千里, 土井大輝, 磯崎翔太郎, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. 睡眠薬による一過性前向健忘と犯罪 -GABA_A 受容体作動薬のレイプドラッグとしての不法使用-. 第 67 回日本法医学会学術九州地方集会. 抄

録集. 2017; p20, 那覇.

19. 那須亜矢子, 安部寛子, 前橋恭子, 奥田勝博, 船越丈司, 則竹香菜子, 田中直子, 高倉彩華, 佐々木千寿子, 林 徳多郎, 岩瀬博太郎, 岩楯公晴, 清水恵子, 上村公一, 木下博之, 佐藤文子, 浅村英樹, 井濱容子. 薬物分析連携プロジェクトの取組みと今後の課題. 第 67 回日本法医学会学術九州地方集会. 抄録集. 2017; p18, 那覇.
 20. 磯崎翔太郎, 大道寺洋頭, 奈良場 啓, 福田直到, 園生智弘, 徳永蔵人, 槇野陽介, 清水恵子, 中村謙介. 内外因死の判断に苦慮した転落外傷の一症例. 第 12 回法医学画像勉強会. プログラム・抄録集. 2017; 東京.
 21. 奥田勝博. 剖検試料の採取から分析・結果報告、そして試料保管・廃棄まで～旭川医科大学の薬毒物分析業務の実際～. 第 6 回法医学中毒研究会セミナー. 抄録集. 2017; 大阪.
- F. 1. 清水恵子: 法医学ってな～に? 旭川市東光公民館 百寿大学講座. 2017 年 1 月. 旭川.
2. 清水恵子: 医薬品の犯罪への不正使用. 第 70 期司法修習生分野別検察実務修習. 2017 年 2 月. 旭川.
 3. 塩野 寛: DNA 多型と個人識別—72 億分の 1 の識別は可能か—. 第 70 期司法修習生分野別検察実務修習. 2017 年 2 月. 旭川.
 4. 堀岡希衣: 検査から紐解く法医学. 道北臨床検査技師会 定期総会 特別講演会. 2017 年 4 月. 旭川.
 5. 清水恵子: 法医学教室の事件ファイル —身近な薬物毒物事件—. 北海道女性医師の会総会. 2017 年 4 月. 札幌.
 6. 清水恵子: Drug Facilitated Sexual Assault (DFSA) について ～レイプドラッグとして医薬品を不法使用する性的人権侵害～. 性暴力救援センター全国連絡会 第 4 回全国研修会. 2017 年 4 月. 大阪.
 7. 浅利 優: DNA 鑑定について. 北海道警察医会旭川方面支部総会. 2017 年 6 月. 旭川.
 8. 清水恵子: 「中毒」について. 和歌山県立医科大学特別講義. 2017 年 6 月. 和歌山.
 9. 清水恵子: レイプドラッグとして医薬品を不正使用する性的人権侵害 ～犯罪と睡眠薬 (GABA_A 受容体作動薬) による一過性前向健忘～. 北海道警察本部性犯罪捜査担当者会議. 2017 年 6 月. 札幌.
 10. 清水恵子: レイプドラッグとして医薬品を不正使用する性的人権侵害 ～犯罪と睡眠薬 (GABA_A 受容体作動薬) による一過性前向健忘～. 特定非営利活動法人ゆいネット北海道性暴力被害者支援のための研修講座. 2017 年 7 月. 札幌.
 11. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 当麻町立当麻中学校薬物乱用に関わる

トラブルや非行防止講演. 2017年7月. 当麻.

12. 清水恵子: 法医学とは. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科 1 年生講義. 2017年7月. 恵庭.
 13. 塩野 寛: 交通事故事件捜査における検視と解剖について. 北海道警察学校旭川方面分校交通事故事件捜査専科教養. 2017年10月. 旭川.
 14. 清水恵子: 窒息他. 北海道警察学校検視専科 (第14期). 2017年11月. 札幌.
 15. 塩野 寛: 死体の視かた他. 北海道警察学校検視専科 (第14期). 2017年11月. 札幌.
 16. 清水恵子: 薬物分析の重要性～検視と薬物・睡眠薬と犯罪～. 北海道警察本部全道検視官会議及び札幌方面法医研修会. 2017年11月. 札幌.
 17. 塩野 寛: おわりに ～検視の心得～. 全道検視官会議及び札幌方面法医研修会. 2017年11月. 札幌.
 18. 浅利 優: DNA 型鑑定と確率計算. 全道検視官会議及び札幌方面法医研修会. 2017年11月. 札幌.
 19. 清水恵子: 中毒死・犯罪と薬物. 北海道警察学校警部補任用科第70期. 2017年11月. 札幌.
 20. 清水恵子: 社会の中の法医学. 旭川地方裁判所刑事鑑定研究会. 2017年11月. 旭川.
 21. 田中宏樹: 分子生物学, 病理検査学演習, 医学英語, 臨床化学実習, 臨床検査学基礎実習Ⅱ. 学校法人緑蔭会北海道医学技術専門学校講義. 2017年4～12月. 旭川.
- G. 司法解剖: 189件, 死因・身元調査法解剖: 1件, 死体検案: 78件, その他の鑑定: 58件 (生体検査: 8件, 物体検査: 18件, 書類鑑定: 32件), 戦没者遺骨DNA鑑定.

「法医学活動一覧2016」の表示方法

- A. 原著論文等（短報、症例報告等を含む）
- B. 解説、評論、総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費、財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書）
- E. 学会発表（国際、全国、地方の順）
- F. 教育活動（機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外する）
- G. 法医実務件数（司法解剖、承諾解剖、行政解剖、新法による解剖、モデル事業の解剖、死体検案、その他の鑑定等）

- A. 1. Asari M, Okuda K, Hoshina C, Omura T, Tasaki Y, Shiono H, Matsubara K, Shimizu K. Multicolor-based discrimination of 21 short tandem repeats and amelogenin using four fluorescent universal primers. *Anal Biochem.* 2016; 494: 16-22.
2. Okuda K, Maseda C, Asari M, Isozaki S, Kiya H, Yajima D, Shiono H, Shimizu K. Postmortem diffusion of *n*-butane and *i*-butane used for anticontagious plugging spray. *Leg Med (Tokyo).* 2016; 19: 83-87.
3. Yajima D, Shimizu K, Oka K, Asari M, Maseda C, Okuda K, Shiono H, Ohtani S, Ogawa K. A case of sudden infant death due to incomplete Kawasaki disease. *J Forensic Sci.* 2016; 61: 259-264.
4. Shimizu K, Ohmura T, Okuda K, Asari M, Shiono H, Matsubara K. Triazolam impairs avoidance reaction - A scientific proof why the victim does not escape from drug-facilitated sexual assaults. *J Foren Psy.* 2016; 1(2): Online available.
5. Jin S, Hyodoh H, Matoba K, Feng F, Hayakawa A, Okuda K, Shimizu K, Haga S, Ozaki M, Terazawa K. Development for the measurement of serum thiosulfate using LC-MS/MS in forensic diagnosis of H₂S poisoning. *Leg Med (Tokyo).* 2016; 22: 18-22.
6. Fukuda H, Nishikawa K, Fukunaga Y, Okuda K, Kodama K, Matsumoto K, Kano A, Shindo M. Synthesis of fluorescent molecular probes based on *cis*-cinnamic acid and molecular imaging of lettuce roots. *Tetrahedron.* 2016; 72: 6492-6498.
7. 浅利 優, 大村友博, 奥田勝博, 田中宏樹, 山田ひろみ, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. 旭川医科大学法医学講座における過去 10 年間の DNA 鑑定および血縁者・関与者の数学的評価. *法医学の実際と研究.* 2016; 59: 175-178.
8. 山田ひろみ, 奥田勝博, 田中宏樹, 浅利 優, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 土井大輝, 保科千里, 磯崎翔太郎, 大谷静治, 塩野 寛, 清水恵子. 高吸水性樹脂 (SAP) を用いた適切な体液凝固方法. *法医学の実際と研究.* 2016; 59: 179-184.
- B. 1. 清水恵子, 浅利 優, 奥田勝博, 塩野 寛, 松原和夫. 医薬品の不法使用—Drug Facilitated Sexual Assault (DFSA) に使用されるデートレイプドラッグ (date rape drug) について—. *犯罪学雑誌.* 2016; 82(2): 35-43.
2. 清水恵子. 法医学者が語る身近な中毒事例. *Medical Tribune.* 2016: 49(44): 18.
- E. 1. Tanaka H, Yamamoto M, Yamazaki K, Shimizu K, Ogawa K. Establishment of

transgenic mice with liver-specific BRAF V600E mutation. American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2016. Abstracts. 2016, New Orleans, USA.

2. Sanoh S, Takaoka N, Okuda K, Tayama Y, Sugihara K, Kitamura S, Kurosaki M, Terao M, Garattini E, Ohta S. Inhibitory effects of drugs on the metabolic activities of mouse and human aldehyde oxidase isoforms. The 11th International Society for the Study of Xenobiotics (ISSX) Meeting. Abstracts. 2016, Busan, Korea.
3. 浅利 優, 奥田勝博, 大村友博, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. 短時間の増幅反応によるミトコンドリア DNA 多型解析. 第 100 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2016; 70(1): p70, 東京.
4. 奥田勝博, 浅利 優, 山田ひろみ, 磯崎翔太郎, 北村麻奈, 吉田あやか, 塩野 寛, 清水恵子. 焼死体鑑定における血液分析の重要性～CO-Hb, Met-Hb, CN, VOC について～. 第 100 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2016; 70(1): p105, 東京.
5. 松原和夫, 大村友博, 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 栗屋敏雄, 磯崎翔太郎, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. デートレイプドラッグは被害者の危機回避行動を鈍くする. 第 100 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2016; 70(1): p106, 東京.
6. 大谷静治, 奥田勝博, 矢島大介, 浅利 優, 磯崎翔太郎, 北村麻奈, 吉田あやか, 塩野 寛, 小川勝洋, 清水恵子. 感電死事例に認められる骨格筋変化の法医学病理学的解析. 第 100 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2016; 70(1): p114, 東京.
7. 清水恵子, 浅利 優, 奥田勝博, 田中宏樹, 塩野 寛, 松原和夫. 国内未承認睡眠薬のデートレイプドラッグとしての使用. 第 53 回日本犯罪学会総会. 抄録集. 2016, 東京.
8. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. ブタンガス乱用による中毒死の 4 例におけるブタンの組織分布. 日本法中毒学会第 35 年会. 講演要旨集. 2016; p72, 大阪.
9. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 矢島大介, 榎野陽介, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 松原和夫, 塩野 寛, 清水恵子. 死因究明に薬毒物検査が決め手となった 7 事例ーコルヒチン中毒とジフェンヒドラミン中毒ー. 第 38 回日本中毒学会総会・学術集会. 中毒研究. 2016; 29(2): p198, 新潟.
10. 奥田勝博, 佐々木律枝, 保科千里, 酒井規雄, 太田 茂, 清水恵子. 化学シャペロン Sodium 4-phenylbutyrate の構造活性相関研究 (2). 日本薬学会第 136 年会. DVD 要旨集. 2016, 横浜.

11. 高岡尚輝, 佐能正剛, 奥田勝博, 田山剛崇, 杉原数美, 北村繁幸, Terao M, Garattini E, 太田 茂. マウスおよびヒトにおける医薬品類のアルデヒドオキシダーゼ阻害活性の種差. 第日本薬学会 136 年会. DVD 要旨集. 2016, 横浜.
12. 田中宏樹, 山本雅大, 浅利 優, 奥田勝博, 大谷静治, 山崎弘資, 清水恵子, 小川勝洋. 肝特異的 BRAFV600E 発現マウスでみられた異常血小板増加症. 第 75 回日本癌学会学術総会. 電子抄録集. 2016, 横浜.
13. 牧原弘幸, 田中宏樹, 後藤英仁, 猪子誠人, 榎本 篤, 稲垣昌樹. ビメンチンリン酸化不全マウスにおける染色体異数性と早期老化. 第 75 回日本癌学会学術総会. 電子抄録集. 2016, 横浜.
14. 瀧本将人, Urata YN, 竹下文隆, 田中宏樹, 落合孝広. 動原体蛋白 D40 に対する siRNA による標的療法は p53 の status に非依存的にがんを抑制する. 第 75 回日本癌学会学術総会. 電子抄録集. 2016, 横浜.
15. 田中宏樹, 長谷部拓夢, 中嶋駿介, 澤田康司, 堀岡希衣, 奥田勝博, 浅利 優, 清水恵子, 奥村勝利. 肝・骨格筋軸にみた非アルコール性脂肪性肝疾患増悪の機構. 第 39 回日本分子生物学会年会. オンライン要旨集. 2016, 横浜.
16. 古武弥一郎, 梅原祥太, 須山翔太, 渡部祥子, 奥田勝博, 佐能正剛, 太田 茂. フェネチルアミン系危険ドラッグのトキシコフォア同定を目指した構造毒性相関研究. フォーラム 2016 衛生薬学・環境トキシコロジー. 要旨集. 2016, 東京.
17. 佐能正剛, 渡部祥子, 須山翔太, 梅原祥太, 奥田勝博, 石田雄二, 加国雅和, 立野知世, 古武弥一郎, 太田 茂. フェネチルアミン誘導体およびカチノン誘導体の *in vitro/in vivo* 薬物動態評価. フォーラム 2016 衛生薬学・環境トキシコロジー. 要旨集. 2016, 東京.
18. 田中宏樹, 長谷部拓夢, 中嶋駿介, 澤田康司, 奥村勝利. マウス尾懸垂飼育モデルから明らかになった NAFLD 進展の分子機構. 第 41 回日本肝臓学会東部会. 肝臓. 2016; 57(3): P808, 東京.
19. 浅利 優, 奥田勝博, 田中宏樹, 保科千里, 山田ひろみ, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 大村友博, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. DNA バーコーディングに基づいた植物種同定とその問題点. 第 17 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 103 回例会). プログラム・抄録集. 2016; p37, 仙台.
20. 奥田勝博, 浅利 優, 田中宏樹, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. イヌサフラン誤食によるコルヒチン中毒例の血中・組織中コルヒチン濃度分布. 第 17 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 103 回例会). プログラム・抄録集. 2016; p25, 仙台.
21. 田中宏樹, 堀岡希衣, 早川 輝, 福永龍繁, 中嶋駿介, 大谷静治, 浅利 優, 奥田勝博, 小川勝洋, 塩野 寛, 清水恵子. イヌサフラン誤食事例の組織学的

- 解析から見えてきたコルヒチン中毒死の機構. 第 17 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 103 回例会). プログラム・抄録集. 2016; p26, 仙台.
22. 保科千里, 奥田勝博, 田中宏樹, 浅利 優, 大村友博, 大谷静治, 山田ひろみ, 土井大輝, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. パラコート毒性に対する 4-フェニル酪酸の細胞保護メカニズムの検討 第 2 報. 第 17 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 103 回例会). プログラム・抄録集. 2016; p30, 仙台.
 23. 奥田勝博, 楨野陽介, 浅利 優, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. 死後 CT における消化管内高吸収について. 第 10 回法医学画像勉強会. プログラム. 2016, 東京.
- F. 1. 清水恵子: 法医学とは? ~病院に行かずに亡くなったなら~. 学校法人稲積学園北都保健福祉専門学校 理学・作業療法学科 医学概論 講義. 2016 年 1 月. 旭川.
2. 清水恵子: 薬の話. 札幌方面豊平警察署教養セミナー. 2016 年 1 月. 札幌.
 3. 清水恵子: 我が国の死因究明制度の問題点と最近の動向. 第 69 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2016 年 2 月. 旭川.
 4. 塩野 寛: DNA 多型と個人識別-72 億分の 1 の識別は可能か-. 第 69 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2016 年 2 月. 旭川.
 5. 清水恵子: お薬の話. 北海道警察旭川方面本部警務課・捜査課合同教養セミナー. 2016 年 2 月. 旭川.
 6. 清水恵子: 中毒学概論. 北海道大学大学院医学研究科社会医学系社会医学講座法医学分野法医学講義. 2016 年 5 月. 札幌.
 7. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 北海道鷹栖高等学校薬物乱用防止教室講演. 2016 年 5 月. 鷹栖.
 8. 清水恵子: 社会の中の法医学. 第 3 回群馬大学法医学セミナー講演. 2016 年 7 月. 前橋.
 9. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 北海道深川東高等学校薬物乱用防止教室講演. 2016 年 7 月. 深川.
 10. 田中宏樹: イヌサフラン誤食事例の組織学的解析から見えてきたコルヒチン中毒死の機構. 北海道警察医会旭川方面支部総会講演. 2016 年 8 月. 旭川.
 11. 清水恵子: 法医学とは?. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科 1 年生講義. 2016 年 8 月. 恵庭.
 12. 清水恵子: 社会の中の法医学. 旭川外科医会講演. 2016 年 7 月. 旭川.
 13. 清水恵子: 社会の中の法医学. 北海道・東北管区内検視官研究会講義. 2016 年 9 月. 札幌.

14. 清水恵子：法医学教室の事件ファイルー身近に起こる中毒．第 26 回日本医療薬学会年会市民公開講座「サスペンスの街京都ー犯罪と薬物」．2016 年 9 月．京都．
 15. 奥田勝博：依存性薬物の怖さを知ろう．北海道富良野緑峰高等学校薬物乱用防止教室講演．2016 年 9 月．富良野．
 16. 塩野 寛：交通事故事件捜査における検視と解剖について．北海道警察学校旭川方面分校交通事故事件捜査専科教養講義．2016 年 10 月．旭川．
 17. 清水恵子：くすりの話．全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演．2016 年 11 月．札幌．
 18. 塩野 寛：ー死体の視かたと生体検査の必要性ー．全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演．2016 年 11 月．札幌．
 19. 清水恵子：窒息他．北海道警察学校検視専科（第 13 期）講義．2016 年 11 月．札幌．
 20. 塩野 寛：死体の視かた他．北海道警察学校検視専科（第 13 期）講義．2016 年 11 月．札幌．
 21. 奥田勝博：依存性薬物の怖さを知ろう．旭川西高等学校薬物乱用防止講話講演．2016 年 11 月．旭川．
 22. 清水恵子：法医学とは？～病院に行かずに亡くなったなら～．学校法人稲積学園北都保健福祉専門学校「理学・作業療法学科 医学概論」講義．2016 年 12 月．旭川．
 23. 田中宏樹：遺伝子検査学，病理検査学演習，生化学・臨床化学実習，臨床検査学基礎実習Ⅱ．学校法人緑蔭会北海道医学技術専門学校講義．2016 年 5～12 月．旭川．
- G. 司法解剖：154 件，新法による解剖（調査法解剖）：1 件，死体検案：87 件，その他の鑑定：73 件（生体検査：11 件，物体検査：21 件，書類鑑定：41 件），戦没者遺骨 DNA 鑑定．

「法医学活動一覧2015」の表示方法

- A. 原著論文等（短報，症例報告等を含む）
- B. 解説，評論，総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費，財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書）
- E. 学会発表（国際，全国，地方の順）
- F. 教育活動（貴機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外）
- G. 法医実務件数（司法解剖，承諾解剖，行政解剖，新法による解剖，モデル事業の解剖，死体検案，その他の鑑定等）
（新法による解剖は、地域により名称が様々と思いますので、差し支えなければその名称もお書きください。）

- A. 1. Asari M, Okuda K, Yajima D, Maseda C, Hoshina C, Omura T, Shiono H, Matsubara K, Shimizu K. Rapid genotyping of 25 autosomal STRs in a Japanese population using fluorescent universal primers containing locked nucleic acids. *J Forensic Leg Med.* 2015; 31: 36-41.
2. Yajima D, Asari M, Okuda K, Maseda C, Yamada H, Ichimaru C, Matsubara K, Shiono H, Iwase H, Makino Y, Shimizu K. An objective approach using three indexes for determining fatal hypothermia due to cold exposure; statistical analysis of oxyhemoglobin saturation data. *Leg Med (Tokyo).* 2015; 17: 451-458.
3. Matsumoto K, Suyama M, Fujita S, Moriwaki T, Sato Y, Aso Y, Muroshita S, Matsuo H, Monda K, Okuda K, Abe M, Fukunaga H, Kano A, Shindo M. Efficient total synthesis of bongkrekiic acid and apoptosis inhibitory activity of its analogues. *Chemistry.* 2015; 21: 11590-11602.
4. Sugiyama C, Kotake Y, Yamaguchi M, Umeda K, Tsuyama Y, Sanoh S, Okuda K, Ohta S. Development of a simple measurement method for GluR2 protein expression as an index of neuronal vulnerability. *Toxicology Reports.* 2015; 2: 450-460.
5. Yamamoto A, Hasui K, Matsuo H, Okuda K, Abe M, Matsumoto K, Harada K, Yoshimura Y, Yamamoto T, Ohkura K, Shindo M, Shinohara Y. Bongkrekiic acid analogue, lacking one of the carboxylic groups of its parent compound, shows moderate but pH-insensitive inhibitory effects on the mitochondrial ADP/ATP carrier. *Chem Biol Drug Des.* 2015; 86: 1304-1322.
6. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 山田ひろみ, 大谷静治, 小川勝洋, 安達美和, 木谷 浩, 横田淳一, 斉藤正弘, 清水恵子. イヌサフラン誤食による急性コルヒチン中毒死例. *法医学の実際と研究.* 2015; 58: 13-20.
- C. 1. 塩野 寛, 清水恵子: 生命倫理への招待 (改訂5版). 東京. 南山堂. 2015.
2. 塩野 寛, 清水恵子: 身近な法医学 (改訂3版3刷). 東京. 南山堂. 2015.
- E. 1. Okuda K, Sasaki R, Hoshina C, Sakai N, Ohta S, Shimizu K. Structure-activity relationship and mechanistic studies on sodium 4-phenylbutyrate and its derivatives. 10th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium 2015 (AIMECS). Program & Abstract book. 2015; p259, Jeju, Korea.
2. Yamamoto M, Tanaka H, Bing X, Nishikawa Y, Yamazaki K, Shimizu K, Ogawa K. BrafV637E mutation as an early change in hepatocarcinogenesis induced by neonatal treatment with diethylnitrosamine in B6C3F1 mice. *American*

Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2015. Abstracts. 2015, Philadelphia, USA.

3. Nakajima S, Okuda K, Takahoko K, Hayashi K, Tanpo A, Nagashima M, Nishiura T, Kobayashi A, Okada M, Kokita N, Fujita S, Shimizu K. Successful treatment of acute colchicine intoxication from long-term use. The 8th Mediterranean Emergency Medicine Congress (MEMC). Final Program. 2015, Rome, Italy.
4. 浅利 優, 奥田勝博, 保科千里, 大村友博, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. 4種類のコニバーサル配列を用いた 21 座位 STR 解析法の開発. 第 99 次日本法医学学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2015; 69: p63, 高知.
5. 奥田勝博, 清水恵子, 間瀬田千香暁, 大谷静治, 矢島大介, 浅利 優, 山田ひろみ, 小川勝洋, 太田 茂, 塩野 寛. 当時危険ドラッグであったジフェニジンが検出された突然死の剖検例. 第 99 次日本法医学学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2015; 69: p70, 高知.
6. 松原和夫, 清水恵子, 栗屋敏雄, 浅利 優, 奥田勝博, 塩野 寛. 医薬品の不正使用—Drug Facilitated Sexual Assault (DFSA)に使用されるデートレイプドラッグについて—. 第 99 次日本法医学学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2015; 69: p75, 高知.
7. 矢島大介, 清水恵子, 浅利 優, 奥田勝博, 山田ひろみ, 市丸千聖, 磯崎翔太郎, 松原和夫, 岩瀬博太郎, 塩野 寛. 左右心臓血 O₂-Hb 飽和度の差による低温環境曝露の評価—凍死の診断基準の提示と目視での色調評価の不確実性—. 第 99 次日本法医学学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2015; 69: p83, 高知.
8. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 矢島大介, 浅利 優, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. 危険ドラッグとして摂取されたジフェニジンとその代謝物の組織分布. 日本法中毒学会第34年会. 講演要旨集. 2015; p66, 福岡.
9. 梅原祥太, 古武弥一郎, 渡部祥子, 奥田勝博, 佐能正剛, 太田 茂. フェネチルアミン誘導体のマウス脳内モノアミンに対する影響. 日本法中毒学会第34年会. 講演要旨集. 2015; p85, 福岡.
10. 清水恵子, 矢島大介, 間瀬田千香暁, 奥田勝博, 榎野陽介, 浅利 優, 山田ひろみ, 松原和夫, 小川勝洋, 塩野 寛. パネルディスカッション「知られない、知っておくべき、知らしむべき中毒診療」救急外来での検案時に病死と診断された中毒死の二例. 第 37 回日本中毒学会総会・学術集会. プログラム・抄録集. 2015; p139, 和歌山.
11. 浅利 優, 奥田勝博, 大村友博, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. 高速PCRに基づいたミトコンドリア DNA 多型解析. 日本法科学技術学会第 21 回学術集会. 日本法科学技術学会誌. 2015; 20: p29, 柏.
12. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 塩野 寛, 清水恵子. LC-MS/MS を用いたチ

オ硫酸塩の定量分析. 日本法科学技術学会第 21 回学術集会. 日本法科学技術学会誌. 2015; 20: p66, 柏.

13. 浅利 優, 奥田勝博, 塩野 寛, 清水恵子. 人毛からのミトコンドリア DNA および STR 解析. 第 52 回日本犯罪学会総会. 抄録集. 2015; p20, 福岡.
14. 奥田勝博, 浅利 優, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. 焼死体血中の一酸化炭素ヘモグロビン濃度とシアン化物イオン濃度の測定. 第 52 回日本犯罪学会総会. 抄録集. 2015; p18, 福岡.
15. 藤田 聡, 松本健司, 陶山正樹, 福永幸裕, 奥田勝博, 狩野有宏, 新藤 充. ボンクレキン酸合成法の改良と誘導体の合成研究. 日本薬学会第 135 年会. DVD 要旨集. 2015, 神戸.
16. 佐々木律枝, 奥田勝博, 浅野昌也, 酒井規雄, 太田 茂. 化学シャペロン 4PBA をリード化合物とした構造活性相関研究. 日本薬学会第 135 年会. DVD 要旨集. 2015, 神戸.
17. 梅田香苗, 古武弥一郎, 杉山千尋, 石田慶士, 奥田勝博, 太田 茂. GluR2 発現減少を指標とした神経毒性物質の探索. 日本薬学会第 135 年会. DVD 要旨集. 2015, 神戸.
18. 田中早紀, 古武弥一郎, 佐能正剛, 奥田勝博, 諫田泰成, 太田 茂. 環境汚染化学物質トリブチルスズによるゲノムワイドな低メチル化. 日本薬学会第 135 年会. DVD 要旨集. 2015, 神戸.
19. 田中宏樹, 山本雅大, 山崎弘資, 清水恵子, 小川勝洋. 肝細胞特異的ヒト BrafV600E 変異体発現トランスジェニックマウスの構築. 第 74 回日本癌学会学術総会. 電子抄録集. 2015, 名古屋.
20. 大谷静治, 小川勝洋, 矢島大介, 浅利 優, 奥田勝博, 磯崎翔太郎, 吉田あやか, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. 感電死における骨格筋変化の解析. 第 22 回法医病理夏期セミナー. 抄録集. 2015, 盛岡.
21. 清水恵子, 大村友博, 奥田勝博, 浅利 優, 間瀬田千香暁, 山田ひろみ, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 土井大輝, 保科千里, 大谷静治, 磯崎翔太郎, 塩野 寛, 松原和夫. デートレイプドラッグは被害者の危機回避行動を鈍くする. 第 16 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 102 回例会). プログラム・抄録集. 2015; p34, 札幌.
22. 浅利 優, 大村友博, 奥田勝博, 山田ひろみ, 磯崎翔太郎, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 土井大輝, 保科千里, 大谷静治, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. 旭川医科大学法医学講座における過去 10 年間の DNA 鑑定. 第 16 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 102 回例会). プログラム・抄録集. 2015; p30, 札幌.
23. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 山田ひろみ, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴

- 木朱美, 土井大輝, 保科千里, 大谷静治, 磯崎翔太郎, 松原和夫, 塩野 寛, 清水恵子. 旭川医科大学法医学講座における過去 10 年間の薬毒物分析および中毒統計調査に向けた薬物スクリーニングメソッド構築の取組み. 第 16 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 102 回例会). プログラム・抄録集. 2015; p33, 札幌.
24. 大谷静治, 小川勝洋, 矢島大介, 浅利 優, 奥田勝博, 磯崎翔太郎, 保科千里, 北村麻奈, 鈴木朱美, 土井大輝, 吉田あやか, 山田ひろみ, 塩野 寛, 清水恵子. 高電圧が及ぼす骨格筋への影響の組織学的観察. 第 16 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 102 回例会). プログラム・抄録集. 2015; p18, 札幌.
25. 山田ひろみ, 奥田勝博, 浅利 優, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 土井大輝, 保科千里, 大谷静治, 磯崎翔太郎, 塩野 寛, 清水恵子. 高吸水性樹脂 (SAP) を用いた適切な体液凝固方法の検討. 第 16 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 102 回例会). プログラム・抄録集. 2015; p21, 札幌.
26. 保科千里, 奥田勝博, 大村友博, 山田ひろみ, 土井大輝, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 磯崎翔太郎, 大谷静治, 浅利 優, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子. パラコート毒性に対する 4-フェニル酪酸の細胞保護メカニズムの検討. 第 16 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 102 回例会). プログラム・抄録集. 2015; p32, 札幌.
27. 安部寛子, 前橋恭子, 船越丈司, 佐々木千寿子, 奈良明奈, 奥田勝博, 高倉彩華, 田中直子, 岩楯公晴, 上村公一, 栗原克由, 清水恵子, 木下博之, 岩瀬博太郎. 法医解剖における中毒統計調査に向けた薬物スクリーニングメソッド構築の取組み(3). 第 84 回日本法医学会学術関東地方集会. 講演要旨集. 2015; p21, 東京.
28. 高倉彩華, 田中直子, 安部寛子, 前橋恭子, 船越丈司, 佐々木千寿子, 奈良明奈, 奥田勝博, 岩瀬博太郎, 岩楯公晴, 上村公一, 栗原克由, 清水恵子, 木下博之. 香川大学における薬毒物分析の現状と中毒統計調査に向けた薬物スクリーニングメソッド構築の取組み. 第 32 回日本法医学会学術中四国地方集会. プログラム・口演要旨集. 2015; p28-29, 岡山.
29. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 山田ひろみ, 磯崎翔太郎, 塩野 寛, 清水恵子. 死後処置用吸水ポリマーからブタンが全身に拡散した 1 剖検例および吸水ポリマーの CT 画像解析. 第 8 回法医画像勉強会. プログラム. 2015, 西宮.
30. 奥田勝博, 槇野陽介, 浅利 優, 山田ひろみ, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 清水恵子. 死後 CT において消化管内高吸収が観察された事例について. 第 9 回法医画像勉強会. プログラム. 2015, 旭川.
31. 槇野陽介, 千葉文子, 鳥光 優, 山口るつ子, 橋本茉莉, 矢島大介, 猪口 剛,

本村あゆみ, 星岡祐美, 奥田勝博, 清水恵子, 岩瀬博太郎. 死後 CT におけるびまん性肺所見について. 第 9 回法医画像勉強会. プログラム. 2015, 旭川.

- F. 1. 清水恵子: 法医学とは? ~病院に行かずに亡くなったなら~. 学校法人稲積学園北都保健福祉専門学校理学・作業療法学科 医学概論講義. 2015 年 1 月. 旭川.
2. 清水恵子: 我が国の死因究明制度の問題点と最近の動向. 第 68 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2015 年 2 月. 旭川.
3. 塩野 寛: DNA 多型と個人識別—72 億分の 1 の識別は可能か—. 第 68 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2015 年 2 月. 旭川.
4. 清水恵子: 法医中毒学. 北海道大学大学院医学研究科社会医学講座法医学分野法医学講義. 2015 年 6 月. 札幌.
5. 塩野 寛: 死体は語る. 札幌方面豊平警察署教養セミナー講演. 2015 年 6 月. 札幌.
6. 清水恵子: 法医学とは?. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科 1 年生講義. 2015 年 6・7 月. 恵庭.
7. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 北海道旭川東高等学校薬物乱用防止教室講演. 2015 年 7 月. 旭川.
8. 奥田勝博: 危険ドラッグについて. 北海道警察医会旭川方面支部会講演. 2015 年 8 月. 旭川.
9. 清水恵子: 窒息他. 北海道警察学校検視専科 (第 12 期) 講義. 2015 年 8 月. 札幌.
10. 塩野 寛: 死体の視かた. 北海道警察学校検視専科 (第 12 期) 講義. 2015 年 8 月. 札幌.
11. 清水恵子: 薬の話 2015. 全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演. 2015 年 10 月. 札幌.
12. 塩野 寛: 死体の視かたと生体検査の必要性. 全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演. 2015 年 10 月. 札幌.
13. 奥田勝博: 危険ドラッグについて. 平成 27 年度 (第 41 回) 北海道警察医会総会・懇談会・講演会講演. 2015 年 10 月. 札幌.
14. 塩野 寛: 交通事故事件捜査における検視と解剖について. 交通事故事件捜査専科教養講義. 2015 年 10 月. 旭川.
15. 塩野 寛: DNA 鑑定—足利事件からみた光と影・生体鑑定の必要性—. 北海道警察旭川方面本部警務課・捜査課合同教養セミナー (DNA 型鑑定の重要性) 講演. 2015 年 12 月. 旭川.
16. 奥田勝博: 依存性薬物の怖さを知ろう. 旭川大学高等学校薬物乱用防止集会講演. 2015 年 12 月. 旭川.
- G. 司法解剖: 214 件, 新法による解剖 (調査法解剖): 1 件, 死体検案: 66 件, そ

の他の鑑定：46件（生体検査：5件，物体検査：7件，書類鑑定：34件），戦没者遺骨 DNA 鑑定。

「法医学活動一覧2014」の表示方法

- A. 原著論文等（短報，症例報告等を含む）
- B. 解説，評論，総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費，財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書）
- E. 学会発表（国際，全国，地方の順）
- F. 教育活動（貴機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外して下さい）
- G. 法医実務件数（司法解剖，承諾解剖，行政解剖，新法による解剖，モデル事業の解剖，死体検案，その他の鑑定等）

2014

- A. 1. Ohtani S, Shimizu K, Asari M, Maseda C, Oka K, Yamada H, Hoshina C, Doi H, Yajima D, Shiono H, Ogawa K. Brain stem hemorrhage due to cerebral amyloid angiopathy: The autopsy of a patient with Alzheimer's disease at a young age. *Leg Med (Tokyo)*. 2014; 16(2): 98-101.
2. Oka K, Asari M, Omura T, Yoshida M, Maseda C, Yajima D, Matsubara K, Shiono H, Matsuda M, Shimizu K. Genotyping of 38 insertion/deletion polymorphisms for human identification using universal fluorescent PCR. *Mol Cell Probes*. 2014; 28(1): 13-18.
3. Okuda K, Nishikawa K, Fukuda H, Fujii Y, Shindo M. *cis*-Cinnamic acid selective suppressors distinct from auxin inhibitors. *Chem Pharm Bull*. 2014; 62(6): 600-607.
4. Cipelli R, Harries L, Okuda K, Yoshihara S, Melzer D, Galloway T. Bisphenol A modulates the metabolic regulator oestrogen-related receptor- α in T-cells. *Reproduction*. 2014; 147(4): 419-426.
5. Contu VR, Kotake Y, Toyama T, Okuda K, Miyara M, Sakamoto S, Samizo S, Sanoh S, Kumagai Y, Ohta S. Endogenous neurotoxic dopamine derivative covalently binds to Parkinson's disease-associated ubiquitin C-terminal hydrolase L1 and alters its structure and function. *J Neurochem*. 2014; 130(6): 826-838.
6. Kotake Y, Sekiya Y, Okuda K, Ohta S. Detection of a novel neurotoxic metabolite of Parkinson's disease-related neurotoxin, 1-benzyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline. *J Toxicol Sci*. 2014; 39(5): 749-754.
7. Wasano N, Sugano M, Nishikawa K, Okuda K, Shindo M, Park S-Y, Hiradate S, Kamo T, Fujii Y. Transcriptomic evaluation of the enhanced plant growth-inhibitory activity caused by derivatization of *cis*-cinnamic acid. *J Pestic Sci*. 2014; 39(2): 85-90.
- B. 1. 清水恵子: 看取りの医者. 旭川医科大学図書館 Library News. 2014; 32.
2. 清水恵子: どこでも足湯隊. 北海道医報. 2014; 1155: 31.
- D. 1. 清水恵子: 寒冷ストレスに関する病態の解明. 平成 23 年度~平成 25 年度文部科学省研究費補助金[基盤研究 (C)]. 研究成果報告書. 2014.
- E. 1. Yamamoto M, Tanaka H, Nishikawa Y, Shimizu K, Ogawa K. Frequent BrafV637E mutation in hepatocarcinogenesis induced by neonatal treatment with diethylnitrosamine (DEN) in B6C3F1 mice. AACR Annual Meeting 2014. Abstracts. 2014, San Diego, USA.

2. Omura T, Koyama S, Nakagawa S, Matsubara K, Asari M, Hoshina C, Maseda C, Shiono H, Shimizu K. Sodium tauroursodeoxycholate and 4-phenyl butyrate, chemical chaperones, prevent paraquat-induced cell death by suppressing endoplasmic reticulum stress responses in human lung epithelial A549 cells. 9th International Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM). *Jpn J Legal Med.* 2014; 68(1): p74-75, Fukuoka, Japan.
3. Ohtani S, Shimizu K, Asari M, Maseda C, Yajima D, Okuda K, Oka K, Doi H, Yamada H, Hoshina C, Isozaki S, Kitamura A, Yoshida A, Nakamura A, Suzuki A, Shiono H, Omura T, Matsubara K. Immunohistochemical examinations of CIRP and RBM3 are useful for diagnosing the cause of death under hypothermal conditions. 9th International Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM). *Jpn J Legal Med.* 2014; 68(1): p100-101, Fukuoka, Japan.
4. Ohtani S, Shimizu K, Asari M, Okuda K, Maseda C, Oka K, Yamada H, Isozaki S, Hoshina C, Doi H, Kitamura A, Yoshida A, Yajima D, Shiono H, Ogawa K. Brain stem hemorrhage due to cerebral amyloid angiopathy: the autopsy of a patient with Alzheimer's disease at a young age. 9th International Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM). *Jpn J Legal Med.* 2014; 68(1): p96, Fukuoka, Japan.
5. Yajima D, Saito H, Sato K, Hayakawa M, Shimizu K, Asari M, Maseda C, Iwase H. Diagnosis of drowning by summation of sodium, potassium and chloride ion levels in pleural effusion: Differentiating between freshwater and seawater drowning and application to bathtub deaths. 9th International Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM). *Jpn J Legal Med.* 2014; 68(1): p99, Fukuoka, Japan.
6. Asari M, Oka K, Hoshina C, Isozaki S, Okuda K, Yajima D, Maseda C, Omura T, Matsubara K, Shiono H, Shimizu K. Fast PCR-based genotyping of 25 autosomal short tandem repeats and amelogenin using fluorescent universal primers. 9th International Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM). *Jpn J Legal Med.* 2014; 68(1): p87-88, Fukuoka, Japan.
7. Okuda K, Asari M, Maseda C, Yoshihara S, Shimizu K. Unique Metabolic Pathway of Alkylphenol Derivatives. 9th International Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM). *Jpn J Legal Med.* 2014; 68(1): p169, Fukuoka, Japan.
8. Oka K, Asari M, Omura T, Isozaki S, Yoshida M, Maseda C, Yajima D, Matsubara K, Shiono H, Matsuda M, Shimizu K. Genotyping of 38 insertion/deletion polymorphisms for human identification using universal fluorescent PCR. 9th International Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM). *Jpn J*

Legal Med. 2014; 68(1): p87, Fukuoka, Japan.

9. 間瀬田千香暁, 奥田勝博, 矢島大介, 磯崎翔太郎, 岡 久美子, 大村友博, 浅利 優, 松原和夫, 塩野 寛, 清水恵子. イヌサフラン誤食による中毒死例. 第 98 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2014; 68(1): p222, 福岡.
10. Isozaki S, Asari M, Oka K, Ohtani S, Maseda C, Shiono H, Shimizu K. A forensic autopsy case of death from brainstem hemorrhage: genetic analysis linked to Alzheimer's disease. 第 98 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2014; 68(1): p230, 福岡.
11. 奥田勝博, 佐々木律枝, 酒井規雄, 太田 茂. 化学シャペロン sodium 4-phenylbutyrate の構造活性相関研究. 日本薬学会第 134 年会. DVD 要旨集. 2014, 熊本.
12. 杉山千尋, 古武弥一郎, 津山由美, 奥田勝博, 太田 茂. GluR2 発現を指標とした in vitro 神経毒性候補物質探索系の構築. 日本薬学会第 134 年会. DVD 要旨集. 2014, 熊本.
13. 和佐野直也, 加茂綱嗣, 平舘俊太郎, 西川慶祐, 奥田勝博, 新藤 充, 藤井義晴. トランスクリプトームによるシス桂皮酸誘導体群の構造活性相関評価. 第 55 回日本植物生理学会年会. 講演要旨集. 2014, 富山.
14. 古武弥一郎, 神野麻美, 奥田勝博, 田中早紀, 石田慶士, 阿南弥寿美, 小椋康光, 太田 茂. 有機スズ投与ラットにおける BDNF 発現減少とうつ病様症状. 第 25 回日本微量元素学会学術集会. 2014, 岡山.
15. 杉山千尋, 古武弥一郎, 津山由美, 奥田勝博, 太田 茂. AMPA 受容体サブユニット GluR2 発現減少を介した神経毒性候補物質の探索. 第 57 回日本神経化学学会大会. 2014, 奈良.
16. 矢島大介, 浅利 優, 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 山田ひろみ, 保科千里, 土井大輝, 北村麻奈, 吉田あやか, 鈴木朱美, 中村 梓, 塩野 寛, 清水恵子. 左右心臓血の酸素化ヘモグロビン飽和度の差を用いた凍死の診断. 第 15 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 101 回例会). プログラム・抄録集. 2014; p19, 山形.
17. 奥田勝博, 間瀬田千香暁, 矢島大介, 浅利 優, 山田ひろみ, 磯崎翔太郎, 保科千里, 大谷静治, 塩野 寛, 清水恵子. 死後処置用体液漏れ防止剤による遺体血液および組織へのブタンガスの混入. 第 15 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 101 回例会). プログラム・抄録集. 2014; p27, 山形.
18. 杉山千尋, 古武弥一郎, 山口雅史, 津山由美, 奥田勝博, 太田 茂. GluR2 発現減少を指標とした in vitro 神経毒性評価系の構築. 第 53 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会. 2014, 広島.

19. 田中宏樹, 山本雅大, 西川祐司, 清水恵子, 小川勝洋. DEN誘導マウス肝癌過程における BrafV637E 遺伝子変異. 平成 25 年度「個体レベルでのがん研究支援活動」ワークショップ. 2014, 滋賀.
 20. 藤田聡, 松本健司, 陶山正樹, 森脇拓也, 福永幸裕, 奥田勝博, 安部真人, 狩野有宏, 新藤 充. ボンクレキン酸誘導体の合成. 第 31 回有機合成化学セミナー. 2014 年, 福岡.
- F.
1. 清水恵子: 我が国の死因究明制度の問題点と最近の動向. 第 67 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2014 年 1 月. 旭川.
 2. 塩野 寛: DNA 多型と個人識別—72 億分の 1 の識別は可能か—. 第 67 期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2014 年 1 月. 旭川.
 3. 清水恵子: 法医学とは. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科 1 年生講義. 2014 年 6 月. 札幌.
 4. 清水恵子: 窒息他. 北海道警察学校検視専科 (第 11 期) 講義. 2014 年 6 月. 札幌.
 5. 塩野 寛: 法医学入門—生と死の間で—. 北海道警察学校検視専科 (第 11 期) 講義. 2014 年 6 月. 札幌.
 6. 矢島大介: 死体現象. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科 1 年生講義. 2014 年 7 月. 札幌.
 7. 矢島大介: リトアニア共和国の法医学. 北海道警察医会旭川方面支部会総会講演. 2014 年 8 月. 旭川.
 8. 清水恵子: 薬の話. 全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演. 2014 年 10 月. 札幌.
 9. 塩野 寛: 生体検査の必要性. 全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演. 2014 年 10 月. 札幌.
 10. 塩野 寛: 交通事故事件捜査における検視と解剖について. 交通事故事件捜査専科教養講義. 2014 年 10 月. 旭川.
 11. 矢島大介: リトアニア共和国の法医学. 第 58 回北海道科学捜査研究会講演. 2014 年 11 月. 札幌.
 12. 清水恵子: 中毒学概論. 北海道大学大学院医学系研究科・医学部 社会医療管理学講座法医学分野法医学講義. 2014 年 12 月. 札幌.
- G.
- 司法解剖: 192 件, 承諾解剖: 1 件, 新法による解剖 (調査法解剖): 1 件, 死体検案: 171 件, その他の鑑定: 71 件 (生体検査: 8 件, 物体検査: 24 件, 書類鑑定: 39 件), 戦没者遺骨 DNA 鑑定.

「法医学活動一覧 2013」の表示方法

- A. 原著論文等（短報，症例報告等を含む）
- B. 解説，評論，総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費，財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書等）
- E. 学会発表（国際，全国，地方の順）
- F. 教育活動（貴機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外）
- G. 法医実務件数（司法解剖，承諾解剖，行政解剖，新法による解剖，モデル事業の解剖，死体検案，その他の鑑定等）

- A. 1. Asari M, Oka K, Omura T, Maseda C, Tasaki Y, Shiono H, Matsubara K, Matsuda M, Shimizu K. Universal fluorescent labeling of amplification products using locked nucleic acids. *Electrophoresis*. 2013; 34: 448-455.
2. Omura T, Asari M, Yamamoto J, Oka K, Hoshina C, Maseda C, Awaya T, Tasaki Y, Shiono H, Yonezawa A, Masuda S, Matsubara K, Shimizu K. Sodium tauroursodeoxycholate prevents paraquat-induced cell death by suppressing endoplasmic reticulum stress responses in human lung epithelial A549 cells. *BBRC*. 2013; 432: 689-694.
- B. 1. 田崎嘉一, 山本 譲, 大村友博, 坂口智己, 木村周古, 大滝康一, 小野尚志, 須野 学, 浅利 優, 大久保知子, 野田敏宏, 栗屋敏雄, 清水恵子, 松原和夫. メロキシカムは, マウスパーキンソン病モデルにおいて, Akt シグナル維持により運動障害とドパミン神経変性を改善する. *北海道医誌*. 2013; 88(1): 45.
- C. 1. 清水恵子: 中毒各論. 石津日出雄・高津光洋監. 池田典昭・鈴木廣一編. 標準法医学第7版. 東京: 医学書院; 2013; p144-180.
- E. 1. 間瀬田千香暁, 浅利 優, 岡 久美子, 山田ひろみ, 大村友博, 松原和夫, 塩野寛, 清水恵子. LC-MS/MSによるチオ硫酸塩の分析(第2報). 第97次日本法医学会学術全国集会. *日本法医学雑誌*. 2013; 67(1): p67, 札幌.
2. 大村友博, 浅利 優, 岡 久美子, 保科千里, 米澤 淳, 増田智先, 間瀬田千香暁, 塩野 寛, 清水恵子, 松原和夫. パラコート毒性における小胞体ストレスの関与とケミカルシャペロンによる細胞死抑制効果. 第97次日本法医学会学術全国集会. *日本法医学雑誌*. 2013; 67(1): p89, 札幌.
3. 大谷静治, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 岡 久美子, 山田ひろみ, 保科千里, 市丸千聖, 塩野 寛, 清水恵子, 小川勝洋. 若年齢脳幹出血事例に認められた脳アミロイド血管症. 第97次日本法医学会学術全国集会. *日本法医学雑誌*. 2013; 67(1): p103, 札幌.
4. 岡 久美子, 浅利 優, 大村友博, 磯崎翔太郎, 市丸千聖, 吉田将亜, 松原和夫, 塩野 寛, 松田光悦, 清水恵子. A new multiplex system for 38 insertion-deletion polymorphism analysis in Japanese individuals. 第97次日本法医学会学術全国集会. *日本法医学雑誌*. 2013; 67(1): p119, 札幌.
5. 毎熊浩二, 浅利 優, 山田ひろみ, 松田都久美, 岡 久美子, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 山田直弥, 寺沢浩一, 清水恵子. 北海道沿岸における珪藻分布の解析報告~第四報~. 第97次日本法医学会学術全国集会. *日本法医学雑誌*. 2013; 67(1): p95, 札幌.
6. 清水恵子, 大谷静治, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 岡 久美子, 塩野 寛. ブタンガ

- ス吸入による死亡の1剖検例. 第21回法医病理勉強会. 口演抄録集. 2013, 札幌.
7. 山本 譲, 大村友博, 田崎嘉一, 浅利 優, 岡 久美子, 米澤 淳, 増田智先, 栗屋敏雄, 間瀬田千香暁, 塩野 寛, 清水恵子, 松原和夫. Real-time PCR を用いた CYP3A5 及び CYP2C19 の遺伝子多型迅速判定法の開発と生体肝移植におけるタクロリムス TDM 業務への応用. 日本薬学会第 133 年会. DVD 要旨集. 2013, 横浜.
 8. Yamamoto M, Tanaka H, Bing Xin, Nishikawa Y, Shimizu K, Ogawa K. Exome analysis revealed Braf V637E mutation is highly frequent in DEN-induced mouse hepatic tumors. The 72nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Digital Abstracts. 2013, 横浜.
 9. 山本雅大, 田中宏樹, 辛 氷, 西川祐司, 清水恵子, 小川勝洋. 次世代シーケンサー解析による DEN 誘発マウス肝発癌の初期変化としての BrafV637E 変異の発見. 第 102 回日本病理学会総会. プログラム・抄録集. 2013, 札幌.
 10. 近藤英司, 松本紗弥佳, 竹川政範, 岡 久美子, 松田光悦. FDG-PET の早期像, 後期像を用いた腫瘍診断の検討. 第 31 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会. プログラム. 2013, 東京.
 11. 近藤英司, 竹川政範, 松本紗弥佳, 岡 久美子, 松田光悦. 上顎歯肉癌治療後の頸部リンパ節再発に対して, TPF 化学療法と IMRT を併用し著効が得られた 1 例. 第 31 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会. プログラム. 2013, 東京.
 12. 大村友博, 山本 譲, 浅利 優, 岡 久美子, 保科千里, 米澤 淳, 増田智先, 栗屋敏雄, 田崎嘉一, 間瀬田千香暁, 塩野 寛, 清水恵子, 松原和夫. パラコート誘発細胞死におけるユビキチンリガーゼ HRD1, Parkin の役割とケミカルシャペロンによる細胞死抑制効果の検討. 第 33 回日本中毒学会西日本地方会. プログラム・口演要旨集. 2013, 京都.
 13. 岡 久美子, 浅利 優, 磯崎翔太郎, 市丸千聖, 大村友博, 吉田将亜, 間瀬田千香暁, 矢島大介, 松原和夫, 塩野 寛, 松田光悦, 清水恵子. 年齢推定における残存歯数・咬耗度の有用性について. 第 14 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 100 回例会). プログラム・抄録集. 2013; p25, 秋田.
 14. 磯崎翔太郎, 浅利 優, 大谷静治, 岡 久美子, 間瀬田千香暁, 塩野 寛, 矢島大介, 清水恵子, 小川勝洋. 大脳皮質に Alzheimer 病変を認めた脳幹出血剖検例の遺伝子解析. 第 14 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 100 回例会). プログラム・抄録集. 2013; p17, 秋田.
 15. 山口なつき, 本田宗也, 丹保亜希仁, 川田大輔, 小北直宏, 清水恵子, 藤田智. イヌサフラン誤食による中毒死. 第 37 回北海道救急医学会学術集会. プログラム・抄録集. 2013, 札幌.
- F. 1. 清水恵子: 我が国の死因究明制度の問題点と最近の動向. 旭川地方検察庁「第 66 期司法修習生分野別検察実務修習」講義. 2013 年 1 月. 旭川.

2. 塩野 寛：DNA 鑑定之光と。旭川地方検察庁「第 66 期司法修習生分野別検察実務修習」講義。2013 年 1 月。旭川。
 3. 清水恵子：医薬品の不正使用（デートレイプドラッグ）について。旭川地方裁判所「刑事鑑定研究会」講演。2013 年 2 月。旭川。
 4. 間瀬田千香暁：依存性薬物の怖さを知ろう。北海道鷹栖高等学校「薬物乱用防止教室」講演。2013 年 5 月。鷹栖。
 5. 清水恵子：社会と法医学。北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科 1 年講義。2013 年 6 月。恵庭。
 6. 清水恵子：私のキャリアパス。北日本夏の法医学合同セミナー講演。2013 年 7 月。仙台。
 7. 清水恵子：窒息他。北海道警察学校「検視専科（第 10 期）」講義。2013 年 7 月。札幌。
 8. 塩野 寛：法医学入門ー生と死の間でー。北海道警察学校「検視専科（第 10 期）」講義。2013 年 7 月。札幌。
 9. 浅利 優：警察医の教育。北海道警察医会旭川方面支部総会講演。2013 年 8 月。旭川。
 10. 清水恵子：薬の話。全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演。2013 年 10 月。札幌。
 11. 塩野 寛：ー生体検査の必要性ー。全道検視官会議及び札幌方面法医研修会講演。2013 年 10 月。札幌。
 12. 清水恵子：法医学とは？～病院に行かずに亡くなったなら～。学校法人稲積学園北都保健福祉専門学校「理学療法・作業療法学科科目 医学概論」講義。2013 年 10 月。旭川。
 13. 清水恵子：法医学と死の臨床。京都大学大学院薬学研究科「臨床薬学特論」講義。2013 年 11 月。京都。
 14. 清水恵子：中毒学概論。北海道大学大学院医学系研究科社会医療管理学講座法医学分野法医学講義。2013 年 12 月。札幌。
- G. 司法解剖：177 件，新法解剖：1 件，死体検案：91 件，その他鑑定：46 件（生体検査：6 件，物体検査：14 件，書類鑑定：21 件，歯牙鑑定：5 件），戦没者遺骨 DNA 鑑定。

「法医学活動一覧 2012」の表示方法

- A. 原著論文等（短報，症例報告等を含む）
- B. 解説，評論，総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費，財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書等）
- E. 学会発表（国際，全国，地方の順）
- F. 教育活動（貴機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外）
- G. 法医実務件数（司法解剖，承諾解剖，行政解剖，新法による解剖，モデル事業の解剖，死体検案，その他の鑑定等）

- A. 1. Matsubara K, Asari M, Suno M, Awaya T, Sugawara M, Omura T, Yamamoto J, Maseda C, Tasaki Y, Shiono H, Shimizu K. Estimation of the duration after methamphetamine injection using a pharmacokinetic model in suspects who caused fatal traffic accidents. *Leg Med.* 2012; 14: 191-196.
2. Asari M, Omura T, Oka K, Maseda C, Tasaki Y, Shiono H, Matsubara K, Matsuda M, Shimizu K. Multiplex PCR-based Alu insertion polymorphisms genotyping for identifying individuals of Japanese ethnicity. *Genomics.* 2012; 99: 227-232.
3. Tasaki Y, Yamamoto J, Omura T, Sakaguchi T, Kimura N, Ohtaki K, Ono T, Suno M, Asari M, Ohkubo T, Noda T, Awaya T, Shimizu K, Matsubara K. Meloxicam ameliorates motor dysfunction and dopaminergic neurodegeneration by maintaining Akt-signaling in a mouse Parkinson's disease model. *Neurosci Lett.* 2012; 521: 15-19.
4. 浅利 優, 大村友博, 間瀬田千香暁, 塩野 寛, 田崎嘉一, 松原和夫, 清水恵子. プローブ 3' 末端塩基配列の違いに基づいた一塩基多型の識別. *北海道医学雑誌.* 2012; 87(2・3): 67.
5. 大村友博, 浅利 優, 山本 譲, 神山直也, 岡 久美子, 保科千里, 間瀬田千香暁, 栗屋敏雄, 田崎嘉一, 塩野 寛, 清水恵子, 松原和夫. ゾニサミドによる HRD1 の増加が, 神経細胞 SH-SY5Y における小胞体ストレス誘発細胞死とカスパーゼ-3 の活性化を抑制する. *北海道医学雑誌.* 2012; 87(6): 251.
6. 清水恵子, 松田都久美, 北村麻奈, 吉田あやか, 浅利 優, 岡 久美子, 間瀬田千香暁, 大谷静治, 山田ひろみ, 保科千里, 土井大輝, 大村友博, 中島輝夫, 吉田幸夫, 久田 悟, 松原和夫, 塩野 寛. 北海道の死因究明制度の将来—フィンランドの死因究明制度に学ぶ. *法医学の実際と研究.* 2012; 55: 285-294.
7. 大谷静治, 浅利 優, 大村友博, 間瀬田千香暁, 山田ひろみ, 保科千里, 土井大輝, 松田都久美, 北村麻奈, 吉田あやか, 岡 久美子, 松田光悦, 塩野 寛, 清水恵子. 抗ヒトケラチン抗体を用いた浴槽内溺水診断の検討. *法医学の実際と研究.* 2012; 55: 215-221.
8. 岡 久美子, 近藤英司, 荒井五織, 竹川政範, 松田光悦. Rett 症候群患者の歯科治療経験. *有病者歯科医療.* 2012; 21(1): 17-23.
- D. 1. 浅利優: RNA 分解酵素 A のミスマッチ認識能を利用した新たな個人識別システムの構築. 平成 22 年度～平成 23 年度科学研究費補助金 (若手研究(B)). 研究成果報告書. 2012.
- E. 1. 大村友博, 浅利 優, 岡 久美子, 保科千里, 栗屋敏雄, 田崎嘉一, 間瀬田千香暁, 塩野 寛, 松原和夫, 清水恵子: パラコート毒性における小胞体ストレス応答分子

- の関与とケミカルシヤペロンによる細胞保護効果の検討. 第 96 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2012; 66(1): p96, 浜松.
2. 大谷静治, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 岡 久美子, 大村友博, 松田都久美, 北村麻奈, 松原和夫, 塩野 寛, 清水恵子:低温環境下での死亡における低温ショック蛋白 CIRP の発現. 第 96 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2012; 66(1): p89, 浜松.
 3. 浅利 優, 大村友博, 岡 久美子, 間瀬田千香暁, 塩野 寛, 松原和夫, 松田 光悦, 清水恵子:人口核酸 LNA を導入した蛍光ユニバーサルプライマーを用いた STR 解析法の開発. 第 96 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2012; 66(1): p61, 浜松.
 4. 岡 久美子, 坂上和弘, 浅利 優, 大村友博, 吉田将亜, 間瀬田千香暁, 松原和夫, 塩野 寛, 松田光悦, 清水恵子: Application of discriminant function analysis using Fordisc® 3.0 in forensic casework. 第 96 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2012; 66(1): p105, 浜松.
 5. 吉田将亜, 岡 久美子, 柴山尚大, 近藤英司, 竹川政範, 松田光悦:ステロイド性骨壊死との関連が疑われた下顎骨骨髓炎の 1 例. 第 21 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会. プログラム・抄録集. 2012; p90, 栃木.
 6. 柴山尚大, 岡 久美子, 近藤英司, 竹川政範, 松田光悦:慢性 DIC 状態が原因と考えられた抜歯後出血の 1 例. 第 21 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会. プログラム・抄録集. 2012; p124, 栃木.
 7. 岡 久美子, 浅利 優, 大村友博, 吉田将亜, 間瀬田千香暁, 松原和夫, 塩野 寛, 松田光悦, 清水恵子:多座位挿入欠失多型解析に基づく個人識別法の開発. 日本 DNA 多型学会第 21 回学術集会. 抄録集. 2012; p77, 京都.
 8. 岡 久美子: 災害時死体検案支援活動の報告と課題 歯科の観点から. 第 13 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 99 回例会) 特別講演. プログラム・抄録集. 2012; p9, 札幌.
 9. 岡 久美子, 浅利 優, 大村友博, 吉田将亜, 大谷静治, 土井大輝, 山田ひろみ, 保科千里, 松田都久美, 北村麻奈, 吉田あやか, 毎熊浩二, 間瀬田千香暁, 松原和夫, 塩野 寛, 松田光悦, 清水恵子:多座位挿入欠失多型解析に基づく個人識別法の開発. 第 13 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 99 回例会). プログラム・抄録集. 2012; p26, 札幌.
 10. 大谷静治, 間瀬田千香暁, 浅利 優, 岡 久美子, 山田ひろみ, 保科千里, 土井大輝, 北村麻奈, 吉田あやか, 松田都久美, 毎熊浩二, 塩野 寛, 清水恵子, 小川勝洋: 大脳皮質全体に老人斑の出現を認めた若年齢の脳幹出血例. 第 13 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 99 回例会). プログラム・抄録集. 2012; p12, 札幌.

11. 毎熊浩二, 浅利 優, 山田ひろみ, 松田都久美, 岡 久美子, 大村友博, 北村麻奈, 吉田あやか, 土井大輝, 保科千里, 大谷静治, 間瀬田千香暁, 塩野 寛, 清水恵子, 早川輝, 村上 学, 的場光太郎, 寺沢浩一, 山田直弥, 中村 一, 阿部祐亮, 三和正人, 吉田幸夫: 北海道沿岸における珪藻分布の解析報告～第三報～. 第 13 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 99 回例会). プログラム・抄録集. 2012; p22, 札幌.
- F. 1. 清水恵子: 我が国の死因究明制度の問題点と最近の動向. 旭川地方検察庁「新第 65 期司法修習生分野別検察実務修習」講義. 2012 年 1 月. 旭川.
2. 塩野 寛: DNA 鑑定の光と影. 旭川地方検察庁「新第 65 期司法修習生分野別検察実務修習」講義. 2012 年 1 月. 旭川.
3. 清水恵子: 窒息. 北海道警察学校検視専科 (第 9 期) 講義. 2012 年 5 月. 札幌.
4. 塩野 寛: 法医学入門ー生と死の間でー. 北海道警察学校検視専科 (第 9 期) 講義. 2012 年 5 月. 札幌.
5. 清水恵子: 法医学入門. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科 1 年講義. 2012 年 6 月. 札幌.
6. 清水恵子: 日本の死因究明制度の現状と問題点. 外科二水会講演会講演. 2012 年 9 月. 旭川.
7. 清水恵子: ブタン中毒事例について. 全道検視官会議講演. 2012 年 10 月. 札幌.
8. 塩野 寛: 一生体検査の必要性ー. 全道検視官会議講演. 2012 年 10 月. 札幌.
9. 清水恵子: 中毒学概論. 北海道大学大学院医学系研究科社会医療管理学講座法医学分野法医学講義. 2012 年 11 月. 札幌.
10. 清水恵子: 法医学ってな～に?. 北海道旭川北高等学校「P T A 教育講演会」講演. 2012 年 11 月. 旭川.
11. 間瀬田千香暁: 依存性薬物の怖さを知ろう. 学校法人北海道立正学園旭川実業高等学校「薬物乱用防止講話」講演. 2012 年 4 月. 旭川.
12. 間瀬田千香暁: 依存性薬物の怖さを知ろう. 学校法人藤学園旭川藤女子高等学校「生活安全講話」講演. 2012 年 6 月. 旭川.
13. 間瀬田千香暁: 依存性薬物の怖さを知ろう. 北海道旭川東高等学校「薬物乱用防止教室」講演. 2012 年 7 月. 旭川.
14. 間瀬田千香暁: 専門医学から「依存性薬物の怖さを知ろう」について. 平成 24 年度士別地区防犯協会連合会主催事業「地域防犯力パワーアップセミナー」講演. 2012 年 8 月. 士別.
15. 間瀬田千香暁: 依存性薬物の怖さを知ろう. 北海道赤平高等学校「2012 年度薬物乱用防止教室」講演. 2012 年 10 月. 赤平.
16. 間瀬田千香暁: 専門医学から「依存性薬物の怖さを知ろう」について. 「平成 24 年度第 48 回 士別市 PTA 連合会研究大会」講演. 2012 年 11 月. 士別.

17. 間瀬田千香暁：依存性薬物の怖さを知ろう。北海道旭川北高等学校定時制講演。2012年12月。旭川。
 18. 間瀬田千香暁：依存性薬物の怖さを知ろう。「平成24年小・中ジョイントプロジェクト事業（和寒町）」講演。2012年12月。和寒。
 19. 間瀬田千香暁：依存性薬物の怖さを知ろう。北海道芽室高等学校「薬物乱用防止教室」講演。2012年12月。芽室。
 20. 岡久美子：災害時死体検案支援活動 歯科の観点から。平成24年度（第38回）北海道警察医会 総会・懇談会・講演会特別講演。2012年10月。札幌。
 21. 岡久美子：災害時死体検案支援活動 歯科の観点から。北海道警察医会 旭川方面支部会 総会及び研修会。2012年8月。旭川。
 22. 岡久美子：北海道歯科医師会 DCLSmini コース。帯広会場。インストラクター。2012年2月。帯広。
 23. 岡久美子：北海道歯科医師会 DCLSmini コース。旭川会場。コースディレクター。2012年3月。旭川。
 24. 岡久美子：災害時死体検案支援活動 歯科の観点から。若手派遣者の報告と討論の会（第2回）。2012年3月。東京。
- G. 司法解剖：222件，承諾解剖：2件，死体検案：211件，その他鑑定：55件（生体検査：21件，物体検査：3件，書類鑑定：18件，歯牙鑑定：13件），戦没者遺骨DNA鑑定。

「法医学活動一覧 2011」の表示方法

- A. 原著論文等（短報，症例報告等を含む）
- B. 解説，評論，総説等
- C. 単行本
- D. 報告等（科研費，財団等からの研究費に関する“論文形式”の報告書等）
- E. 学会発表（国際，全国，地方の順）
- F. 教育活動（貴機関医・歯学部内における本務としての教育活動は除外）
- G. 法医実務件数（司法解剖，承諾解剖，行政解剖，新法による解剖，モデル事業の解剖，死体検案，その他の鑑定等）

- A. 1. Omura T, Asari M, Yamamoto J, Kamiyama N, Oka K, Hoshina C, Maseda C, Awaya T, Tasaki Y, Shiono H, Shimizu K, Matsubara K. HRD1 Levels Increased by Zonisamide Prevented Cell Death and Caspase-3 Activation Caused by Endoplasmic Reticulum Stress in SH-SY5Y Cells. *J Mol Neurosci.* (in press)
2. Tasaki Y, Yamamoto J, Omura T, Noda T, Kamiyama N, Yoshida K, Satomi M, Sakaguchi T, Asari M, Ohkubo T, Shimizu K, Matsubara K. Oxicam structure in non-steroidal anti-inflammatory drugs is essential to exhibit Akt-mediated neuroprotection against 1-methyl-4-phenyl pyridinium-induced cytotoxicity. *Eur J Pharmacol.* (in press)
3. 浅利優, 岡久美子, 大村友博, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 清水恵子, 松原和夫, 松田光悦. アリル特異的伸長反応による微量DNAからのABO式血液型判定. 「DNA多型」. 2011; 19: 205-209.
4. 山田ひろみ, 間瀬田千香暁, 浅利優, 大村友博, 岡久美子, 吉田あやか, 大谷静治, 塩野寛, 松原和夫, 清水恵子. 剖検例における尿中ケトン体の試験紙による比較検討. *法医学の実際と研究.* 2011; 54: 11-16.
5. 岡久美子, 坂上和弘, 浅利優, 大村友博, 吉田将亜, 間瀬田千香暁, 松原和夫, 塩野寛, 松田光悦, 清水恵子. 頭蓋骨からの帰属集団判定; Fordisc®3.0の法医実務への応用. *法医学の実際と研究.* 2011; 54: 17-23.
6. 近藤英司, 竹川政範, 吉田将亜, 松本章, 岡久美子, 松田光悦. 歯周包帯剤による接触性口内炎の1例. *日本口腔科学会雑誌.* 2011; 60 (1) : 12-15.
- B. 1. 清水恵子: 編集後記. *北海道医学雑誌.* 2011; 86 (6) : 322.
- C. 1. 大村友博, 松原和夫: A) 精神・脳神経系疾患 3章. パーキンソン病. 日本医療薬学会編. 薬剤師のための疾患別薬物療法II 精神・脳神経疾患/消化器疾患. 東京. 南江堂. 2011; p36-52.
- E. 1. Omura T, Asari M, Tasaki Y, Hoshina C, Yamamoto J, Kamiyama N, Oka K, Matsuda T, Kitamura A, Maseda C, Shimizu K, Matsubara K. Zonisamide increases human HRD1 protein resulting in the repression of caspase-3 activation and cell death caused by the ER stress in SH-SY5Y cells. Society for Neuroscience 41st Annual Meeting (Neuroscience 2011). Abstracts. 2011, Washington DC, USA.
2. Tasaki Y, Yamamoto J, Omura T, Noda T, Kamiyama N, Yoshida K, Satomi M, Sakaguchi T, Asari M, Ohkubo T, Shimizu K, Matsubara K. Structural specificity of Akt-mediated neuroprotection by oxicam non-steroidal anti-inflammatory drugs against 1-methyl-4-phenyl pyridinium-induced cell death. XIX World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders. Abstracts. 2011,

Shanghai, China.

3. 間瀬田千香暁, 岡久美子, 松田都久美, 北村麻奈, 吉田あやか, 大村友博, 浅利優, 松原和夫, 塩野寛, 清水恵子. 液体クロマトグラフタンデム質量分析計 (LC-MS/MS) によるチオ硫酸塩の分析. 第 95 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2011; 65(1): p74, 福島.
4. 浅利優, 大村友博, 岡久美子, 山田ひろみ, 土井大輝, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 松原和夫, 松田光悦, 清水恵子. 21 座位 STR 判定に基づく身元確認のための DNA 鑑定. 第 95 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2011; 65 (1) : p88, 福島.
5. 大村友博, 浅利優, 保科千里, 岡久美子, 間瀬田千香暁, 田崎嘉一, 塩野寛, 松原和夫, 清水恵子. パラコート誘発肺毒性における小胞体ストレス応答遺伝子の関与. 第 95 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2011; 65 (1) : p57, 福島.
6. Oka K, Asari M, Omura T, Yoshida M, Ohtani S, Maseda C, Shiono H, Ogawa K, Matsuda M, Shimizu K. An autopsy case report of sudden infant death syndrome. 第 95 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2011; 65 (1) : p102, 福島.
7. 間瀬田千香暁, 大村友博, 浅利優, 岡久美子, 松原和夫, 塩野寛, 清水恵子. LC-MS/MS による術中突然死体の組織中リドカイン濃度測定. 日本法中毒学会第 30 年会. 講演要旨集. 2011; p45, 長崎.
8. 山本讓, 大村友博, 神山直也, 山田峻史, 田原克寿, 都築仁美, 栗屋敏雄, 大滝康一, 田崎嘉一, 松原和夫. TDM オーダリングシステムおよび臨床検査情報システムを統合したハイブリッド TDM システムの構築. 医療薬学フォーラム 2011/第 19 回クリニカルファーマシーシンポジウム. 講演要旨集. 2011; p204, 旭川.
9. 神山直也, 田崎嘉一, 大村友博, 小城香緒里, 田原克寿, 山本讓, 太田圭, 杉本昌也, 梶濱あや, 梶野浩樹, 松原和夫. LC/MS/MS を用いた小児肺動脈性肺高血圧患者血中ボセンタン TDM. 医療薬学フォーラム 2011/第 19 回クリニカルファーマシーシンポジウム. 講演要旨集. 2011; p204, 旭川.
10. 山本讓, 田崎嘉一, 大村友博, 吉田光一, 飯田慎也, 神山直也, 遠藤寿子, 浅野目明日香, 斎藤司, 澤田潤, 片山隆行, 長谷部直幸, 松原和夫. パーキンソン病薬物治療における L-dopa およびその代謝物の血中濃度モニタリング-エンタカポン併用療法における遺伝子多型情報応用の検討-. 第 28 回日本 TDM 学会・学術大会, TDM 研究. 2011; 28 (3) : p204, 広島.
11. 岡久美子, 松本章, 吉田将亜, 近藤英司, 小神順也, 小林永治, 柴山尚大, 荒井五織, 竹川政範, 松田光悦. 当科における放射線骨壊死症例の臨床統計的検討. 第 64 回日本口腔科学会学術集会. 日本口腔科学会雑誌. 2011; 60 (1) : p88, 札幌.
12. 荒井五織, 近藤英司, 竹川政範, 吉田将亜, 松本章, 柴山尚大, 小林永治, 岡久美子, 松田光悦. 当科における時間外救急受診患者の臨床的検討. 第 64 回日本口腔科学会学術集会. 日本口腔科学会雑誌. 2011; 60 (1) : p104, 札幌.

13. 小神順也, 荒井五織, 岡久美子, 柴山尚大, 松本章, 竹川政範, 松田光悦. 上顎歯槽部の疼痛を含む非定型顔面痛に対しガバペンチンが著効した1例. 第64回日本口腔科学会学術集会. 日本口腔科学会雑誌. 2011; 60(1): p137, 札幌.
 14. 大村友博, 浅利優, 保科千里, 間瀬田千香暁, 田崎嘉一, 塩野寛, 清水恵子, 松原和夫. パラコート誘発肺毒性における小胞体ストレス関連分子の関与. 日本薬学会第131年会. 要旨集3. 2011; p140, 誌上開催.
 15. 山本讓, 田崎嘉一, 飯田慎也, 大村友博, 神山直也, 吉田光一, 遠藤寿子, 浅野日明日香, 斎藤司, 澤田潤, 片山隆行, 長谷部直幸, 松原和夫. エンタカポン併用療法におけるL-dopa血中濃度とCOMT遺伝子多型の関連性に関する検討. 日本薬学会第131年会. 要旨集4. 2011; p303, 誌上開催.
 16. 田崎嘉一, 山本讓, 大久保知子, 須野学, 大村友博, 神山直也, 吉田光一, 野田敏宏, 坂口智己, 松原和夫. オキシカム系NSAIDsによる神経細胞死抑制作用はAkt/mTOR経路を介する. 日本薬学会第131年会. 要旨集4. 2011; p179, 誌上開催.
 17. 間瀬田千香暁, 岡久美子, 大村友博, 浅利優, 毎熊浩二, 大谷静治, 塩野寛, 清水恵子, 松原和夫. 調理用液化ブタン吸入による死亡事例. 第12回日本法医学会学術北日本地方集会(法医学談話会第98回例会). プログラム・抄録集. 2011, 弘前.
 18. 岡久美子, 坂上和弘, 浅利優, 大村友博, 毎熊浩二, 吉田将亜, 間瀬田千香暁, 松原和夫, 塩野寛, 松田光悦, 清水恵子. 頭蓋骨からの帰属集団判定; Fordisc®3.0の法医実務への応用. 第12回日本法医学会学術北日本地方集会(法医学談話会第98回例会). プログラム・抄録集. 2011, 弘前.
 19. 山田ひろみ, 松田都久美, 土井大輝, 間瀬田千香暁, 吉田あやか, 岡久美子, 浅利優, 大村友博, 大谷静治, 塩野寛, 清水恵子, 松原和夫, 毎熊浩二. プランクトン検査における壊機法の改良と北海道内のプランクトン分布. 第12回日本法医学会学術北日本地方集会(法医学談話会第98回例会). プログラム・抄録集. 2011, 弘前.
- F. 1. 清水恵子: 我が国の死因究明制度の問題点と最近の動向. 旭川地方検察庁新第64期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2011年1・3月. 旭川.
2. 塩野寛: DNA鑑定之光と影. 旭川地方検察庁新第64期司法修習生分野別検察実務修習講義. 2011年1・3月. 旭川.
3. 塩野寛: DNA鑑定の証明力とその汎用性. 釧路地方裁判所刑事鑑定研究会講演. 2011年3月. 釧路.
4. 清水恵子: 法医学入門. 北海道ハイテクノロジー専門学校救急救命士学科1年講義. 2011年6月. 札幌.
5. 清水恵子: 社会に信頼される法医鑑定体制構築に向けた活動. 旭川医科大学医学部医学科同窓会第11回医学特別奨励賞受賞講演. 2011年9月. 旭川.
6. 清水恵子: 薬の話その他. 全道検視官会議講演. 2011年10月. 札幌.

7. 塩野寛：「死者の声をメスで聞く」。全道検視官会議講演。2011年10月。札幌。
 8. 清水恵子：中毒学概論。北海道大学大学院医学系研究科社会医療管理学講座法医学分野法医学講義。2011年11月。札幌。
 9. 清水恵子：窒息。北海道警察学校検視専科（第8期）講義。2011年12月。札幌。
 10. 塩野寛：法医学入門－生と死の間で－。北海道警察学校検視専科（第8期）講義。2011年12月。札幌。
 11. 間瀬田千香暁：依存性薬物の怖さを知ろう。北海道旭川南高等学校「薬物乱用防止教室」講演。2011年7月。旭川。
 12. 間瀬田千香暁：依存性薬物の怖さを知ろう。北海道旭川西高等学校「薬物乱用防止講話」講演。2011年9月。旭川。
 13. 大村友博：薬理学総論Ⅲ・薬理学各論（抗感染症薬）。学校法人稲積学園北都保健福祉専門学校看護学科科目 治療論Ⅰ（薬理学）講義（2回）。2011年10月。旭川。
 14. 岡久美子：北海道歯科医師会 DCLSm mini コース。旭川会場。インストラクター。2011年3月。旭川。
 15. 岡久美子：心身障害者介補。旭川歯科学院専門学校（歯科衛生士科2年）講義（4回）。2011年5・6月。旭川。
 16. 岡久美子：デンタルクライシスの初期対応。平成23年度「歯の健康力推進歯科医師等養成講習会」（北海道地区）インストラクター。2011年8月。札幌。
- G. 司法解剖：237件，承諾解剖：4件，死体検案：196件，その他鑑定：61件（生体検査：7件，物体検査：15件，書類鑑定：0件，歯牙鑑定：25件，戦没者遺骨DNA鑑定：14件）。
- H. 教授 清水恵子，准教授 間瀬田千香暁，助教 浅利優，大村友博，名誉教授 塩野寛，大学院生 岡久美子，非常勤職員 大谷静治，土井大輝，山田ひろみ，保科千里，松田都久美，北村麻奈，吉田あやか。
- I. 医師数：教員1名，名誉教授1名。

「法医学活動一覧 2010」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)
- G. 研究スタッフ(教室員)
- H. 医師数

- A. 1. Asari M, Omura T, Maseda C, Shiono H, Tasaki Y, Matsubara K, Shimizu K. Enhanced discrimination of single nucleotide polymorphisms using 3' nucleotide differences in ligase detection reaction probes. *Mol Cell Probes*. 2010; 24: 381–386.
2. Tasaki Y, Omura T, Yamada T, Ohkubo T, Suno M, Iida S, Sakaguchi T, Asari M, Shimizu K, Matsubara K. Meloxicam protects cell damage from 1-methyl-4-phenyl pyridinium toxicity via the phosphatidylinositol 3-kinase/ Akt pathway in human dopaminergic neuroblastoma SH-SY5Y cells. *Brain Res*. 2010; 1344: 25–33.
3. 麻下智加, 田崎嘉一, 大村友博, 飯田慎也, 山本譲, 都築仁美, 井上正朝, 大滝康一, 栗屋敏雄, 三好敏之, 間瀬田千香暁, 清水恵子, 松原和夫. 救急医療における濫用薬物スクリーニングと血中アルコール濃度測定—実務実習モデル・コアカリキュラム「中毒医療への貢献」への対応—. *医療薬学*. 2010; 36(8): 575–579.
4. 坂本尚志, 中村正雄, 内藤永, 渡邊剛, 清水恵子, 長谷部直幸, 山内一也. 医学部共用試験成績 (CBT・OSCE) と入学者選抜方法の違い. *大学入試研究ジャーナル*. 2010; 20: 75–80.
5. 鈴木昭広, 杉本昌也, 小北直宏, 藤田智, 郷一知, 塩野寛, 清水恵子. いわゆる死後 CT 検査の所見を根拠に司法解剖を行い, 死因究明に至った幼児虐待の 1 例. *日救急医学会誌*. 2010; 21: 29–34.
6. 近藤英司, 竹川政範, 荒井五織, 岡久美子, 松田光悦. 抗血小板抗体陽性血小板無力症患者の抜歯経験. *有病者歯科医療学会雑誌*. 2010; 19(1): 19–24.
- B. 1. 大村友博: Clostridium difficile 感染症の再発に対する新たなモノクローナル抗体治療. *ファルマシア*. 2010; 46(9): 894–895.
2. 大村友博. Society for Neuroscience 39th Annual Meeting に参加して. *神経化学*. 2010; 49(1): 47–48.
- C. 1. 塩野寛, 清水恵子: 生命倫理への招待 (改訂 4 版). 南山堂. 2010 年.
2. 塩野寛, 清水恵子: 身近な法医学 (改訂 3 版 2 刷). 南山堂. 2010 年.
- D. 1. 清水恵子, 松原和夫, 浅利優: デートレイプドラッグによる健忘状態の解明—医薬品を不正利用した犯罪の抑止—. 平成 19 年度～平成 21 年度 科学研究費補助金基盤研究(C) (課題番号 19590664). 研究成果報告書. 2010.
2. 浅利優: 一塩基多型特異的な増幅反応に基づく ABO 式血液型判定法の開発. 独立行政法人科学技術振興機構地域イノベーション創出総合支援事業 重点地域研究開発推進プログラム平成 21 年度「シーズ発掘試験」. 研究報告書. 2010.
- E. 1. 浅利優, 大村友博, 間瀬田千香暁, 松原和夫, 塩野寛, 清水恵子: LDR-PCR 法を用

- いた一塩基多型検出による ABO 式血液型検査. 第 94 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2010; 64(1): p53, 東京.
2. 大谷静治, 浅利優, 大村友博, 間瀬田千香暁, 松原和夫, 塩野寛, 清水恵子: 抗ヒトケラチン抗体を用いた浴槽内溺水診断の検討. 第 94 次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2010; 64(1): p90, 東京.
 3. 田崎嘉一, 野田敏宏, 大久保知子, 山本譲, 大村友博, 飯田慎也, 坂口智己, 松原和夫: オキシカム系 NSAIDs による COX 非依存的神経細胞死抑制作用の構造特異性. 日本薬学会第 130 年会. 岡山.
 4. 飯田慎也, 大村友博, 大滝康一, 山本譲, 栗屋敏雄, 三好敏之, 田崎嘉一, 松原和夫: 潰瘍性大腸炎患者に対するタクロリムスの TDM. 北海道 TDM 研究会—第 33 回ワークショップ・症例検討会. 旭川.
 5. 飯田慎也, 大村友博, 大滝康一, 山本譲, 栗屋敏雄, 三好敏之, 田崎嘉一, 松原和夫: TDM を用いた抗菌薬使用. 第 100 回日本呼吸器学会北海道地方会. 札幌.
 6. 浅利優, 岡久美子, 大村友博, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 松原和夫, 松田光悦, 清水恵子: アリル特異的伸長反応による微量 DNA からの ABO 式血液型判定. 日本 DNA 多型学会第 19 回学術集会. 抄録集. 2010; p85, 静岡.
 7. 間瀬田千香暁, 大村友博, 浅利優, 岡久美子, 大谷静治, 塩野寛, 清水恵子, 松原和夫: LC/MS/MS による術中突然死体の組織中リドカイン濃度の測定. 第 11 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 97 回例会). プログラム・抄録集. 2010; p11, 福島.
 8. 清水恵子, 浅利優, 大村友博, 山田ひろみ, 松田都久美, 北村麻奈, 吉田あやか, 大谷静治, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 松原和夫: 積雪寒冷地での凍死診断における左右心臓血酸素化ヘモグロビン含有量の差. 第 11 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 97 回例会). プログラム・抄録集. 2010; p12, 福島.
 9. 大村友博, 浅利優, 保科千里, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 清水恵子, 田崎嘉一, 松原和夫: パラコート中毒による肺毒性におけるセロトニン受容体の関与. 第 11 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 97 回例会). プログラム・抄録集. 2010; p13, 福島.
 10. 岡久美子, 浅利優, 大谷静治, 山田ひろみ, 土井大輝, 保科千里, 松田都久美, 北村麻奈, 吉田あやか, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 清水恵子, 大村友博, 松原和夫, 吉田将亜, 松田光悦: 下顎切歯咬耗度からの年齢推定方法についての検討. 第 11 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 97 回例会). プログラム・抄録集. 2010; p20, 福島.
 11. 山田ひろみ, 間瀬田千香暁, 浅利優, 岡久美子, 吉田あやか, 大谷静治, 塩野寛, 清水恵子, 大村友博, 松原和夫: 剖検例における尿中ケトン体の試験紙法による比較検討. 第 11 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 97 回例会). プ

- プログラム・抄録集. 2010; p22, 福島.
12. 大谷静治, 浅利優, 大村友博, 間瀬田千香暁, 山田ひろみ, 松田都久美, 北村麻奈, 吉田あやか, 岡久美子, 保科千里, 土井大輝, 塩野寛, 清水恵子, 松原和夫: 抗ヒトケラチン抗体を用いた浴槽内溺水診断の検討. 第 11 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 97 回例会). プログラム・抄録集. 2010; p23, 福島.
 13. 浅利優, 岡久美子, 大村友博, 大谷静治, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 清水恵子, 松原和夫, 松田光悦: Identifiler Kit を用いた身元確認のための DNA 鑑定における問題点について. 第 11 回日本法医学会学術北日本地方集会 (法医学談話会第 97 回例会). プログラム・抄録集. 2010; p29, 福島.
 14. 清水恵子: 我が国の死因究明制度の問題点と最近の動向ーフィンランドとの比較ー. 第 23 回北海道警察歯科協力医会研修会. 2010 ; p3-p5, 釧路.
- F. 司法解剖 : 210 件, 承諾解剖 : 1 件, 生体検査 : 6 件, 物体検査 : 10 件, 書類鑑定 : 13 件, 歯牙鑑定 : 8 件, 戦没者遺骨 DNA 鑑定 : 36 件.
- G. 教授 清水恵子, 准教授 間瀬田千香暁, 助教 浅利優, 大村友博, 名誉教授 塩野寛, 大学院生 岡久美子, 非常勤職員 大谷静治, 土井大輝, 山田ひろみ, 保科千里, 松田都久美, 北村麻奈, 吉田あやか.
- H. 医師数 : 教員 1 名, 名誉教授 1 名.

「法医学活動一覧 2009」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)
- G. 研究スタッフ(教室員)
- H. 医師数

- A. 1. Asari M, Watanabe S, Matsubara K, Shiono H, Shimizu K. Single nucleotide polymorphism genotyping by mini-primer allele-specific amplification with universal reporter primers for identification of degraded DNA. *Anal Biochem.* 2009; 386: 85–90.
2. Suno M, Kunisawa T, Yamagishi A, Ono T, Yamamoto J, Yamada T, Tasaki Y, Shimizu K, Iwasaki H, Matsubara K. Detection of landiolol using high-performance liquid chromatography/fluorescence: A blood esterase-sensitive ultra-short-acting β_1 -receptor antagonist. *J Chromatogr B.* 2009; 877: 1705–1708.
3. Noda T, Yamada T, Ohkubo T, Omura T, Ono T, Adachi T, Awaya T, Tasaki Y, Shimizu K, Matsubara K. Hot-water-extracts of *Polygonum Multiflorum* Do Not Induce Any Toxicity but Elicit Limited Beneficial Effects on the Liver in Mice. *J Health Sci.* 2009; 55(5): 720–725.
4. Asari M, Omura T, Maseda C, Matsubara K, Shiono H, Shimizu K. A new method for human ABO genotyping using a universal reporter primer system. *J Forensic Sci.* (in press)
5. 山田ひろみ, 坂上和弘, 渡邊智, 浅利優, 松田都久美, 大村友博, 間瀬田千香暁, 阿久津弘明, 松原和夫, 塩野寛, 清水恵子. 大腿骨頭窩の形態を用いた年齢推定法の法医実務における有用性. *法医学の実際と研究.* 2009; 52: 11–16.
6. 清水恵子, 佐々木良, 角田康夫, 小泉博一, 浅利優, 大村友博, 間瀬田千香暁, 松原和夫. 法医学の新しい社会貢献—旭川市高齢者孤立死防止ガイド作成への取り組み—. *法医学の実際と研究.* 2009; 52: 221–226.
7. 塩野寛. 日本における尊厳死・安楽死—最近における延命措置への現状—. *日本小児呼吸器疾患学会雑誌.* 2009; 20(1): 108–109.
- B. 1. 清水恵子: 我が国の検死制度の問題点と最近の動向. *日本警察医会雑誌.* 2009; 4(2): 20–28.
- D. 1. 浅利優: 一塩基多型特異的な 2 段階 PCR を用いたヒト DNA 鑑定法の開発. 平成 21 年ノーステック財団若手研究人材育成事業 Talent 補助金研究成果報告書. 2009.
- E. 1. Omura T, Kaneko M, Okuma Y, Nomura Y. Human HRD1 involved in the degradation of unfolded proteins has other functions than ubiquitin ligase activity in its transmembrane and proline-rich domains. 39th Annual Meeting Society for Neuroscience. 2009, Chicago.
2. Tasaki Y, Okubo T, Yamada T, Omura T, Suno M, Iida S, Satomi M, Sakaguchi T, Asari M, Shimizu K, Matsubara K. Meloxicam protects against 1-methyl-4-phenyl pyridinium-induced cell death via phosphatidylinositol 3-kinase/Akt pathway

- in human dopaminergic neuroblastoma SH-SY5Y cells. 39th Annual Meeting Society for Neuroscience. 2009, Chicago.
3. 渡邊智, 清水恵子, 片田竜一, 水尾圭祐, 西谷陽子, 松本博志: 胸水および心臓血の生化学マーカーからの溺水診断. 第93次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2009; 63(1): p64, 大阪.
 4. 浅利優, 大村友博, 間瀬田千香暁, 松原和夫, 塩野寛, 清水恵子: 15座位のSTR解析により低い尤度比を示した身元確認のためのDNA鑑定事例. 第93次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2009; 63(1): p75, 大阪.
 5. 山田ひろみ, 清水恵子, 浅利優, 広瀬保江, 松田都久美, 大村友博, 間瀬田千香暁, 松原和夫, 塩野寛, 坂上和弘: 大腿骨頭窩の形態を用いた年齢推定法の法医実務における有用性. 第93次日本法医学会学術全国集会. 日本法医学雑誌. 2009; 63(1): p95, 大阪.
 6. 清水恵子, 浅利優, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 郷一知, 大村友博, 松原和夫, 佐々木良, 角田康夫: 現行検死制度における問題点—ある虐待事件から—. 第10回日本法医学会学術北日本地方集会法医学談話会第96回例会. プログラム・抄録集 2009; p12, 旭川.
 7. 浅利優, 間瀬田千香暁, 塩野寛, 清水恵子, 大村友博, 松原和夫: 二段階PCRを用いた簡便なABO式血液型判定法の開発. 第10回日本法医学会学術北日本地方集会法医学談話会第96回例会. プログラム・抄録集 2009; p32, 旭川.
 8. 大村友博, 麻下智加, 田崎嘉一, 飯田慎也, 山本譲, 須野学, 栗屋敏雄, 三好敏之, 松原和夫, 間瀬田千香暁, 浅利優, 清水恵子: 新薬学教育6年制における実務実習モデル・コアカリキュラム「中毒医療への貢献」への対応—法医学講座と連携した救急医療における濫用薬物スクリーニングと血中アルコール濃度測定. 第10回日本法医学会学術北日本地方集会法医学談話会第96回例会. プログラム・抄録集 2009; p15, 旭川.
 9. 塩野寛: 謎解きの医学—悪い奴らは眠らせない—. 島根大学市民公開講座. 2009, 松江.
 10. 間瀬田千香暁, 松原和夫: 薬物体内動態の犯罪捜査への活用および薬物汚染の根絶に向けて. 島根大学市民公開講座. 2009, 松江.
 11. 塩野寛: 日本における尊厳死・安楽死—最近における延命措置への現状—. 第41回日本小児呼吸器疾患学会シンポジウムⅡ小児の長期人工呼吸の適応と選択. 2009, 函館.
 12. 清水恵子: 異状死体ってご存知ですか?—日本の死因究明制度の問題点と最近の動向—. 北海道臨床衛生検査技師会 旭川地区会 学術講演会. 2009, 旭川.
- F. 司法解剖: 130件, 承諾解剖: 1件, 生体検査: 5件, 物体検査: 11件, 書類鑑定: 13件.

- G. 教授 清水恵子, 准教授 間瀬田千香暁, 助教 浅利優, 大村友博, 名誉教授 塩野寛,
非常勤職員 土井大輝, 山田ひろみ, 保科千里, 松田都久美, 北村麻奈, 吉田あやか.
- H. 医師数 : 教員 1 名, 名誉教授 1 名.

「法医学活動一覧 2008」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)
- G. 研究スタッフ(教室員)
- H. 医師数

- A. 1. Asari M, Azumi J, Shimizu K, Shiono H. Differences in tissue distribution of HV2 length heteroplasmy in mitochondrial DNA between mothers and children. *Forensic Sci Int.* 2008 ; 175 : 155-159.
2. Azumi J, Asari M, Shimizu K, Shiono H. Identification of four charred bodies by DNA parentage testing. *Acta Crim Japon.* 2008 ; 74 : 51-57.
3. Watanabe S, Terazawa K, Asari M, Matsubara K, Shiono H, Shimizu K. An autopsy case of sudden death due to acute gastric dilatation without rupture. *Forensic Sci Int.* 2008 ; 180 : e6-e10.
4. 渡邊智, 浅利優, 丹祐夏, 松原和夫, 塩野寛, 清水恵子. バスキュラーアクセスが死因に関与した透析患者の4剖検例. *法医学の実際と研究.* 2008 ; 51 : 225-232.
- B. 1. 伊藤亮, 清水恵子, 安部裕介, 迫康仁:平成18年度「独創性のある生命科学研究」プロジェクト課題2 北方圏における特有な疾患の病態解明とその制御. 旭川医科大学研究フォーラム. 2007 ; 8 : 61-65.
- C. 1. 塩野寛, 清水恵子:身近な法医学(改訂3版). 南山堂. 2008年.
- E. 1. 渡邊智, 寺沢浩一, 浅利優, 塩野寛, 清水恵子:鼻咽喉ファイバースコープの活用—剖検前診断としての有用性—. 第5回オートプシーイメージング学会総会. 2008, 東京.
2. 清水恵子, 浅利優, 渡邊智, 塩野寛, 梅津典子, 松原和夫, 富田正文:パラコートの肺毒性機構に関する検討. 第92次日本法医学会総会. *日本法医学雑誌.* 2008 ; 62 : p 78, 長崎.
3. 渡邊智, 寺沢浩一, 浅利優, 塩野寛, 清水恵子:ポータブル型鼻咽喉ファイバースコープの剖検前診断への活用. 第92次日本法医学会総会. *日本法医学雑誌.* 2008 ; 62 : p 101, 長崎.
4. 浅利優, 渡邊智, 塩野寛, 清水恵子:DNA型分析による血液検体とホルマリン固定組織との異同鑑定. 第92次日本法医学会総会. *日本法医学雑誌.* 2008 ; 62 : p 63, 長崎.
5. 清水恵子. 我が国の検死制度の問題点と最近の動向(特別講演). 日本集中治療医学会第17回北海道地方会 2008, 旭川.
6. 清水恵子. 一酸化炭素中毒概説(特別講演). 第43回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 2008, 旭川.
7. 塩野寛. 日本における尊厳死、安楽死—最近における延命措置への現状—(特別講演). 第41回日本小児呼吸器疾患学会 2008, 函館.
8. 清水恵子, 浅利優, 塩野寛, 松原和夫, 佐々木良, 角田康夫, 小泉博一:旭川市高齢者孤立死防止ガイド作成への取り組み. 第9回日本法医学会北日本地方会.

抄録集 2008 ; p 23, 岩手.

9. 浅利優、塩野寛、清水恵子：病院内の危機管理に寄与した臍帯の異同識別. 第 9 回日本法医学会北日本地方会. 抄録集 2008 ; p 3, 岩手.
 10. 渡邊智、片田竜一、水尾圭祐、西谷陽子、松本博志、清水恵子：透析患者のバス
キュラーアクセスからの失血死 2 例. 第 9 回日本法医学会北日本地方会. 抄録集
2008 ; p 19, 岩手.
- F. 司法解剖：125 体，承諾解剖：5 体，生体検査：3 件，物体検査：9 件，書類鑑定：
28 件
- G. 教授 清水恵子，助教 浅利優，名誉教授 塩野寛.
- H. 医師数：教員 1 名，名誉教授 1 名.

「法医学活動一覧 2007」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)
- G. 研究スタッフ(教室員)
- H. 医師数

- A. 1. Asari M, Umetu K, Adachi N, Azumi J, Shimizu K, Shiono H. Utility of haplogroup determination for forensic mtDNA analysis in the Japanese population. *Legal Med* 2007 ; 9 : 237-240.
2. Crane JW, Shimizu K, Carrasco GA, Garcia F, Jia C, Sullivan NR, D' Souza DN, Zhang Y, Van de Kar LD, Muma NA, Battaglia G. 5-HT1A receptors mediate (+)8-OH-DPAT-stimulation of extracellular-signal regulated kinase (MAP kinase) *in vivo* in rat hypothalamus: Time dependence and regional differences. *Brain Res* 2007 ; 1183 : 51-59.
3. 浅利優, 安積順一, 清水恵子, 塩野寛. 母子間および同一個人内の length heteroplasmy. *DNA 多型* 2007 ; 15 : 245-247.
4. Asari M, Tan Y, Watanabe S, Shimizu K, Shiono H. Effect of length variations at nucleotide 303-315 in human mitochondrial DNA on transcription termination. *Biochem Biophys Res Commun* 2007 ; 361(3) : 641-644.
5. Shimizu K, Matsubara K, Ohtaki K, Saito O, Awaya T, Asari M, Azumi J, Shiono H, Yoshiyagawa S, Tsunoda Y. Death by intravenous self-injection of Pacoma[®], a cationic detergent. *Forensic Sci Int* 2007;173:83-84.
6. Suno M, Ono T, Iida S, Umetsu N, Ohtaki K, Yamada T, Awaya T, Satomi M, Tasaki Y, Shimizu K, Matsubara K. Improved high-performance liquid chromatographic detection of paclitaxel in patient's plasma using solid-phase extraction, and semi-micro-bore C₁₈ separation and UV detection. *J Chromatogr B Analyt Biomed Life Sci* 2007 ; 860 : 141-144.
7. 浅利優, 丹祐夏, 渡邊智, 清水恵子, 塩野寛. 病院の危機管理に寄与した臍帯の DNA 分析. *法医学の実際と研究* 2007 ; 50 : 9-11.
8. 塩野寛, 清水恵子. 凍死の法医学診断. *法医学の実際と研究* 2007 ; 50 : 1-7.
9. Hirano T, Yasuda S, Osaka Y, Asari M, Kobayashi M, Itagaki S, Iseki K. The inhibitory effects of fluoroquinolones on L-carnitine transport in placental cell line BeWo. *Int J Pharm* 2007 ; 351 : 113-8.
10. 清水恵子, 松原和夫, 菅原満, 浅利優, 丹祐夏, 渡邊智, 塩野寛. Pharmacokinetics の鑑定事例への応用 —危険運転行為と覚せい剤摂取—. *中毒研究* 2007 ; 第 20 巻 4 号 : p438.
- B. 1. 清水恵子 : 窒息概論—頸部圧迫による窒息—. 北海道警察医会「会報」第 31 号 2007 ; 5-11.
2. 清水恵子 : Date Rape Drug と健忘. 旭川医科大学研究フォーラム 7 (1) 2007 ; 2-11.

- C. 1. 塩野寛, 清水恵子. 生命倫理への招待 改訂第3版, 2007 ; p1-210, 南山堂.
2. 塩野寛. 魚眼図—死者の声をメスで聞く—第一刷, 2007 ; p1-317, 北海道新聞社.
3. 塩野寛. 魚眼図—死者の声をメスで聞く—第二刷, 2007 ; p1-319, 北海道新聞社.
- E. 1. 清水恵子, 浅利優, 安積順一, 松原和夫, 菅原満, 塩野寛. Pharmacokinetics の鑑定事例への応用 —危険運転行為と覚せい剤摂取—. 第91次日本法医学会総会, 日法医誌 2007 ; 61 : p52, 秋田.
2. 安積順一, 浅利優, 清水恵子, 塩野寛 : p 53 遺伝子 DNA 多型—日本人頻度および民族変異—. 第91次日本法医学会総会, 日法医誌 2007 ; 61 : p84, 秋田.
3. 浅利優, 安積順一, 清水恵子, 塩野寛 : mtDNA の CSB2 配列と複製の関連性について. 第91次日本法医学会総会 日法医誌 2007 ; 61 : p88, 秋田.
4. 清水恵子, 松原和夫, 菅原満, 浅利優, 丹祐夏, 渡邊智, 塩野寛 : Pharmacokinetics の鑑定事例への応用 —危険運転行為と覚せい剤摂取—. 第29回日本中毒学会総会, 学術集会 プログラム抄録集, 2007, 東京.
5. 渡邊智, 寺沢浩一, 清水恵子, 浅利優, 丹祐夏, 塩野寛 : 医療関連死司法解剖自験例の検討—鑑定の問題点を中心に—. 第8回日本法医学会北日本地方会要旨集, 2007, 仙台.
6. 丹祐夏, 渡邊智, 浅利優, 清水恵子, 塩野寛 : 透析患者の内シャントより空気塞栓が生じたと考えられた医療関連死2例. 第8回日本法医学会北日本地方会要旨集, 2007, 仙台.
7. 浅利優, 丹祐夏, 渡邊智, 清水恵子, 塩野寛 : 個人識別を目的とした種々の試料からの DNA 鑑定の現状について. 第44回日本犯罪学会総会 要旨集, 2007, 東京.
- F. 鑑定件数 (司法解剖 : 118 体, 承諾解剖 : 7 体, 生体検査 : 4 件, 物体検査 : 3 件, 書類鑑定 : 12 件, 親子鑑定 : 1 件)
- G. 教授 清水恵子, 准教授 渡邊 智, 助教 浅利 優, 名誉教授 塩野 寛
- H. 医師数 教員 2 名, 名誉教授 1 名

「法医学活動一覧 2006」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)
- G. 研究スタッフ(教室員)
- H. 医師数

- A. 1. K. Matsubara, K. Shimizu, M. Suno, K. Ogawa, T. Awaya, T. Yamada, T. Noda, M Satomi, K Ohtaki, K. Chiba, Y. Tasaki, H. Shiono. Tandospirone, a 5-HT1A agonist, ameliorates movement disorder via non-dopaminergic systems in rats with unilateral 6-hydroxydopamine-generated lesions. *Brain Res.* 2006 ; 1112 : 126-133.
2. 安積順一, 浅利 優, 清水恵子, 塩野寛. P53 遺伝子解析による法医試料からの動物種の識別. *DNA 多型* 2006 ; 14, p. 241-244.
3. 安積順一, 浅利 優, 清水恵子, 塩野寛. p 53 インترون 7 遺伝子型多型—日本人頻度、民族変異および分子進化—. *法医学の実際と研究* 2006 ; 49 : p. 207-211.
4. K. Shimizu, K Matsubara, K. Ohtaki, O. Saito, T. Awaya, M. Asari, J. Azumi, H. Shiono, S. Yoshiyagawa, Y. Tsunoda. Death by intravenous self-injection of Pacoma®, a cationic detergent. *Forensic Sci. Int.* 2007 ; in press
- B. 1. 塩野 寛, 清水恵子. 異状死の届出と医療事故. *札医通信* 2006 ; 469 : p. 4-5.
- C. 1. 塩野 寛, 清水恵子. 生命倫理への招待改訂第3版. 南山堂 2007年1月; pp. 1-210.
- D. 1. 塩野 寛. 急性パラコート中毒による肺繊維化の機構とその発展阻止 治療薬の探索的研究. 平成 15~平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (2)) 研究成果報告書 2006.
- E. 1. 清水恵子, 浅利 優, 安積順一, 塩野 寛, 松原和夫. 事故状況から当初は頸部圧迫による窒息が推測された心臓破裂例. 第 90 次日本法医学会総会 日本法医学雑誌 2006 ; 60, p. 87, 福岡.
2. 浅利 優, 安積順一, 清水恵子, 塩野 寛. 同一母系内での mtDNA length heteroplasmy 解析. 第 90 次日本法医学会総会 日本法医学雑誌 2006;60, p. 44, 福岡.
3. 安積順一, 浅利 優, 清水恵子, 塩野 寛. 霊長類の p53 遺伝子イントロン 7 多型の比較検討. 第 90 次日本法医学会総会 日本法医学雑誌 2006 ; 60, p. 78, 福岡.
4. 浅利 優, 安積順一, 清水恵子, 塩野 寛. 母子間および同個人内の length heteroplasmy 解析. 日本 DNA 多型学会第 15 回学術集会 要旨集, 2006 ; p. 79, 福山.
5. 安積順一, 浅利 優, 清水恵子, 塩野 寛. 高度焼損死体の個人識別を目的とした親子鑑定例. 第 7 回日本法医学会北日本地方会 抄録集, 2006 ; p. 22, 札幌.
- F. 鑑定件数 (司法解剖 : 125 体, 承諾解剖 : 11 体, 生体検査 : 7 件, 物体検査 : 5 件, 書類鑑定 : 8 件, 親子鑑定 : 3 件)
- G. 教授 清水恵子, 助教授 安積順一, 助手 浅利優

「法医学活動一覧 2005」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)
- G. 研究スタッフ(教室員)

- A. 1. 吉田将亜, 須野 学, 浅利 優, 小川研人, 栗屋敏雄, 清水恵子, 松原和夫, 北進一, 塩野 寛. 陳旧化した歯牙からの DNA を用いた性別判定. 北海道医学雑誌 2005 ; 80 : 191-199.
2. 浅利 優, 安積順一, 清水恵子, 塩野 寛. AmpFlSTR Identifiler Kit を用いた炭化およびミイラ化した死体からの個人識別の 2 例. 犯罪学雑誌 2005 ; 71 : 111-114.
3. 安積順一, 浅利 優, 塩野 寛. ヒト p53 遺伝子プライマーを用いた動物種の鑑別. DNA 多型 2005 ; 13 : 201-203.
4. 浅利 優, 安積順一, 塩野 寛, 松原和夫. ABC トランスポーターABCG2/BCRP の遺伝子型解析. DNA 多型 2005 ; 13 : 232-235.
5. Mizukami H, Akane A, Nakayashiki N, Aoki Y, Shiono H. Systematic classification of alleles of the glycophorin A(MN blood group) gene. J. Hum Genet 2005 ; 50 : 667-670.
6. 新しい気道確保器具 (エアウェイ) (CobraPLA) とラリンジアルマスクの比較. 臨床麻酔 2005 ; 29 : 569-572. 金谷憲明, 数井 薫, 清水恵子, 紅露伸司, 中山雅康, 並木昭義.
- B. 1 塩野 寛. 死体を診る④凍死. いのち 2005 ; 38 : 12-13.
- E. 1. 浅利 優, 安積順一, 清水恵子, 梅津和夫, 塩野 寛. ミトコンドリア DNAHV1, 2 領域検出とハプログループ判定による頻度解析. 第 89 次日本法医学会総会 要旨集, 2005 ; p16, 高松.
2. 安積順一, 浅利 優, 清水恵子, 塩野 寛, 松原和夫. 日本人集団における p53 遺伝子コドン 72 およびイントロン 7 の多型. 第 89 次日本法医学会総会 要旨集, 2005 ; p66, 高松.
3. 清水恵子, 浅利 優, 安積順一, 塩野 寛. 院内突然死の一解剖例—内頸静脈からの出血による頸部圧迫—. 第 89 次日本法医学会総会 要旨集, 2005 ; p91, 高松.
4. 安積順一, 浅利 優, 清水恵子, 塩野 寛. p53 遺伝子解析による法医試料からの動物種の鑑別. 日本 DNA 多型学会第 14 回学術集会 要旨集, 2005 ; p50, 前橋.
5. 浅利 優, 安積順一, 清水恵子, 塩野 寛. AmpFISTR Identifiler Kit を用いた身元確認のための DNA 鑑定 2 例. 第 6 回日本法医学会北日本地方会 要旨集, 2005 ; p13, 秋田
- F. 鑑定件数 (司法解剖 : 94 体, 承諾解剖 : 9 体, 生体検査 : 4 件, 物体検査 : 2 件, 書類鑑定 : 2 件, 親子鑑定 : 1 件, その他 : 1 件)

「法医学活動一覧 2004」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

- A. 1. Ohtaki K, Matsubara K, Fujimaru S, Shimizu K, Awaya T, Suno M, Chiba K, Hayase N, Shiono H. Cefoselis, a β -lactam antibiotic, easily penetrates the blood-brain barrier and causes seizure independently by glutamate release. *J. Neural Transm* 2004 ; 111 : 1523-1535.
2. 安積順一, 魏慧玲, 藤井裕人, 松本博志, 玉木敬二. 日本人集団における p53 遺伝子の DNA 多型解析—第 7 イントロンの多型性—. *DNA 多型* 2004;12:111-113.
- B. 1. 塩野寛. 死体を診る①死者の人権を守る—死因の究明:いのち 2004 ; 35 春号 : 12-13.
2. 塩野寛. 死体を診る②男の睾丸はおもりとなるか—溺死:いのち 2004 ; 36 夏号 : 12-13.
3. 清水恵子, 塩野寛. ベンゾジアゼピン系薬物とアルコールの併用により生じる健忘—犯罪に悪用した事例を中心に :いのち 2004 ; 37 秋号 : 12-13.
- C. 1. 清水恵子, 岩崎寛編. 麻酔課診療プラクティス 14 巻. 麻酔偶発症・合併症総説 2 法医学の立場からみた麻酔偶発症・合併症. 医療事故—その問題点— 東京 : 文光堂, 2004 ; p7-10.
- D. 1. 塩野寛, 清水恵子. 積雪寒冷地での凍死の法医病態学的研究と診断確立. 科学研究費補助金基盤研究 (C) (2) (課題番号 13670414) 2004 ; pp43.
- E. 1. 安積順一, 西谷陽子, 松本博志. ヒト p53 遺伝子プライマーを用いた哺乳類以外の動物種の鑑別. 第 88 次日本法医学会総会 要旨集, 2004 ; p65, 旭川.
2. 浅利優, 清水恵子, 塩野寛. 日本人におけるミトコンドリア DNA HV 領域の多型解析. 第 88 次日本法医学会総会 要旨集, 2004 ; p69, 旭川.
3. 清水恵子, 浅利優, 塩野寛, 松原和夫, 大滝康一, 栗屋敏雄. 急性パラコート中毒による末梢毒性機構の解明とその阻止薬の探索. 第 88 次日本法医学会総会 要旨集, 2004 ; p77, 旭川.
4. 吉田将亜, 塩野寛, 清水恵子, 松原和夫. 歯牙からの DNA を用いた性別判定と法医学的応用. 第 88 次日本法医学会総会 要旨集, 2004 ; p75, 旭川.
5. 高橋節典, 竹下治男, 塩野寛. 生前飲酒を死後産生エタノール/1-プロパノール濃度比 >25 で立証するための 1-プロパノール濃度について. 第 88 次日本法医学会総会 要旨集, 2004 ; p77, 旭川.
6. 栗屋敏雄, 大滝康一, 松原和夫. パーソナルコンピューター上での薬品検索システム. 第 88 次日本法医学会総会 要旨集, 2004 ; p78, 旭川.
7. 大滝康一, 清水恵子, 栗屋敏雄, 松原和夫, 塩野寛. 新世代のベータラクタム系抗生物質は血液脳関門を透過し痙攣を誘発する可能性がある. 第 88 次日本法医学会総会 要旨集, 2004 ; p78, 旭川.

8. 西谷陽子, 藤井健一, 安積順一, 松本博志. JNK 活性制御機構に対するエタノール代謝の影響. 第 88 次日本法医学会総会 要旨集, 2004 ; p83, 旭川.
9. 藤井健一, 西谷陽子, 安積順一, 松本博志. 脂肪肝の危険性—非アルコール性肝障害マウスモデルにおける検討. 第 88 次日本法医学会総会 要旨集, 2004 ; p85, 旭川.
10. 安積順一, 浅利優, 塩野寛. ヒト p53 遺伝子プライマーを用いた動物種の鑑別. 日本 DNA 多型学会第 13 回学術集会 要旨集, 2004 ; p90, 横浜.
11. 浅利優, 安積順一, 松原和夫, 塩野寛. ABC トランスポーター ABCG2/BCRP の遺伝子多型解析. 日本 DNA 多型学会第 13 回学術集会 要旨集, 2004 ; p94, 横浜.
12. 本間あや, 伏屋敬博, 西谷陽子, 安積順一, 藤井健一, 岡崎俊一郎, 松本博志. 市販催眠薬依存による二事例. 第 5 回日本法医学会北日本地方会 要旨集, 2004 ; p9, 秋田.
13. 伏屋敬博, 本間あや, 西谷陽子, 安積順一, 藤井健一, 岡崎俊一郎, 松本博志. 甲状腺クリーゼによる溺死例. 第 5 回日本法医学会北日本地方会 要旨集, 2004 ; p13, 秋田.
14. 西谷陽子, 安積順一, 藤井健一, 岡崎俊一郎, 松本博志. 脊椎損傷後の行動能力が問題となった一例. 第 5 回日本法医学会北日本地方会 要旨集, 2004 ; p16, 秋田.
15. 岡崎俊一郎, 西谷陽子, 安積順一, 藤井健一, 松本博志. 人体を介した交通事故死亡例. 第 5 回日本法医学会北日本地方会 要旨集, 2004 ; p18, 秋田.
16. 安積順一, 浅利優, 清水恵子, 塩野寛, 青柳みのり, 松本博志. p53 遺伝子解析による獣肉片の動物種の鑑別. 第 5 回日本法医学会北日本地方会 要旨集, 2004 ; p29, 秋田.

F. 鑑定件数 (司法解剖 : 85 体, 承諾解剖 : 17 体, 生体検査 : 9 件, 物体検査 : 4 件, 書類鑑定 : 3 件, 白骨鑑定 1 件)

「法医学活動一覧 2003」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

- A. 1. Hayase N, Satomi M, Hara A, Awaya T, Shimizu K, and K. Matsubara. Protective effects of quinaprilat and trandolaprilat, active metabolites of quinapril and trandolapril, on hemolysis induced by lysophosphatidylcholine in human erythrocytes. *Biol. Pharm. Bull* 2003 ; 26 : 712-716.
2. Shimizu K, Matsubara K, Ohtaki K, Fujimaru S, Saito O, Shiono H. Paraquat induces long-lasting dopamine overflow through the excitotoxic pathway in the striatum of freely moving rats. *Brain Res* 2003 ; 976 : 243-252.
3. 小川研人, 清水恵子, 吉田将亜, 塩野 寛, 須野 学, 栗屋敏雄, 松原和夫. 個人識別を目的としたチトクローム P450 分子種の変異遺伝子の出現頻度. *DNA 多型* 2003 ; 11 : 192-200.
4. 吉田将亜, 小川研人, 斉藤 修, 清水恵子, 塩野 寛, 栗屋敏雄, 須野 学, 松原和夫. 歯牙からの DNA を用いた性別判定. *DNA 多型* 2003 ; 11 : 223-229.
5. Shimizu K, Matsubara K, Ohtaki K, Shiono H. Paraquat leads to dopaminergic neural vulnerability in organotypic midbrain culture. *Neurosci. Res.* 2003 ; 46 : 523-532.
6. Sakurada K, Matsubara K, Shimizu K, Shiono H, Sato Y, Tsuge K, Yoshino M, Sakai I, Mukouyama H, Takatori T. Paradoxine iodide (2-PAM) penetrates across the blood-brain barrier. *Neurochem Res.* 2003 ; 28 (9) : 1401-1407.
7. Ogawa K, Suno M, Shimizu K, Yoshida M, Awaya T, Matsubara K, Shiono H. Genotyping of cytochrome P450 isoform genes is useful for forensic identification of cadaver. *Legal Med.* 2003 ; 5 : 132-138.
8. 清水恵子, 浅利 優, 塩野 寛. 向精神薬服用者突然死の一剖検例. *法医学の実際と研究* 2003 ; 46 : 27-31.
- B. 1. 橋本正義, 各務圭太, 檜森 聡, 国本篤朗, 山林雄二, 山原清一, 其田 一, 塩野 寛. 入浴中の心肺停止で硬直がみられた搬送症例. *プレホスピタル・ケア* 2003 ; 161 : 50-51.
- C. 1. 伊藤正男, 井村裕夫, 高久文麿編集 *医学大辞典*. 医学書院 2003.
2. 塩野 寛, 清水恵子. *身近な法医学*. 改訂 2 版. 南山堂 2003.
3. 塩野 寛. *生命倫理への招待*. 改訂 2 版. 南山堂 2003.
4. 塩野 寛. *日沼頼夫対談集 医学の根っこ*. 勉誠出版 2003 : 287-322.
- D. 1. 塩野 寛, 清水恵子. 積雪寒冷地での凍死の法医病態学的研究と診断確立. 平成 13~15 年度文科省科学研究費補助金 (基盤 C) 2003.
- E. 1. Crane J W, Shimizu K, Damianoska J, Garcia F, Charamas V, Carrasco G,

- Sullivan, Hanley NR, D' souza DN, Peterson BR, Zhang Y, Van de Kar LD. Map kinase activation in the Rat Brain following systemic administration of a selective 5-HT_{1A} Receptor Agonist. 32th Annual Meeting Society for Neuroscience (2003. 11).
2. Sullivan Hanley NR, Crane JW, D' souza DN, Carrasco GA, Damianoska KJ, Garcia F, Peterson BR, Shimizu K, Van de Kar LD. Fluoxetine-induced desensitization of 5-HT_{1A} Receptor-mediated neuroendocrine responses in Dvarectomized Rats . 32th Annual Meeting Society for Neuroscience (2003. 11).
 3. Sullivan Hanley NR, D' souza DN, Crane JW, Charamas V, Carrasco GA, Damianoska KJ, Garcia F, Peterson BR, Shimizu K, Muma NA, Van de Kar LD. The Pharmacology of the 5-HT_{1A} receptor agonist Tansospirone on neuroendocrine function in Rat . 32th Annual Meeting Society for Neuroscience (2003. 11).
 4. Van de Kar LD, Carrasco GA, Shimizu K, Damianoska KJ, Sullivan Hanley NR, Peterson BR, D' souza DN, Garcia F. Fluoxetine-induced desensitization of 5-HT_{1A} receptors. neuroendocrine effect buspirone and leuels of cytosol and membrane-associated Gz protein and 5-HT_{1A} Receptor in the hypothalamic paraventricular nucleus and the amygdala. 32th Annual Meeting Society for Neuroscience (2003. 11).
 5. Matsubara K, Shimizu K, Ogawa K, Suno M, Fujimaru S, Hayase N, Shiono H. Tansospine, A 5-HT_{1A} agonist potentials Turmiy induced by apomorphine in baleral 6-OH-dopamine lesioned rats . 32th Annual Meeting Society for Neuroscience (2003. 11).
 6. 清水恵子, 浅利 優, 塩野 寛. 向精神薬服用者突然死の一剖検例. 法医学談話会第90回例会・日本法医学会第4回北日本地方会 (2003. 10) 札幌.
 7. 清水恵子. シンポジウム「法医学研究の新しい展開」環境毒性は近未来人の神経機能に影響を及ぼす?—パラコートによる神経毒性機序—. 第87次日本法医学会総会 (2003. 4) 富山.
 8. 吉田将亜, 斉藤 修, 清水恵子, 塩野 寛, 松原和夫. 歯牙からの DNA を用いた性別判定. 第87次日本法医学会総会 (2003. 4) 富山.
 9. 高橋知行, 清水恵子, 福島正充, 松原和夫, 塩野 寛. プロリンエンドペプチターゼ阻害剤である JTP-4819 によるコカイン毒性の軽減. 第87次日本法医学会総会 (2003. 4) 富山.
 10. 斉藤 修, 吉田将亜, 清水恵子, 塩野 寛. 凍死の法医学的診断. 第87次日本法医学会総会 (2003. 4) 富山.

F. 鑑定件数（司法解剖：94 体、承諾解剖：4 体、生体検査：4 件、書類鑑定：7 件）

「法医学活動一覧 2002」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

- A. 1. Mizukami H, Akane A, Shiono H, and Ogawa K. Molecular evolution of alleles of the glucophorin A gene. *Legal Med* 2002 ; 4 : 13-20.
2. Uezono T, Shiono H, Shimizu K, Ogawa K, Saito O, and Yoshida M. Simultaneous analysis of hypoglycemic agents and C-peptide and essential in a homicide case with the combined dosing insulin and insulin-releasing drug. *Legal Med* 2002 ; 4 : 34-36.
3. 齊藤 修, 清水恵子, 塩野 寛, 吉田将亜, 小川研人, 水上 創, 上園 崇. 凍死の診断—凍死で認められる特異所見とその頻度について—. *犯罪学雑誌* 2002 ; 68 : 56-60.
4. 水上 創, 小川研人, 吉田将亜, 塩野 寛, 赤根 敦, 中屋敷徳, 青木康博. グリコフォリン A 遺伝子多型の解析 (3). *DNA 多型* 2002 ; 10 : 131-136.
5. 清水恵子, 齊藤 修, 塩野 寛. アナフィラキシーショックの 4 剖検例 *犯罪学雑誌* 2002 ; 68 : 147-156.
6. 水上 創, 小川研人, 吉田将亜, 塩野 寛. 水中死体の骨からの DNA 解析 3 例. *法医学の実際と研究* 2002 ; 45 : 141-146.
7. 清水恵子, 塩野 寛, 小川研人, 齊藤 修, 吉田将亜, 水上 創. 自動車運転中の内因性急死. *法医学の実際と研究* 2002 ; 45 : 209-212.
- B. 1. 齊藤 修, 清水恵子, 塩野 寛, 吉田将亜, 小川研人, 水上 創, 上園 崇. 凍死の法医学的診断への新しい試み. *旭川医科大学フォーラム* 2002 ; 4 : 29-33.
2. 塩野 寛. 過去 2 年間のチュートリアル I (社会医学分野) の学習教材に用いられた 8 課題の短評. *旭川医科大学フォーラム* 2002 ; 4 : 66-71.
3. 塩野 寛, 清水恵子. 質疑応答 指紋の登録分析法. *日本医事新報* 2002 ; 4070 : 94.
- C. 1. 清水恵子, 塩野 寛. 分担. *生命倫理辞典*. 太陽出版 2002.
- D. 1. 清水恵子. 第 31 回北米神経科学学会. *伊藤医学術交流財団年報* 2002 ; 7 : 39.
2. 清水恵子. パラコートのパーキンソン病誘発の可能性. *上原記念生命科学財団研究報告集* 2002 ; 16 : 103-106.
- E. 1. 齊藤 修, 清水恵子, 松原和夫, 上園 崇, 吉田将亜, 小川研人, 水上 創, 塩野 寛. ヒトドパミン神経細胞膜におけるパラコートの神経毒性. 第 86 次日本法医学会総会 (2002. 4) 岡山.
2. 上園 崇, 松原和夫, 齊藤 修, 吉田将亜, 小川研人, 水上 創, 清水恵子, 塩野 寛. 一酸化炭素中毒における神経細胞死: 一酸化炭素の神経細胞への直接作用. 第 86 次日本法医学会総会 (2002. 4) 岡山.
3. 清水恵子, 齊藤 修, 吉田将亜, 小川研人, 水上 創, 上園 崇, 塩野 寛, 松

- 原和夫. アナフィラキシーショック死の4例. 第86次日本法医学会総会 (2002. 4) 岡山.
4. 安積順一, 水上 創, 松本博士, 田畑典子, 玉木敬二. 骨からの DNA 抽出法の比較検討. 第86次日本法医学会総会 (2002. 4) 岡山.
 5. 塩野 寛. 「教育講演」 Battered Child Syndrome. 第30回日本小児神経外科学会 (2002. 6) 旭川.
 6. 塩野 寛. 「特別講演」 アルコールとベンゾジアゼピン系薬物の併用により生じる健忘—犯罪における健忘の悪用—. 第22回アルコール医学生物学研究会 (2002. 6) 旭川.
 7. 吉岡正文, 権守邦夫, 中村 彰, 塩野 寛. パソコンを用いる遠隔授業の一方方法. 第3回日本法医学会北日本地方会 (2002, 10).
 8. 斉藤 修, 吉田将亜, 小川研人, 清水恵子, 塩野 寛. 夏山登山における凍死の2例. 第3回日本法医学会北日本地方会 (2002, 10).
 9. 小川研人, 吉田将亜, 斉藤 修, 清水恵子, 塩野 寛, 須野 学, 栗屋敏雄, 松原和夫, 水上 創, 上園 崇. CYP 分子種の変異の遺伝子発現頻度. 日本 DNA 多型学会第11回学術集会 (2002. 10) 旭川.
 10. 吉田将亜, 小川研人, 斉藤 修, 清水恵子, 塩野 寛, 栗屋敏雄, 須野 学, 松原和夫. 歯牙からの DNA を用いた性別判定. 日本 DNA 多型学会第11回学術集会 (2002. 10) 旭川.
 11. Shimizu K, Matsubara K, Ohtaki K, Saito O, and Shiono H. Paraquat leads to dopaminergic neural vulnerability in organotypic midbrain culture. Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting. Orland, Florida. (2002. 11)
 12. Sakurada K, Matsubara K, Shimizu K, Shiono H, Sakai I, Mukoyama H, Takatori T. Pralidoxine iodide(2PAM) penetrates across the blood-brain barrier . Firth Int Symp on Advances in Legal Med(ISACM). Takayama, Japan. (2002, 10)
- F. 鑑定件数 (司法解剖 : 113 体、承諾解剖 : 5 体、生体検査 : 8 件、書類鑑定 : 5 件)

「法医学活動一覧 2001」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

- A. 1. Matsubara K, Senda T, Uezono T, Awaya T, Ogawa K, Shimizu K, Hayase N, Kimura K: L-Deprenyl prevents the cell hypoxia induced by dopaminergic neurotoxic MPP+ and β -carbolinium a microdialysis study in rats. *Neuroscience Letters* 302(2001)65-68, 2001.
2. Takeshita H, Yamada T, Nakashima Y, Mogi K, Shiono H, Suginaka K, Yuasa I, Nishimukai H&Kimura H: Geographic North-South Decline in DNASE 1² in Japanese Population. *Human Biology* 73, 129-134, 2001.
3. 水上 創、塩野 寛、吉田 将亜、小川 研人、斉藤 修、上園 崇、清水恵子、赤根 敦: グリコフォリンA遺伝子多型型の細検討. *DNA多型* 9, 161-163, 2001.
4. Uezono T, Matsubara K, Naoi M, Shimizu K, Saito O, Ogawa K, Mizukami H, Hayase N, Shiono H: Norharman indolemine-derived β -carboline but not Trp-P-2 g-carboline induced a apoptotic cell death in human neuroblastoma SH-SY5Y cells: *J Neural Transm* 108, 943-953, 2001.
5. Shimizu K, Ohtaki T, Matsubara K, Aoyama K, Uezono T, Saito O, Suno M, Hayase N, Kimura K, Shiono H: Carrier mediated processed in Blood-Brain Barrier penetration in Neural Uptake of paraquat: A Microdialysis study. *Brain Res*, 906, 135-142, 2001.
7. Uezono T, Shiono H, Shimizu K, Ogawa K, Saito O, Yoshida M, Mizukami H, Matsubara K: Simultaneous analysis of hypoglycemic agents and C-peptide are essential in a homicide case with the combined dosing insulin and insulin-releasing drug. *Legal Med.* 4 : 34-36, 2002
8. 斉藤 修、吉田将亜、小川研人、水上 創、上園 崇、清水恵子、塩野 寛: 多数の水疱形成を認めた胸腹部圧迫による窒息の1例. *法医学の実際と研究*. 44. 17-19. 2001.
- B. 1. 斉藤 修、清水恵子、塩野 寛、吉田将亜、小川研人、水上 創、上園 崇: 凍死の法医学診断への新しい試み. *旭川医科大学研究フォーラム* 2/2. 2001.
2. 塩野 寛: 過去2年間にチュートリアル1(社会医学分野)の学習教材に用いられた8課題の短評. *旭川医科大学研究フォーラム* 2/2. 2001.
- C. 1. 塩野 寛: 生命倫理への招待. PP197、南山堂、2001.
- D. 1. 塩野 寛、清水恵子、上園 崇: 性染色体上のマイクロサテライトの多型性と同一個体内での突然変異率の解析. 平成11年~12年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書 pp1-46、2001.
2. 吉岡尚文、塩野 寛、勝又義直、石津日出雄、中園一郎: DNA分析による自殺の遺伝的素因関与の検索平成11年~12年度文部科学省科学研究費補助金(基盤

研究 B(1)) 研究成果報告書 pp1-57、2001.

3. 清水恵子：大和証券ヘルス財団研究助成金報告書。2001.
- E. 1. 上園 崇、松原和夫、丸山和佳子、直井 信、斉藤 修、吉田将亜、小川研人、水上 創、清水恵子、塩野 寛：Norharman はヒトドパミン神経芽細胞腫 SH-SY5Y 細胞にアポトーシスを誘導する。第 121 年会日本薬学会 (2001. 3) 札幌.
2. 清水恵子、松原和夫、塩野 寛：シンポジウム「ニューロン死の機構と病態—神経変性疾患克服へのアプローチ—」神経変性疾患と環境毒物：第 121 年会日本薬学会 (2001. 3) 札幌.
3. 斉藤 修、吉田将亜、小川研人、水上 創、上園 崇、清水恵子、塩野 寛、松原和夫、大滝康一、早勢伸正、吉谷川真司：陽イオン性殺菌消毒剤パコマ静注死亡例における体内分布。第 85 次日本法医学会総会 (2001. 4) 久留米.
4. 水上 創、赤根 敦、塩野 寛、吉田将亜、小川研人、斉藤 修、上園 崇、清水恵子：MN 式血液型遺伝子多型の細検討。第 85 次日本法医学会総会 (2001. 4) 久留米.
5. 上園 崇、松原和夫、斉藤 修、吉田将亜、小川研人、水上 創、清水恵子、牛首文隆、塩野 寛：プロスタグランジン E₂ 受容体は空間学習の記憶形成には関与しない第 85 次日本法医学会総会 (2001. 4) 久留米.
6. 清水恵子、斉藤 修、吉田将亜、小川研人、水上 創、上園 崇、塩野 寛、松原和夫、大滝康一、早勢伸正：パラコートの中枢神経系への取り込みと興奮性毒性を介しての神経障害。第 85 次日本法医学会総会 (2001. 4) 久留米.
7. Shimizu K, Saito O, Uezono T, Suno M, Awaya T, Hayase N, Matsubara K & Shiono H : Paraquat Taken up into Strial Cells induced Transit Glutamate Efflux followed by the long-term Dopamine Overflow. Joint Congress The 5th International Conference on progress in alzheimers and Parkinsons disease. The 9th International Catecholamine Symposium. (2001. 4) Kyoto, Japan.
8. Shimizu K, Matsubara K, Saito O, Ohtaki T, Ogawa K, Uezono T, Suno M, Awaya T, Hayase N & Shiono H: Paraquat Induced the Long-Lasting Dopamine Neurotoxicity Mediated by the Excitotoxic Pathway in the striatum. 31st Annual Meeting Society for Neuroscience San Diego, Calif. (2001.11)
9. Uezono T, Matsubara K, Maruyama W, Naoi M, Shimizu K, Saito O, Mizukami H, Hayase N & Shiono H: Norman, an Indoleamine-derived β -carboline, but not TRPP-2, A γ -carboline induces apoptotic cell death in Human Neuro blastoma SH-SY5Y cells. 31st Annual Meeting Society for Neuroscience, San Diego, Calif. (2001.11)
10. 清水恵子、斉藤 修、小川研人、水上 創、上園 崇、塩野 寛：ベンゾジアゼピン系薬物を悪用した犯罪における健忘。日本法中毒学会第 20 年会 (2001. 7) 松江.

- 1 1. 松原和夫、清水恵子：再び注目される農薬の神経毒性—パラコート中枢毒性発現における神経化学的機序. 日本法中毒学会第 20 年会シンポジウム「臨床現場の薬物中毒」. (2001. 7) 松江.
 - 1 2. 中村勝之、阪田正勝、邦谷雅之、舟山真人、清水恵子、塩野 寛：リドカインとその代謝物の HPLC による一斉分析法の検討—リドカイン過量服用例の体内分布—. 日本法中毒学会第 20 年会. (2001. 7) 松江.
 - 1 3. 斉藤 修、吉田将亜、小川研人、水上 創、上園 崇、清水恵子、塩野 寛：多数の水疱形成を認めた胸腹部圧迫による窒息死の 1 例—健康マッサージ器のエアージャケットによる胸腹部圧迫と水疱形成について. 第 2 回日本法医学会北日本地方会（第 88 回法医学談話会例会）(2001. 10) 福島.
 - 1 4. 水上 創、赤根 敦、小川研人、吉田将亜、中尾敷徳、青木康博、塩野 寛：グリコフォルン A 遺伝子多型の解析(3). 日本 DNA 多型学会第 10 回学術集会. (2001. 11) 岡山.
- F. 鑑定件数（司法解剖：94 体、承諾解剖：9 体、生体検査：5 件）

「法医学活動一覧 2000」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

- A. 1. K, mathubara., T, Senda., T, Uezono., T, Awaya., S, OgawaK, K, Shimizu., N, Hayase., K, Kimura : L-Deprenyl prevents the cell hypoxia induced by dopaminergic neurotoxic MPP+ and β -carbolinium a microdialysis study in rats. *Neuroscience Letters* 302(2001)65-68, 2001.
2. Sasaki. M, Dahiya. R : The polymorphisms of various short tandem repeats on the Y chromosome in Japanese and German populations. *Int J Legal Med.* 113(3)181-188, 2000.
3. 水上 創、清水恵子、上園 崇、小川 研人、吉田 将亜、塩野 寛、赤根 敦 : MN式血液型の変異型の解析. *DNA多型* 8、213-221、2000.
4. 赤根 敦、吉村 澄孝、沖井 裕、吉田 学、時安 太久磨、綿引 利充、水上 創、塩野 寛. : MN式血液型M対立遺伝子の解析(2). *DNA多型* 8、222-224、2000.
5. Akane. A, Mizukami. H, Shiono. H : Classification from Standard Alleles of MN Blood Group System. *Vox Sanguinis* 79(3)183-187, 2000.
6. 水上 創、清水恵子、上園 崇、小川 研人、斉藤 修、塩野 寛 : 誤嚥の剖検例 2例. *犯罪学雑誌* 66(4)167-175、2000.
7. Aoyama. K, Matsubara. K, Okada. K, Fukushima. S, Shimizu. K, Yamaguchi. S, Uezono. T, Satomi. M, Hayase. N, Ohta. S, Shiono. H : N-methylation ability for azahetero cyclic amines is higher in Parkinson's disease : nicotinamide loading test. *J Neural Transm* 107, 985-995, 2000.
8. Shimizu. K, Shiono. H, Matsubara. K, Awaya. I, Takahashi. T, Sato. O, Ogawa. K, Mizukami. H, Uezono. T, Akutsu. H : The tissue distribution of lidocaine in acute death due to overdosing. *Legal Med* 2(2)101-105, 2000.
9. 水上 創、高垣 実、清水恵子、高橋 知行、小川 研人、斉藤 修、上園 崇、塩野 寛 : 水中死体の体温降下速度. *法医学の実際と研究.* 43、15-19、2000.
10. 清水恵子、水上 創、小川研人、高橋知行、斉藤 修、吉田将亜、上園 崇、塩野 寛 : 監察医制度のない地域での法医解剖における承諾解剖の必要性—旭川医科大学法医学教室における承諾解剖の統計的観察—. *法医学の実際と研究.* 43、329-337、2000.
- B. 1. 塩野 寛 : 質疑応答 AB型の父親とB型の母親からのO型女子出産. *日本医事新報* No. 3958、98、2000.
2. 清水恵子、塩野 寛 : 質疑応答 紙についての指紋の採取法. *日本医事新報* No. 3997、97-98、2000.
3. 水上 創、吉田 将亜、斉藤 修、小川 研人、上園 崇、清水恵子、塩野 寛 : DNA鑑定の威力. *旭川医科大学研究フォーラム* 1巻、5-11、2000.

4. 清水恵子：書評 法医学—推理する医学—。旭川医科大学研究フォーラム創刊号、105—106、2000.

C. 1. 塩野 寛：生命倫理への招待。PP197、南山堂、2000.

D. 1. 清水恵子：金原一朗記念医療振興財団研究交流助成金報告書 2000.

2. 清水恵子：大和証券ヘルス財団研究助成金報告書 2000.

E. 1. K. Shimizu, K. ohtaki, T. Uezono, N. Hayase, H. Mizukami, K. Matsubara, and H. Shiono : Paraquat penetrates BBB by neutral amino acid transporter and increases extracellular glutamate level. 第74回日本薬理学会年会 (2000. 3) 横浜.

2. K. Matsubara, K. Aoyama, K. Shimizu, N. Hayase, T. Uezono, H. Shiono, S. Kobayashi : Nitration of Mn-SOD in cerebrospinal fluids is a marker for peroxynitrite mediated oxidative stress in neuro-degenerative diseases. 第74回日本薬理学会年会 (2000. 3) . 横浜

3. 清水恵子、斉藤 修、小川研人、水上 創、上園 崇、塩野 寛、松原和夫、大滝康一、早勢伸正：パラコートは脳細胞外液中のグルタミン酸濃度を上昇させる—脳障害の原因か？ 第84次日本法医学会総会 (2000. 4) 和歌山.

4. 清水恵子：検査試料の死後変化。第6回法中毒懇話会 (2000. 4) 和歌山.

5. 水上 創、高垣 実、清水恵子、上園 崇、小川研人、塩野 寛：水中死体の体温降下速度。第84次日本法医学会総会 (2000. 4) 和歌山.

6. 上園 崇、松原和夫、水上 創、清水恵子、小川研人、丸山和子、直井 信、塩野 寛：カルボリンに誘導される細胞死はアポトーシスによるものか？. 第84次日本法医学会総会 (2000. 4) 和歌山.

7. 水上 創、清水恵子、上園 崇、小川研人、塩野 寛：凍死の診断における法医学的研究. 第9回寒圏医学研究会 (2000. 3) 旭川.

8. 清水恵子、大滝康一、小川研人、斉藤 修、水上 創、上園 崇、藤田育志、早勢伸正、松原和夫、塩野 寛：パラコートは中性型アミノ酸能動輸送系を介して血液脳関門を透過し、脳細胞外液中神経伝達物質の濃度を上昇させる。第22回日本中毒学会総会 (2000. 7) 広島.

9. 大滝康一、清水恵子、山下恭範、小川 聡、上園 崇、栗屋敏雄、里実真知子、千葉 薫、早勢伸正、塩野 寛、松原和夫：セフォセリス (ウィンセフ) の血液脳関門透過性—腎不全ラットにおける検討。日本薬学会第120年会 (2000. 4) 岐阜.

10. 大滝康一、清水恵子、鈴木佐恵子、須野 学、栗屋敏雄、上園 崇、斉藤 修、早勢伸正、松原和夫、塩野 寛：新世代β-ラクタム系抗生剤による重篤な意識障害発現機序—解剖に付されることのない薬物中毒死。第1回日本法医学会北日本地方会 (2000. 9) 旭川.

11. 上園 崇、斉藤 修、吉田将亜、小川研人、水上 創、清水恵子、塩野 寛、松

原和夫：父子心中の目的で血糖降下剤（グリベンクラミド）投与とインスリンを注射された女児の解剖例．第1回日本法医学会北日本地方会(2000.9)旭川．

12. K. Shimizu, K. Matsubara, K. Ohtaki, O. Saito, T. Uezono, M. Suno, T. Awaya, N. Hayase, and H. Shiono : Paraquat uptaken into striatal cells by N a + dependent manner increased extracellular glutamate and then induced long- term dopamine efflux. 30th Annual Meeting of Society for Neuroscience (2000. 11) U · S · A.

13. 水上 創、赤根 敦、塩野 寛、吉田将亜、小川研人、斉藤 修、上園 崇、清水恵子：グリコフォリンA遺伝子多型の細検討．第9回DNA多型学会(2000.12)横浜．

F. 鑑定件数（司法解剖：99体、承諾解剖：9体、生体検査：7件、書類鑑定：1件、物体検査：3件、死体検案：184件）

「法医学活動一覧 1999」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

- A. 1. Sasaki, M., Shiono, H. : The polymorphism of DYS 388 and DYS 392 on the Y chromosome in Japanese and German population. *Int J Legal Med*, 112(2), 132-133, 1999.
2. 水上 創, 佐々木雅弘, 上園 崇, 塩野 寛 : Y染色体上に存在する STR の人類遺伝学的考察. *DNA 多型*, 7, 175-177, 1999.
3. Hasegawa, M., Matsubara, K., Fukushima, S., Maseda, C., Uezono, T., Kimura, K. : stereoselective analysis of selegiline metabolites: possible urinary markers for selegiline therapy. *Forensic Scien Int*, 10, 95-106, 1999.
4. 清水恵子, 荒川穰二, 表 哲夫, 岩崎 寛, 塩野 寛, 並木照義 : 偶発性低体温症併発の蘇生右脳症における脳体温療法の検討. *臨床体温*, 17(1), 63-69, 1999.
5. 清水恵子, 斉藤 修, 小川研人, 上園 崇, 佐々木雅弘, 塩野 寛 : 中学生の急死—外因死が疑われたウイルス性心筋炎—. *法医学の実際と研究*, 42, 259-264, 1999.
- B. 1. 塩野 寛 : 道医シリーズ第 39 編 環境と健康 5. 車社会と事故死
2. 塩野 寛 : “人”. 日本医事新報社, No. 3925, 100, 1999.
- C. 1. 塩野 寛 : 法医学. 医学生のための進路ナビ, 114-115, 日本医事新報社, 1999.
- D. 1. 清水恵子 : ベンゾジアゼピン系薬物とアルコールの併用による前向き健忘の神経化学的研究. 秋山財団年報, 1999.
2. 清水恵子 : 薬物とアルコールの併用により生じる前向き健忘の神経化学的研究. ホクサイテック財団研究開発支援事業報告, 1999.
- E. 1. 上園 崇, 松原和夫, 江藤秀顕, 水上 創, 清水恵子, 木村恒二郎, 塩野 寛 : グルタミン酸も NMDA 受容体も MPP⁺により線状体に生じるドパミン神経細胞毒性には無関係. 第 72 回日本薬理学会年会 (H11. 3. 22-25), 札幌, 1999.
2. 松原和夫, 上園 崇, 青山晃治, 清水恵子, 千葉 薫, 早勢伸正, 小林裕太 : ドパミン神経毒である MPP⁺と β カルボリニウムはラット線状体において細胞虚血を誘発し、これはデプレニルによって抑制される. 第 72 回日本薬理学会年会 (H11. 3. 22-25), 札幌, 1999.
3. 水上 創, 清水恵子, 上園 崇, 佐々木雅弘, 福島 亨, 塩野 寛 : 凍死における死体現象の法医学的考察. 第 83 回日本法医学会 (H11. 4. 14-16), 広島, 1999.
4. 上園 崇, 松原和夫, 江藤秀顕, 木村恒二郎, 水上 創, 清水恵子, 塩野 寛 : 一酸化炭素 (CO) 中毒時の淡蒼球細胞外液中グルタミン酸濃度の変化. 第 83 回日本法医学会 (H11. 4. 14-16), 広島, 1999.
5. 高橋節典, 木村恒二郎, 松原和夫, 江藤秀顕, 上園 崇 : 急性パラコート中毒時の肺組織中過酸化脂質濃度へのセルギリンの効果. 第 83 回日本法医学会

- (H11. 4. 14-16), 広島, 1999.
6. 清水恵子, 水上 創, 上園 崇, 福島 亨, 佐々木雅弘, 塩野 寛: いじめによる暴力が死因と疑われた中学生の急死. 第 83 回日本法医学会 (H11. 4. 14-16), 広島, 1999.
 7. 江藤秀顕, 木村恒二郎, 上園 崇, 高橋節典: ラット中大脳動脈閉塞術による一過性脳虚血後の神経細胞死と細胞応答に関する検討. 第 83 回日本法医学会 (H11. 4. 14-16), 広島, 1999.
 8. 大滝康一, 栗屋敏雄, 小川 聡, 里見真知子, 早勢伸正, 松原和夫, 清水恵子, 上園 崇, 塩野 寛: パラコートはアミノ酸輸送系によって血液脳関門を透過するーブレインマイクロダイアリシス法による検討. 日本薬学会第 119 年回 (H11. 3. 22-25), 徳島, 1999.
 9. Shimizu, K., Ohtaki, K., Matsubara, K., Uezono, T., Hayase, N., Mizukami, H., Saito, Y. and Shiono, H. : Neutral Amino Acid Transporter Mediates Blood-Brain Barrier Penetration of Paraquat But Not MPP⁺. Neuroscience 29th Annual Meeting (Oct 23-28, 1999), Miami Beach, Florida, 1999.
 10. 水上 創, 清水恵子, 上園 崇, 小川研人, 佐々木雅弘, 塩野 寛: 誤嚥の剖検例 2 例. 法医学談話会第 86 回例会 (H11. 11. 5-11. 6), 盛岡, 1999.
- F. 鑑定件数 (司法解剖: 75 体, 承諾解剖: 13 体, 生体検査: 2 件, 書類鑑定: 6 件, 親子鑑定: 1 件, 死体検案: 139 件)

「法医学活動一覧 1998」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

- A. 1. Shimizu, K., Matsubara, K., Uezono, T., Kimura, K., and Shiono, H : Reduced dorsolhippocampal correlates glutamate release significantly with the spatial memory deficits produced by benzodiazepines and ethanol . *Neuroscience*, 83 (3) 701-706, 1998
2. 清水恵子, 福島 亨, 佐々木雅弘, 塩野 寛 : 腹部膨満を伴う若い女性の急死—硬便によるイレウスにより死亡した1剖検例—. *犯罪学雑誌*. 64 (2) 41-45, 1998.
3. 清水恵子, 水上 創, 福島 亨, 佐々木雅弘, 塩野 寛 : 凍死の法医学的診断へのCO-オキシメーターの応用. *日本法医学雑誌*, 52 (3), 196-201, 1998.
4. 佐々木雅弘, 清水恵子, 福島 亨, 塩野 寛, 石川睦夫, 藤本征一郎 : STRと関連疾患の遺伝的不安定性. *DNA多型*, 6, 10-12, 1998.
5. 清水恵子, 山陰道明, 土田英昭, 岩崎 寛, 並木昭義 : 帝王切開術後に急性心筋梗塞を発症したSLEおよび抗リン酸脂質抗体症候群の1例. *臨床麻酔*, 22(2), 233-234, 1998.
6. Shimizu, K., Sasaki, M., Fukushima, T. and Shiono, H. : A case of death of a naked female in which dragging injuries were key evidence. *Acta Crim. Japon.* 64 (5), 149-153, 1998.
7. Sasaki, M., Ishikawa, M., Fujimoto, S and Shiono, H. : Several STR markers and their genetic instabilities in some related diseases. *Progress in Forensic Genetics 7 (Proc. 17th Int. ISFH Congress, Oslo, 2-6 September 1997)*, Elsevier, 469-470, 1998.
8. Sasaki, M., Shimizu, K., Fukushima, T., Shiono, H. : Unnecessary surgical operation confirmed by individual identification by a analysis of several short tandem repeat (STR) loci. *Jpn J Legal Med*, 1998, 52 (4), 257-260, 1998.
9. 水上 創, 清水恵子, 佐々木雅弘, 福島 亨, 塩野 寛 : シートベルト損傷の2例. *法医学の実際と研究*, 41, 177-181, 1998.
10. Akikawa, H., Arano, Y., Uezono, T., Ono, M., Fujioka, Y., Uehara, T., Yokoyama, A., Akaji, K., Kiso, Y., Koizumi, M., and Saji H. : Renal metabolism of ¹¹¹In-DTPA-D-Phel-octreotide in vivo. *Bioconjug Chem*, 9(6), 662-670, 1998.
11. Matsubara, K., Senda, T., Uezono, T., Fukushima, S., Ohta, S., Igarashi, K., Naoi, M., Yamashita, Y., Ohtaki, K., Hayase, N., Akutsu, S. and Kimura, K. : Structural significance of azaheterocyclic amines related to Parkinson's disease for dopamine transporter. *Eur J Pharmacol*, 348(1), 77-84, 1998.
12. Matsubara, K., Gonda, T., Sawada, H., Uezono, T., Kobayashi, Y., Kawamura, T., Ohtaki,

- K., Kimura, K and Akane, A: Endogenously occurring beta-carboline induces parkinsonism in nonprimate animals: a possible causative protoxin in idiopathic Parkinson's disease. *J Neurochem*, 70(2). 727-735, 1998.
- B. 1. 塩野 寛: インフォームド・コンセント. *北海道医誌*, 73 (1). 3-36, 1998.
2. 塩野 寛: 車社会の事故死. *北海道医報*, 902, 6-8, 1998.
3. 松原和夫, 清水恵子, 板垣祐一, 笠原直邦, 千葉 薫, 塩野 寛: ベンゾジアゼピンによる前向き健忘は海馬グルタミン酸伝達の低下によって生じる. *最新医学*, 53 (9), 167-173, 1998.
- C. 1. 塩野 寛: 現代の法医学 (改訂第3版増補). 永野耐造, 若林長英 編, ①窒息, 120-131
② 異常環境下における障害, 低温における障害, 211-213, ③ 個人識別, 369-388, 1998.
2. 塩野 寛: 法医学—推理する医学—, 羊土社, 東京, pp142, 1998.
3. 佐々木雅弘, 塩野 寛: STR 解析法 (マイクロサテライト). 川上義和, 谷口直之, 木田厚 瑞 編, 呼吸器疾患の分子生物学, 医学書院, 327-329, 1998.
- D. 1. 塩野 寛: 性染色体上の DNA 多型を用いた個人識別—58 億分の 1 は識別できるか—. *日本医師会医学研究助成報告*, 1998.
- E. 1. 福島 亨, 阿久津弘明, 松原和夫, 清水恵子, 佐々木雅弘, 塩野 寛: 急性イソシアネート中毒の 2 事例. 第 82 次日本法医学会総会 (H10. 4. 16-17), 東京, 1998.
2. 佐々木雅弘, 湯浅 勲, 清水恵子, 福島 亨, 塩野 寛:
3. 佐々木雅弘, 湯浅 勲, 清水恵子, 福島 亨, 塩野 寛: リドカインを用いた嘱託殺人におけるリドカインの体内濃度. 第 82 次日本法医学会総会 (H10. 4. 16-17), 東京, 1998.
4. 水上 創, 清水恵子, 佐々木雅弘, 塩野 寛: シートベルト損傷の 2 例. 法医学談話会, 第 85 回例会 (H10. 11. 6-7), 東京, 1998.
5. 清水恵子, 荒川穰二, 表哲夫, 岩崎 寛, 並木昭義: 偶発性低体温症併発の蘇生後脳症における脳低温療法の経験. 第 13 回北海道臨床体温研究会, 1998.
6. 水上 創, 佐々木雅弘, 塩野 寛: Y 染色体上に存在する STR の人類学的考察. 第 7 回 DNA 多型研究会 (H10. 12. 3-4), 松本, 1998.
7. Uezono, T., Matsubara, K., Eto, H., Ono, K., Chiba, K., Kimura, K: Glutamate and NMDA Receptor do not involved in MPP+ induced Dopamine Release in the Striatum of C57BL / 6Mice. The 28th Society for Neuroscience, Los Angeles, U. S. A., Nov., 1998.
- F. 鑑定件数 (司法解剖: 61 体, 承諾解剖: 7 体, 親子鑑定: 3 件, 書類鑑定: 5 件, 生体検査: 6 件, 死体検案: 110 件)

「法医学活動一覧 1997」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

1997

- A. 1. Shimizu, K., Ohtani, S., Shiono, H., Fukushima, T. and Sasaki, M. : Expression of ubiquitin protein in each organ at death from hypothermia. *Forensic Science Int*, 86(1), 61-68, 1997.
2. Sasaki, M., Shiono, H., Fukushima, T. and Shimizu, K. : Human identification by genotyping of personal articles. *Forensic Science Int*, 90(1,2), 65-75, 1997.
3. 佐々木雅弘, 塩野 寛, 清水恵子, 福島 亨 : 多色ポストラベル法によるDNA多型検索. *法医学の実際と研究*, 40, 29-31, 1997.
4. 清水恵子, 佐々木雅弘, 福島 亨, 塩野 寛 : 有機燐系農薬 DDVP 中毒死の1剖検例—生化学・薬毒物所見を中心に—. *法医学の実際と研究*, 40, 183-187, 1997.
5. 福島 亨, 佐々木雅弘, 清水恵子, 塩野 寛 : サボ付スラグ弾による銃器損傷死の1例. *法医学の実際と研究*, 40, 203-209, 1997.
6. Matsuda, T., Sasaki, M., Kato, H., Yamada, H., Cohen M., Barrett J. C., Oshimura, M. and Wake N. : Human chromosome 7 carries a putative tumor suppressor gene(s) involved in choriocarcinoma. *Oncogene*, 15, 2773-2781, 1997.
7. Sasaki, M., Shiono, H., Shimizu, K. and Fukushima, T. : Several STR loci on Sex Chromosomes. *Advance in Research on DNA Polymorphisms*, 133-134, 1997.
- B. 1. 塩野 寛, 佐々木雅弘, 清水恵子 : 親子鑑定と遺伝子診断. *周産期医学*, 27(1), 47-51, 1997.
- C. 1. 塩野 寛, 永岡正人 : 3P distal monosomy. 阿部達生, 藤田弘子編, 新染色体異常アトラス, pp144-145, 南江堂, 1997.
- D. 1. 塩野 寛 : 高齢者の健康を阻害する病態と機構に関する研究 —高齢者の外因死の分析、研究と予防対策—. 千代田生命健康開発事業団 平成9年度(第44回)社会厚生事業報告, 1997.
2. Sasaki, M., Shimizu, K., Fukushima, T. and Shiono, H. : ABO genotyping of suspects from sperm DNA isolated from the post-coital samples of sexual crimes. *Research reports of the Akiyama foundation*. 6, 74-77, 1997.
- E. 1. 清水恵子, 福島 亨, 佐々木雅弘, 塩野 寛, 松原和夫, 井津智子, 木村恒二郎 : アルコール及びハルシオン併用により生じる健忘の神経化学的機構. 第81次日本法医学会総会 (H9.4.16-18), 鹿児島, 1997.
2. 福島 亨, 佐々木雅弘, 清水恵子, 塩野 寛 : トランク内に閉じ込められた放火殺人の1事例. 第81次日本法医学会総会 (H9.4.16-18), 鹿児島, 1997.
3. 佐々木雅弘, 清水恵子, 福島 亨, 塩野 寛 : STRと関連疾患での遺伝性不安定性. 第81次日本法医学会総会 (H9.4.16-18), 鹿児島, 1997.

4. 塩野 寛：特別講演「DNA多型と個人識別 —58 億分の1の識別は可能か—」.
日本小児科学会北海道地方会 第48回ブロック大会 (H9.8.31) , 札幌, 1997.
 5. 塩野 寛：「インフォームド・コンセント」. 第77回 北海道医学大会総会 シンポジウム (H.9.9.27) , 旭川, 1997.
 6. 佐々木雅弘, 石川睦夫, 藤本征一郎, 塩野 寛：STRと関連疾患での遺伝的不安定性. 第6回 DNA多型研究会 (H9.12.4-5) , 長崎, 1997.
 7. Sasaki, M., Ishikawa, M., Fujimoto, S. and Shiono, H. : Several STR markers and their genetic instabilities in some related diseases. 17th International Congress for Forensic Haematogenetics, Norway, 1997.
 8. Sasaki, M., Ishikawa, M., Fujimoto, S. and Shiono, H. : Genetic Instability of short tandem repeats of the Androgen Receptor Gene in human endometrial carcinoma. 29th annual meeting of the european society of human genetics, Italy, 1997.
- F. 1. 司法解剖：57体, 承諾解剖：14体, 生体検査：8件, 白骨鑑定：1件, 親子鑑定：3件, 書類鑑定：1件, 検屍：98件.

「法医学活動一覧 1996」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

- A. 1. Sasaki, M. and Shiono, H. : ABO genotyping of suspects from sperm DNA isolated from postcoital samples in sex crimes. *J Forensic Scien*, 41(2), 275-278, 1996.
2. Kagawa, M., Matsubara, K., Kimura, K., Shiono, H. and Fukui, Y. : Species identification by the positional analysis of fatty acid composition in triacylglyceride of adipose and bone tissues. *Forensic Scien Int*, 79, 215-226, 1996.
3. Sasaki, M. and Shiono, H. : ABO Genotyping of Sperm DNA Postcoital Samples by the two-step extraction procedure. *DNA 多型*, 4, 228-233, 1996.
4. Shimizu, K., Shiono, H., Fukushima, T. and Sasaki, M. : Paradoxical Undressing in Fatal Hypothermia. *Acta Crimin Japon*, 62(5), 151-155, 1996.
5. Shimizu, K., Shiono, H., Fukushima, T., Sasaki, M., Akutsu, H. and Sakata, M. : Tissue distribution of DDVP after fatal ingestion. *Forensic Scien Int*, 83(1), 61-66, 1996.
6. Sasaki, M., Shiono, H., Shimizu, K. and Fukushima, T. : Personal Identification from a Single Fingerprint by Polymerase Chain Reaction NaI Extraction. *Res Pract Forens Med* 39, 31-33, 1996.
7. 清水恵子, 佐々木雅弘, 福島 亨, 塩野 寛: 頭蓋底輪状骨折の1例. *法医学の実際と研究*, 39, 207-209, 1996.
8. 清水恵子, 福島 亨, 佐々木雅弘, 大谷静治, 塩野 寛: 乗用車運転中の急死 — 交通事故死か内因死か — . *法医学の実際と研究*, 39, 237-241, 1996.
9. 清水恵子, 塩野 寛, 福島 亨, 佐々木雅弘: 凍死の診断 — 凍死における左右心室血の色調差及び Wischnewski 斑について — . *犯罪学雑誌*, 62(6), 157-160, 1996.
10. Sasaki, M., Shiono, H., Shimizu, K. and Fukushima T. : Several STR Loci Sex Chromosomes. *Advances in Research on DNA Polymorphisms. Proceedings of ISFH Hakone Symposium on DNA Polymorphism, Japan*, 133-134, 1996.
11. Sasaki, M., Shimizu, K., Fukushima, T. and Shiono, H. : ABO Genotyping of the suspects using sperm DNA. *Advance in Forensic Haemogenetics*, 6, 322-323, 1996.
- B. 1. 塩野 寛: DNA多型を用いた個人識別 — 法医学試料の戸籍を探して — . *日法医誌*, 50(5), 320-330, 1996.
2. 清水恵子, 塩野 寛: 隣接分野から法を考える. *法医学*, AERA Mook 16, 166-168, 1996.
3. 塩野 寛: 北国のCO中毒死昔話. *メディカル朝日*, 10, 20-21, 1996.

4. 福島 亨, 佐々木雅弘, 清水恵子, 塩野 寛: 凍死時にみられる異常行動について. 寒圏医学, 4, 21-25, 1996.
 5. 清水恵子, 佐々木雅弘, 塩野 寛: Apert 症候群. 循環器症候群IV 日本臨床, 領域別症候群シリーズ, 238-240, 1996.
 6. 佐々木雅弘, 清水恵子, 塩野 寛: 結節性硬化症. 循環器症候群IV 日本臨床, 領域別症候群シリーズ, 320-322, 1996.
- C.
1. 塩野 寛: 身近な法医学. 南山堂, 東京, pp221, 1996.
 2. 塩野 寛: 臨床染色体診断法. ① 染色体異常を伴う個体の皮膚紋理, ②21 トリソミー症候群 (Down 症候群), 古庄敏行 監修・編集, 金原出版, 東京, ① 82-89, ② 465-468, 1996.
 3. 塩野 寛: 法医学者が明かす遺伝の世界. 学陽書房, 東京, p222, 1996.
- D.
1. 塩野 寛: 積雪寒冷地における交通死亡事故の原因についての法医学的研究. 第9回 (平成8年度) 交通・予防医学研究財団助成による研究報告.
 2. 佐々木雅弘: アンドロゲンレセプターエクソン1上のSTRのアリル分析と子宮内膜癌での遺伝的不安定性の分析. 平成8年度原口記念癌研究助成基金報告.
- E.
1. 塩野 寛: (特別講演) DNA多型を用いた個人識別 — 法医学試料の戸籍を探して — . 第80次日本法医学会総会, 京都, 1996.
 2. 佐々木雅弘, 塩野 寛, 清水恵子, 福島 亨: 性染色体上のマイクロサテライト. 第80次日本法医学会総会, 京都, 1996.
 3. 松原和夫, 井津智子, 清水恵子, 高橋節典, 木村恒二郎: エタノールのピオプテリン補因子濃度依存によるトリプトファン水酸化酵素活性の抑制作用. 第80次日本法医学会総会, 京都, 1996.
 4. 佐々木雅弘, 塩野 寛, 清水恵子, 福島 亨: 試料の取り違えが疑われた針生検試料へのマイクロサテライト多型の応用. 第80次日本法医学会総会, 京都, 1996.
 5. 清水恵子, 阿久津弘明, 阪田正勝, 福島 亨, 佐々木雅弘, 塩野 寛: 有機燐系農薬 DDVP 中毒死における体内分布. 第80次日本法医学会総会, 京都, 1996.
 6. 生形和幸, 阪田正勝, 清水恵子, 塩野 寛: リドカイン急速静注による死亡例の臓器分布. 第18回日本中毒学会総会, 高松, 1996.
 7. Sasaki, M., Shiono, H., Shimizu, K. and Fukushima, T. : Several STR Loci on Sex Chromosomes. International Society for Forensic Haemogenetics (ISFH) Hakone Symposium on DNA polymorphisms, August 22-24, Hakone Japan, 1996.
 8. Shimizu, K., Matsubara, K., Idzu, T., Kimura, K. and Shiono, H. : Ethanol and Triazolam may induce cognitive deficits through the inhibition of glutamate transmission in the hippocampus. 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (IAFS), August 26-30, Tokyo Japan, 1996.
 9. Funayama, M., Morita, M., Shimizu, K., Shiono, H., Hiraiwa, K. and Aoki, Y. :

Compact arrangement of myocardial fibers in case of fatal hypothermia. 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (IAFS), August 26-30, Tokyo Japan, 1996.

10. Sasaki, M., Shiono, H., Fukushima, T. and Shimizu, K. : Genetic Instability of the Microsatellites of the Androgen Receptor Gene in human endometrial carcinoma. 46th Annual Meeting The American Society of Human Genetics, October 29 - November 2, San Francisco California, 1996.

F. 1. 司法解剖 : 47 体, 承諾解剖 : 13 体, 親子鑑定 : 2 件, 書類鑑定 : 5 件, 物体鑑定 : 3 件, 生体検査 : 2 件, 検屍 : 68 件.

「法医学活動一覧 1995」の表示方法

- A. 原著論文
- B. 解説, 評論, 総説等
- C. 単行本
- D. 報告, その他(科研費, 財団からの研究費に関する“論文形式”の報告書)
- E. 学会発表 (国際, 全国, 地方の順)
- F. 鑑定件数 (司法解剖, 承諾解剖, モデル事業の解剖, その他の鑑定)

- A. 1. 塩野 寛、佐々木雅弘、福島 亨、清水恵子、三上喜三雄、吉住武晴：外気温氷点下の死体温降下速度についての研究. 犯罪学雑誌, 61(1), 1-5, 1995.
2. 佐々木雅弘、清水恵子、福島 亨、塩野 寛：性染色体上DNAマーカーの解析とその法医学的応用—法医試料からの性別判定と個人識別—. 日法医誌, 49(2), 70-79, 1995.
3. 佐々木雅弘、福島 亨、清水恵子、塩野 寛：PCR-RFLP法を用いた各種法医試料からのABO式血液型判定. DNA多型 3, 297-303, 1995.
4. 佐々木雅弘、塩野 寛、清水恵子、福島 亨：NaI法、PCR-RFLP法を用いた各種試料からのABO式血液型判定. 法医学の実際と研究, 38, 63-67, 1995.
5. 福島 亨、佐々木雅弘、清水恵子、塩野 寛：狩猟用高速ライフル弾による銃器損傷死の1例. 法医学の実際と研究, 38, 279-284, 1995.
- C. 1. 塩野 寛：臨床医のための最新法医学マニュアル. 新興医学出版社, 東京, 221, 1995.
2. 塩野 寛：現代の法医学. 永野耐造・若杉長英 編, 金原出版, 東京, 1995.
1. 窒息 120-131
2. 異常環境下における障害. 低温における障害 211-213
3. 個人識別 369-388
- D. 1. 佐々木雅弘、福島 亨、塩野 寛：性犯罪事例における分離精子DNAからのABO式血液型判定. 第79次日本法医学総会 山形, 日法医誌, 49(補冊), 55, 1995.
2. 塩野 寛、佐々木雅弘、福島 亨：PCR-RFLP法を用いた各種法医試料からのABO式血液型判定. 第79次日本法医学総会 山形, 日法医誌, 49(補冊), 221, 1995.
3. 福島 亨、佐々木雅弘、塩野 寛：潜水病による死亡の1事例. 第79次日本法医学総会 山形, 日法医誌, 49(補冊), 241, 1995.
4. 塩野 寛：シンポジウム「手について考える」皮膚紋理の科学性について. 第38回日本手の外科学会学術集会, 5/18-20, 東京, 1995.
5. 佐々木雅弘、塩野 寛：ABO genotyping of the suspects using their sperm DNA. 第4回DNA多型学会, 高槻, 1995.
6. 佐々木雅弘：ABO genotyping of the suspects using their sperm DNA. 第16回 International Congress for Forensic Haematogenetics, Santiago de compostella, 1995.
- E. 1. 塩野 寛：高齢者の健康を阻害する病態と機構に関する研究—法医学的アプローチと予防対策—. シニアプラン開発機構, 1995.
2. 佐々木雅弘：混合腔内容液から分離した精子DNAを用いたABO式血液型遺伝

子型判定. 秋山記念生命科学振興財団, 1995.

3. 佐々木雅弘: 分離精子からのABO式血液型判定. 伊藤医薬学術交流財団, 1995.

4. 佐々木雅弘: 混合腔内容液から分離した精子DNAを用いたABO式血液型遺伝子型判定. 金原一郎記念医学医療振興財団

F. 1. 司法解剖: 57 体, 行政解剖: 11 体, 親子鑑定: 1 件, 骨鑑定: 2 件, 生体検査: 5 件, 物体検査: 2 件, 書類鑑定: 5 件, 検屍: 68 件.